

日本写真芸術専門学校

科目ガイド

2025

I 部 必修・選択必修科目

I 部 年 組 氏名：

---

## はじめに

この科目ガイドには、日本写真芸術専門学校で開講される各授業の区分、対象、開講期、単位数、講師名、授業計画、授業内容、評価方法等の授業概要が掲載されています。

選択科目の履修計画を立てるときの資料として、また教室内外で学習を進める手がかりとして活用して下さい。

# 科目ガイド 目次

## ■ I 部 1年 必修科目・選択必修科目

p. 1	写真表現演習Ⅰ	倉持 正実/馬場 磨貴
p. 2	写真表現演習Ⅱ	馬場 智行
p. 3	写真表現演習Ⅲ	奥 初起
p. 4	写真撮影基礎演習／フインプリントⅠ	松井 寛泰
p. 5	フォトプレゼンテーション演習Ⅰ	フジモリ メグミ
p. 6	英会話	五十嵐 太二
p. 7	社会学	渡辺 浩平
p. 8	メディア論	関 貴尚
p. 9	現代写真論	鳥原 学
p. 10	画像処理Ⅰ	柳井 隆宏
p. 11	画像処理Ⅱ	芳田 賢明
p. 12	スタジオ演習	林 憲治
p. 13	スタジオ演習	佐藤 和恵
p. 14	スタジオ演習	池谷 友秀
p. 15	ポートレート演習	河野 鉄平
p. 16	ポートレート演習	林 憲治
p. 17	写真表現基礎演習	馬場 磨貴/植田 真紗美
p. 18	写真撮影基礎演習	五十嵐 太二
p. 19	写真撮影基礎演習	松井 寛泰
p. 20	コマーシャル基礎ゼミ	赤坂 トモヒロ
p. 21	ポートレート基礎ゼミ	河野 鉄平
p. 22	ドキュメンタリー基礎ゼミ	鈴木 邦弘
p. 23	フォトクリエイティブ基礎ゼミ	馬場 智行
p. 24	異文化交流演習	藤谷 啓雄
p. 25	フィールドワーク	飯塚 明夫

## ■ ゼミ (2・3年次)

p. 26	総合写真研究ゼミⅠ-A	菅沼 比呂志
p. 27	総合写真研究ゼミⅠ-B	柳本 史歩
p. 28	総合写真研究ゼミⅠ-C	長野 陽一
p. 29	総合写真研究ゼミⅡ-A	鳥原 学
p. 30	総合写真研究ゼミⅡ-B	倉谷 拓朴
p. 31	FW基礎ゼミA	鈴木 邦弘
p. 32	FW基礎ゼミB	飯塚 明夫
p. 33	FWゼミA	鈴木 邦弘
p. 34	フォトアート基礎ゼミ	フジモリ メグミ
p. 35	フォトアートゼミナール	濱田 祐史
p. 36	コマーシャルフォトゼミ	イ キョンソン
p. 37	フォトレタツチゼミ	羽立 孝
p. 38	ファッションポートレートゼミ	倭田 宏樹
p. 39	ブライダルポートレートゼミ	安澤 剛直
p. 40	ライブステージフォトゼミ	中野 敬久
p. 41	ドキュメンタリーフォトゼミ	鈴木 邦弘
p. 42	フォトクリエイティブゼミ	倉持 正実
p. 43	ネイチャーフォトゼミ	飯塚 明夫
p. 44	スポーツフォトゼミ	兼子 慎一郎

## ■ I 部3年制3年次 必修科目

p. 45	画像処理Ⅲ	豊田 直之
p. 46	映像表現論	奥 初起
p. 47	フォローアップ講座	<small>後援団：キャリアセンター・山ノ手写真 安部先生</small>
p. 48	メディア表現論	関 貴尚
p. 49	テクニカルライティング	赤坂 トモヒロ
p. 50	映像制作演習	小島 真也
p. 51	写真読解	坂口 トモユキ
p. 52	フインアート演習Ⅱ	遠藤 麻衣
p. 53	フォトプレゼンテーション演習Ⅱ	篠原 俊之
p. 54	メディア表現演習Ⅲ	田 凱
p. 55	ムービー制作演習	小島 真也
p. 56	画像処理Ⅳ	豊田 直之
p. 57	エディトリアルワーク	泉 美葉子・宮添 浩司
p. 58	文章表現演習Ⅱ	山田 諭
p. 59	ディベート演習Ⅱ	藤山 新

## ■ I 部3年制2年次 必修科目・選択必修科目

p. 60	画像処理Ⅱ	羽立 孝
p. 61	フォトコミュニケーション演習	篠原 俊之
p. 62	スタジオライティング	市川 森一
p. 63	スタジオライティング	赤坂 トモヒロ
p. 64	写真美術史	関 貴尚
p. 65	デザイン演習	松野 正也
p. 66	写真創作演習	志村 賢一
p. 67	フインアート演習Ⅰ/フインプリントⅡ	松井 寛泰
p. 68	フィールドワークプランニング	<small>奥 初起・山下 海</small>
p. 69	ディベート演習Ⅰ	藤山 新
p. 70	近現代アート史	鳥原 学
p. 71	英会話	五十嵐 太二
p. 72	社会学	渡辺 浩平
p. 73	メディア論	関 貴尚
p. 74	写真表現演習Ⅲ	村越 としや
p. 75	メディア表現演習Ⅰ/Web表現演習	須田 拓也
p. 76	メディア表現演習Ⅱ	小島 真也

## ■ I 部2年制2年次 必修科目・選択必修科目

p. 77	画像処理Ⅱ	羽立 孝
p. 78	フォローアップ講座	<small>後援団：キャリアセンター・山ノ手写真 安部先生</small>
p. 79	写真創作演習	馬場 智行
p. 80	取材撮影演習	鈴木 邦弘
p. 81	ポートレートライティング	池谷 友秀
p. 82	スタイルライティング	安澤 剛直
p. 83	スタジオライティング	出水 恵利子
p. 84	ヴィジュアルディレクション	片山 順平
p. 85	ヴィジュアルディレクション	ジェイ メータ
p. 86	映像表現論	奥 初起
p. 87	映像表現論	江澤 勇介
p. 88	写真表現演習	柳本 史歩
p. 89	写真美術史	田 凱

## ■ 特別科目

p. 90	特別WS/NP1ポートフォリオコンペティション
p. 91	海外研修
p. 92	期末審査／進級卒業作品展/卒業作品展
p. 93	就職ガイダンス/オリエンテーション

## ■ 認定科目

p. 94	技能検定/DTP検定/写真関連検定
p. 95	学外写真展/学外公募展/インターン制度

科目名	写真表現演習 I		
開講期	前後期	単位数	6
講師名	倉持 正実・馬場 磨貴		
授業概要	<p>写真を撮る！という行為は、カメラというメカニカルな道具を使い、感性を伴った眼で見た事象を記録・定着させる作業です。写真表現には様々な技法があります。それがどのように表現に関わっていくのかを実習によって学ぶ授業です。他者に伝える意図・撮影の目的を明確にし、映像化する為の基礎を身につける。それがこの授業の柱です。</p> <p>写真も身体表現です。たくさんシャッターを押して、たくさんプリントして、たくさん写真を観ることです。写真に費やした努力を、写真は裏切りません。体で憶えましょう。</p>		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	写真の主題	オリエンテーション/組み写真と単写真について/課題1『他者』発表
	2	カメラワーク	露出・ピント・WBを使った表現を知る/課題1講評
	3	カメラワーク	シャッタースピード・絞りをを使った表現を知る/課題1講評
	4	全体講評	課題1の合評/課題2『三社祭』発表（フレーム・アングル・ディスタンスを意識）
	5	撮影実習	課題2『三社祭』屋外撮影を実施
	6	撮影実習	課題2『三社祭』屋外撮影を実施
	7	全体講評	課題2『三社祭』
	8	全体講評	課題2『三社祭』
	9	講義	構図について/組み写真について
	10	レンズワーク	広角レンズ、望遠レンズを使った表現/課題3『我が町』発表
	11	中間講評	課題3『我が町』“現在”を5枚、“過去”を5枚で構成
	12	中間講評	課題3『我が町』
	13	全体講評	課題3のまとめ
	14	中間講評	前期末中間審査
	15	中間講評	前期末中間審査
後期	1	講義	課題4発表
	2	中間講評	課題4
	3	中間講評	課題4
	4	全体講評	課題4のまとめ
	5	撮影実習	課題5
	6	撮影実習	課題5
	7	全体講評	課題5の合評
	8	全体講評	課題5の合評
	9	講義	課題6発表
	10	中間講評	課題6
	11	中間講評	課題6
	12	全体講評	課題6のまとめ
	13	中間講評	進級審査課題中間審査
	14	中間講評	進級審査課題中間審査
	15	まとめ	進級審査について
評価方法	出席及び熱意 作品の完成度（写真のうまさだけでは評価しない）		
テキスト 参考書	図書館の写真集等		

科目名	写真表現演習Ⅱ			
開講期	前後期		単位数	6
講師名	馬場 智行			
授業概要	この授業では年間4つの作品を制作し、それぞれポートフォリオにまとめて提出してもらいます。作品制作を通して、撮ること・見せること・撮ること・考えることを学んでいきます。継続した撮影と毎回のプリント（オンライン受講生はデータ）の提出によって、撮ることと考えることのスタミナを養います。また提出された写真をもとにディスカッションすることで、自身の作品の言語化を実践的に体験し、見せることの経験を積んでいきます。またディスカッションすることでそれぞれが取り組む作品を掘り下げ、自身とその作品との関わりを探り、より深度を持った作品の制作を目指します。これらを通して作品制作の基本を身につけていきます。			
授業計画	回数	主題・目的	授業予定	
前期	1	オリエンテーション	各自の過去の作品を使って、自己紹介課題1説明	
	2	課題1スタート	各自取り組む企画の発表	
	3	課題1	8～10枚のテーマに沿ったプリントを発表	
	4	課題1	8～10枚のテーマに沿ったプリントを発表	
	5	課題1	8～10枚のテーマに沿ったプリントを発表	
	6	課題1	8～10枚のテーマに沿ったプリントを発表	
	7	課題1	15～20のプリントでポートフォリオ制作に向けたセレクトを検討	
	8	課題1	15～20のプリントでポートフォリオ制作に向けたセレクトを検討	
	9	課題1	15～20のプリントでポートフォリオ制作に向けたセレクトを検討	
	10	課題1提出	これまでのプリントをポートフォリオにまとめたものを講評 課題2の説明	
	11	課題2スタート	各自取り組む企画の発表	
	12	課題2	20～30枚のテーマに沿ったプリントを発表	
	13	課題2	20～30枚のテーマに沿ったプリントを発表	
	14	課題2提出	これまでのプリントをポートフォリオにまとめたものを講評 課題3の説明	
	15	課題3スタート	各自取り組む企画の発表	
後期	1	課題3	テーマに沿ったプリントを発表	
	2	課題3	テーマに沿ったプリントを発表	
	3	課題3	テーマに沿ったプリントを発表	
	4	課題3	テーマに沿ったプリントを発表	
	5	課題3	プリントでポートフォリオ制作に向けたセレクトを検討	
	6	課題3	プリントでポートフォリオ制作に向けたセレクトを検討	
	7	課題3	プリントでポートフォリオ制作に向けたセレクトを検討	
	8	課題3提出	これまでのプリントをポートフォリオにまとめたものを講評 課題4の説明	
	9	課題4スタート	3～5枚のテーマに沿ったプリントを発表	
	10	課題4	プリントでポートフォリオ制作に向けたセレクト	
	11	課題4	プリントでポートフォリオ制作に向けたセレクト	
	12	課題4	プリントでポートフォリオ制作に向けたセレクト	
	13	課題4	プリントでポートフォリオ制作に向けたセレクト	
	14	課題4	プリントでポートフォリオ制作に向けたセレクトを検討	
	15	課題4提出	これまでのプリントをポートフォリオにまとめたものを講評	
評価方法	課題提出、提出頻度、課題内容、出席回数			
テキスト 参考書	必要に応じて随時指定			

2025		区分	必修	対象	I 部3年制1年 3年制
科目名	写真表現演習Ⅱ				
開講期	前後期		単位数	6	
講師名	奥 初起				
授業概要	<p>この授業は、みなさんのクリエイティビティ(創造性)を高めながら作品を制作していきます。年間で五つの課題に対してポートフォリオ（自作の作品集）を制作します。それぞれの被写体や表現方法はディスカッションを行いながら決めていきます。また、様々な表現方法をインプットしていくための実習も行います。カメラマン、フォトグラファー、作家など呼び方はたくさんありますが、共通して必要なことはそれぞれのクリエイティビティです。そして、それを形にしていくための技術と知識だと私は考えています。皆さんが専門的に学んだ（もしくはこれから学ぶ）ことを活かして作品制作を行っていきましょう。授業のスケジュールは、みなさんの作品制作の進行に合わせて変更する場合があります。</p>				
授業計画	回数	主題・目的	授業予定		
前期	1	作品検討	現在までに各自が撮影した写真を持ち寄ったディスカッション/GW課題解説		
	2	講義/実習	GW課題講評/課題①解説/インクジェットプリンターを使ったプリントワーク		
	3	講義/講評	様々な表現方法を知る/課題①作品講評		
	4	作品講評	課題①作品講評		
	5	講評/講義	課題①作品講評/様々な写真集を見る		
	6	作品講評	課題①作品講評		
	7	実習	大判カメラ、中判デジタルカメラを使った撮影		
	8	作品講評	課題①作品講評		
	9	作品講評	ポートフォリオ提出/講評/課題②説明		
	10	実習	Photoshopレタッチ/インクジェットプリンターを使ったプリントワーク		
	11	作品講評	課題②作品講評		
	12	作品講評	課題②作品講評/課題③説明		
	13	作品講評	課題③ポートフォリオ提出、講評、課題④解説		
	14				
	15				
後期	1	講義/講評	様々な写真集を見る/課題④作品講評		
	2	実習/講評	フィルターワークの実習/課題④作品講評		
	3	作品講評	課題④作品講評		
	4	作品講評	課題④作品講評		
	5	作品講評	課題④作品講評		
	6	作品講評	課題④作品講評		
	7	作品講評	課題④作品講評		
	8	作品講評	課題④作品講評		
	9	作品講評	課題④ポートフォリオ提出、講評、課題⑤解説		
	10	講評/講義	課題⑤作品講評/様々な写真集を見る		
	11	作品講評	課題⑤作品講評		
	12	作品講評	課題⑤作品講評		
	13	作品講評	課題⑤作品講評		
	14	作品講評	課題⑤作品講評		
	15	作品講評	課題⑤ポートフォリオ提出、講評		
評価方法	出席回数、課題の提出頻度、課題内容				
テキスト 参考書					

2025		区分	必修	対象	I部3年制1年
科目名	写真撮影基礎演習/ファインプリントⅠ				
開講期	前後期		単位数	6	
講師名	松井 寛泰				
授業概要	基本的な撮影技術からデジタルプリント技術までを総合的に学ぶ授業です。講義と実技を交えながら一つ一つのステップで知識と技術を身につけていきます。最終的にはあらゆる技術を組み合わせて、自分が表現したい写真が撮れるようになる事を目指します。授業の進捗状況により内容を調整する事もあります。				
授業計画	回数	主題・目的	授業予定		
前期	1	ガイダンス	授業内容の説明/カメラの種類と取り扱いについて		
	2	ピント	被写体に合ったピントモードの選択 拡張子の種類		
	3	露出1	絞り、シャッタースピード、ISO		
	4	露出2	適正露出と露出補正 ヒストグラムの見方 トーンカーブ		
	5	絞りの効果	被写界深度		
	6	シャッター	長時間露光と高速シャッター ルミノグラム		
	7	講義	WB 光源の種類と色温度について RAW現像		
	8	プリント	プリント出力 色空間 iccプロファイル カメラプロファイル		
	9	講義	プリントチェック セレクト方法 組み写真		
	10	撮影	街中スナップ/撮影のリズムを掴む テーマを設定してみる		
	11	レンズ色々	焦点距離の違いによる変化/撮像素子サイズとイメージサークル		
	12	講義	プリント出力 プリントチェック 保存方法 後期テーマ設定		
	13	撮影	斜光、逆光の効果を理解する 光の色について		
	14	撮影	フラッシュ撮影1 小型ストロボを使った撮影方法 光の方向		
	15	講評	前期まとめ/3枚組み写真/プリントチェック		
後期	1	講義	前期復習 各自の後期テーマを検討		
	2	撮影	フラッシュ撮影2 小型ストロボ応用編		
	3	撮影	縦位置横位置、正方形、パノラマ 比率による効果		
	4	プリント	プリント出力復習 内容に合った色の表現 組み写真説明		
	5	講義	後期テーマプリントチェック		
	6	構図	水平、垂直、アオリ、平面構成		
	7	撮影	モノクロ撮影 光をテーマに撮影 被写体の形状を意識する		
	8	講義/撮影	フィルター効果 PL ND		
	9	講義	後期テーマプリントチェック テーマに沿った組み写真		
	10	講義	"		
	11	講義	紙の種類 額装と保存、作品の展示方法		
	12	講義/撮影	これまでの授業内容の復習と応用撮影		
	13	講義/撮影	"		
	14	講義	作品提出 組み写真10枚		
	15	講評	作品提出 組み写真10枚		
評価方法	出席回数/課題提出/授業態度				
テキスト 参考書	そのつど紹介します。				

2025		区分	必修	対象	I 部3年制1年
科目名	フォトプレゼンテーション演習 I				
開講期	前後期		単位数	6	
講師名	フジモリ メグミ				
授業概要	<p>この授業では、フォトプレゼンテーション（写真の編集や展示など、作品を見せる方法等）についての、基礎的な知識を身につけることを目指します。</p> <p>年間を通してたくさんの展示会に出向き、実際の会場で展示を見学していきます。展示方法やプリントされた紙の違いによって、作品から受ける印象が変わっていくことを理解できるようにしましょう。</p> <p>また様式研究や額装・パネル張りなどの実習も合わせて行っていきます。8階ウォールギャラリーや校内壁面での展示を通して、意図を正確に伝えることが出来る効果的なプレゼンテーションを学びましょう。</p>				
授業計画	回数	主題・目的	授業予定		
前期	1	ガイダンス	ガイダンス/授業説明/自己紹介		
	2	実習制作	フォトスクラップの制作 持ち物→ノート・雑誌や新聞（スクラップに使用できそうな素材）・のり・はさみ/カッター		
	3	課題発表	フォトスクラップ発表・展示準備 各自5分程度の発表を想定して準備してきてください		
	4	展示作業	フォトスクラップの展示作業		
	5	実習制作	様々な展示方法を学ぶ 対象の展示会を見学①		
	6	↓	レクチャー・マットカッターの使い方 ※各自マットを購入しておいてください		
	7	展示見学	↓・抜き寸の計算方法 ・額装の基本的な知識		
	8	↓	対象の展示会を見学し、展示方法を学ぶ②		
	9	課題	「ディスタンス」をテーマに作品を制作する 5枚提出		
	10	展示見学	対象の展示会を見学し、展示方法を学ぶ③		
	11	課題	「ディスタンス」をテーマに作品を制作する 5枚提出		
	12	実習	額装した作品をつかって釘打ちの実習		
	13	↓	↓		
	14	実習制作	レクチャー→紙の種類によって見え方の変わるプリント・比較		
	15	展示見学	対象の展示会を見学し、展示方法を学ぶ④		
後期	1	実習	↓それぞれのレポートの発表 / ディスカッション		
	2	実習	水張りの方法 ※各自木製パネルとスプレーのりを準備してください□		
	3	展示見学	対象の展示会を見学し、展示方法を学ぶ⑤		
	4	課題	「ディスタンス」をテーマに作品を制作する 10枚提出		
	5	実習制作	作品のpdf化について webで作品を展示する		
	6	展示見学	対象の展示会を見学し、展示方法を学ぶ⑥		
	7	課題	「ディスタンス」をテーマに作品を制作する 10枚提出		
	8	講評	“写真表現演習Ⅱ”の授業で制作した作品をもとに展示プラン等の考察		
	9	↓	展示プランの作成・発表		
	10	↓	展示模型の作成		
	11	↓	展示模型の作成・発表・投票		
	12	実習制作	“写真表現演習Ⅱ”の授業で制作した作品をweb上で発表する		
	13	↓	↓		
	14		選考会・まとめ		
	15	準備	展示会の準備		
評価方法	出席率/授業態度/写真への愛情				
テキスト 参考書	必要な物は事前に連絡します。忘れ物はしないようにしましょう				



科目名	英会話		
開講期	前後期	単位数	6
講師名	五十嵐 太二		
授業概要	英語が話せるようになりたい。英語を使い海外で撮影したい ⇒ 絶対大丈夫！ でも、それにはまず、英語を学ぶことが楽しいと思えることが何よりも大切です。そして地道な努力と覚悟。そのきっかけを見つけてもらうのがこのクラスの目的です。写真を切り口に、とにかく声に出して英語をしゃべってもらいます。恥ずかしいなんて言っているヒマはもうありません！ レベル～中学英語程度（備考：下記内容は学生の習熟度やレベル、その他の状況等によって修正・変更になる場合があります。）		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	ガイダンス	授業説明、英語で自己紹介、写真撮影で使う英語表現
	2	英語総合	屋外実習（訪日外国人旅行者に英語でインタビュー＋写真撮影）第1回目
	3	英語総合	実習の発表会①
	4	英語総合	実習の発表会①
	5	英語総合	屋外実習（訪日外国人旅行者に英語でインタビュー＋写真撮影）第2回目
	6	英語総合	実習の発表会①
	7	英語総合	実習の発表会①
	8	英語総合	海外とオンラインでつなぎ、英語で話してみよう
	9	英語総合	屋外実習（訪日外国人旅行者に英語でインタビュー＋写真撮影）第3回目
	10	英語総合	実習の発表会①
	11	英語総合	実習の発表会①
	12	英語総合	屋外実習（訪日外国人旅行者に英語でインタビュー＋写真撮影）第3回目
	13	英語総合	実習の発表会
	14		
	15		
後期	1	英語総合	後期授業説明、休み期間にやったことを英語で説明する
	2	英語総合	日本や自国のことを英語で紹介できるようにする①
	3	英語総合	屋外実習（訪日外国人旅行者に英語でインタビュー＋写真撮影）第4回目
	4	英語総合	実習の発表会①
	5	英語総合	実習の発表会②
	6	英語総合	ゲストスピーカー
	7	英語総合	写真に英語のタイトルとキャプションをつけて発表する①
	8	英語総合	写真に英語のタイトルとキャプションをつけて発表する②
	9	英語総合	屋外実習（訪日外国人旅行者に英語でインタビュー＋写真撮影）第5回目
	10	英語総合	実習の発表会①
	11	英語総合	実習の発表会②
	12	英語総合	屋外実習（訪日外国人旅行者に英語でインタビュー＋写真撮影）第6回目
	13	英語総合	実習の発表会①
	14	英語総合	実習の発表会②
	15	英語総合	有名な英語スピーチ
評価方法	出席回数、習熟度・理解度、授業態度、自助努力		
テキスト 参考書	授業配布プリント、各自所有の辞書・単語本・熟語本・文法書など		

科目名	社会学		
開講期	前後期	単位数	6
講師名	渡辺 浩平		
授業概要	<p>私たちは日常のなかで「社会的なもの」を生成している。本授業では「社会的なもの」をいかに理解することができるかを考察する。前半は主に社会学の理論や各論を講義する。後半はフィールドワークや、文章、写真、動画等の制作、ディスカッションなどを通じて「社会的なもの」を内側から理解するとはどのようなことかを探究する。本授業の目標は、多様な生き方や価値観を内側から理解し、別の生き方の可能性を想像する力を身につけることである。なお、授業計画は、受講生の数や関心等に応じて変わる可能性がある。</p>		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	はじめに	社会調査法としてのフィールドワーク口
	2	社会学とは	社会・文化とは
	3	社会学とは	社会学的思考と概念
	4	学説史	理論と概念① 方法論的全体論
	5	学説史	理論と概念② 方法論的個人主義
	6	学説史	理論と概念③ 社会的相互行為論
	7	社会調査法	研究テーマと問題意識
	8	各論	集団とは：家族、親族、組織
	9	各論	環境と生活
	10	各論	政治と経済
	11	各論	宗教と世界観
	12	まとめ	前期まとめ
	13	テスト	前期テスト
	14		
	15		
後期	1	社会調査法	参与観察：半構造化インタビュー
	2	社会調査法	参与観察：フィールドノート
	3	社会調査法	参与観察：民族誌
	4	社会調査法	フィールドワーク計画
	5	社会調査法	フィールドワーク計画
	6	社会調査法	フィールドワーク計画
	7	社会調査法	フィールドワークの実施
	8	社会調査法	調査結果の整理・ディスカッション
	9	社会調査法	調査結果の整理・ディスカッション
	10	社会調査法	調査結果の整理・ディスカッション
	11	社会調査法	調査結果の整理・ディスカッション
	12	社会調査法	調査報告
	13	社会調査法	調査報告
	14	まとめ	後期まとめ
	15	テスト	後期テスト
評価方法	前・後期のテストと、授業内課題、授業の参画度などから総合的に評価する。		
テキスト 参考書	授業で配布・指示する。		

科目名	メディア論		
開講期	前後期	単位数	6
講師名	関 貴尚		
授業概要	<p>本授業では、「メディア」について考える。メディアというマスメディアやソーシャルメディアなどが馴染み深いものではあるが、情報を伝達するときに空気のようにまわりついてきて、切り離すことができない要素がメディアである。そのメディアがどんなものなのか理解し、そのメディアによって社会や人々の感情がどのように動かされてきたのか考察する。そのため、本講義では、ファッション、アイドル、戦争、死、政治などを、メディア（新聞、ラジオ、テレビ、インターネットなど・・・）の視点から読み解く。</p> <p>なお、本講義では、グループワークおよびオープンチャット機能を使って、授業中に質問やコメントを募集する場合がある。</p> <p>本講義を履修することによって以下の能力を修得することを目指す。</p> <p>1) メディア特性を知り、自らの制作に活かす。</p> <p>2) メディアという観点から分析・観察する視点を獲得する。□</p>		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	イントロ	「メディア」とは（メディアの概念・種類）
	2	講義	ファッションとメディア 1
	3	講義	ファッションとメディア 2
	4	講義	アイドルとメディア 1
	5	講義	アイドルとメディア 2
	6	講義	SNSというメディア
	7	講義	戦争とメディア 1
	8	講義	戦争とメディア 2
	9	講義	メディアと技術革新
	10	講義	死とメディア
	11	鑑賞	映画『ドントルックアップ』から考える
	12	講義	音楽とメディア
	13	授業内課題	メディアの特性について言語化する
	14		
	15		
後期	1	イントロ	前期の復習（メディアとは）
	2	講義	政治とメディア 1
	3	講義	政治とメディア 2
	4	授業内課題	ジョージ・オーウェル小説『1984年』から考える
	5	講義	スポーツとメディア 1
	6	講義	スポーツとメディア 2
	7	講義	ファンとメディア
	8	講義	恋愛とメディア
	9	講義	メディアと情動
	10	講義	アニメとメディア
	11	講義	アートとメディア 1
	12	講義	アートとメディア 2
	13	講義	差別とメディア
	14	講義	ジェンダーとメディア
	15	授業内課題	メディアに支配されないために
評価方法	授業中の出席回数、授業へのリアクション、提出課題で判断。期日通りの課題提出や発表ができない場合、単位は与えられません。		
テキスト 参考書			

2025		区分	必修	対象	I 部1年
科目名	現代写真論				
開講期	前後期		単位数	6	
講師名	鳥原 学				
授業概要	<p>写真は「撮る」「見る」「撮られる」という三つの要素で成り立っています。より良い写真を「撮る」ために、写真家には写真を「見る」能力と、「撮られる」側のことを考える能力が不可欠。これは、多くの写真を見ることでしか身につけません。それも自分のセンスに頼るだけではなく、ポイントを押さえて考えながら見ること。現代の写真表現は非常に多様であり、使う技術や発表するメディア、なによりテーマの幅が非常に広いからです。この授業ではジャンルごとに現代写真の流れを紹介しながら、資料的な映像の鑑賞などを行い、理解を深めていきます。</p> <p>授業構成は前期が基礎として「表現とコミュニケーション」、後期が「多様な表現」をテーマとしています。テキストとして「教養としての写真全史（筑摩選書）」を使用します。</p>				
授業計画	回数	主題・目的	授業予定		
前期	1	オリエンテーション	オリエンテーション(学校でのワークショップ形式)		
	2		カメラの楽しみを知る(三葉堂写真機店)		
	3		イントロダクション「カメラとこの社会」		
	4		ポートレート「写真の社会的役割」		
	5		ポートレート「理想と現実」		
	6		スナップショット「手軽な写真」		
	7		スナップショット「” 決定的瞬間” 以降」		
	8		ビジュアルコミュニケーションの誕生「1920~30年代の映像実験」		
	9		報道とドキュメント 1「記録と宣伝」		
	10		報道とドキュメント 2「印刷メディアとジャーナリズム」		
	11		ワークショップ(写真集の見方の指南)		
	12		報道とドキュメント 3「フォトジャーナリストの主体化」		
	13		広告写真 1「消費社会の原動力」		
	14		広告写真 2「産業化と社会へのメッセージ」		
	15		広告写真 3「音楽産業の拡大と写真の影響」		
後期	1		芸術と写真①「芸術写真の可能性と限界」		
	2		芸術と写真②「ストレイトフォト」		
	3		写真展観覧		
	4		芸術と写真③「アヴァンギャルド」		
	5		芸術と写真④「日本の「芸術写真」」		
	6		芸術と写真⑤「写真表現と美術館の関係」		
	7		芸術と写真⑥「現代写真の性質」		
	8		ファッションと写真①「ライフスタイルの芸術化」		
	9		ファッションと写真②「多様性の受容」		
	10		写真と身体表現①「ヌード、ネキッド、ポルノ」		
	11		写真と身体表現②「ヌードの変化」		
	12		写真と身体表現③「「きれいな裸」をめぐる」		
	13		ワークショップ(プリントスタディ)		
	14		自然と写真①「写真史のもうひとつの起源」		
	15		自然と写真②「生態観察と文化人類学的視点」		
評価方法	授業アンケートの質と期末のレポート課題。出席回数は厳守。 注意：アンケートや課題に不正（webからのコピペ、他人が書く）が発覚した場合、出席回数の如何にかかわらず落第とします。				
テキスト 参考書	教養としての写真全史（筑摩選書）必須。各自購入すること。				

科目名	画像処理 I		
開講期	前後期	単位数	6
講師名	柳井 隆宏		
授業概要	Macの基本操作の習得と、デジタルカメラでの撮影を通して画像データの扱い方を学びます。主に業界標準の画像処理ソフトAdobePhotoshopとAdobeBridge、AdobeLightroomClassicを使用し、画像データの取り込みとセレクト、トーン調整、ディテール調整、部分補正や合成等の画像処理を理解しインクジェットプリンタによる写真出力の実習を通して作品作りを行います。		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	授業説明	授業内容、課題などの説明。自己紹介。目標を定める。
	2	Macの操作	MacOS、Finderを理解する。画像の取り込み。
	3	デジタルカメラ	デジカメの基本操作、ヒストグラムを理解する。
	4	データ管理	Bridgeによるデータ管理、データの保存。コンタクトシート作成。
	5	プリント	インクジェットプリンタの使用法
	6	Raw現像	Photoshopでのレタッチ。Raw現像。
	7	階調調整	レベル補正、トーンカーブ、色相彩度を使用する。
	8	レイヤー	調整レイヤー、レイヤーを理解する。
	9	部分補正	写真の一部のトーンを補正する。レイヤーマスクを使用する。
	10	画像修正	スタンプツール等を使用し修正する。
	11	授業調整日	作品作成。未履修学生のフォロー。
	12	画像解像度	入力、出力解像度、画素数等を理解する。
	13	プリント	高度なプリント、プロファイルを理解する。
	14	課題作成	前期末課題の作成。
	15	前期まとめ	課題提出。前期のまとめ。
後期	1	後期授業説明	前期課題の講評、後期授業のガイダンス。
	2	選択範囲	様々な選択範囲ツールを使用して画像の一部を補正。
	3	クイックマスク	クイックマスク、ペンタブレットを使用する。合成作品を作成する。
	4	スキャナー	フィルムスキャンしデータ化する。
	5	画像修正	スキャニングした画像データのゴミ取り。
	6	デジタルカメラ	カメラの仕組み、bit数を理解する。
	7	デジカメ撮影	ホワイトバランス、ISO感度、ピクチャースタイルを理解する。
	8	Lightroom	LightroomClassicを使用する。
	9	フィルター	シャープ、ぼかし、その他フィルターを使用する。
	10	ポートレート	フィルターなどを使いこなし、ポートレート写真をレタッチする。
	11	モノクロ表現	カラー画像をモノトーン化する。
	12	色管理	色空間、プロファイル、CMSを理解する。
	13	授業調整日	作品作成。未履修学生のフォロー。
	14	課題提出	後期期末課題提出
	15	課題講評まとめ	後期末課題講評。授業のまとめ。
評価方法	授業の出席回数と授業内課題、期末課題を基本とし学習態度や作成作品のクオリティを考慮する。		
テキスト 参考書	オリジナルテキストをPDFファイルで配布		

2025		区分	必修	対象	I 部1年
科目名		画像処理 I			
開講期	前後期		単位数	6	
講師名	芳田 賢明				
授業概要	業界標準の画像処理ソフトウェアであるAdobe Photoshopを主に用い、写真家・フォトグラファーとして必要な、RAW現像～レタッチ～インクジェットプリントの基本を学びます。撮影データを自らプリントして仕上げていく作業を繰り返し行う中で、画像処理による画づくりの基本的な知識と技術の習得を目指します。				
授業計画	回数	主題・目的	授業予定		
前期	1	写真制作の概要	ワークフロー、写真制作・画像処理の考え方／演習：Mac、Bridge、Photoshopの基本操作		
	2	作業環境を整える	作業環境、機材の選び方、モニターのキャリブレーション、カラー設定、データの管理、レイヤー／演習：写真のセレクト、ゴミ消し		
	3	プリントの概要を把握する	RAW現像やレタッチを考慮した撮影、プリンターについて、用紙について、いろいろなプリントの仕方／演習：プリントしてみる		
	4	デジタル画像を理解する	RAWとJPEGの違い、保存形式、圧縮、画像の仕組み（解像度・ピクセル深度）、階調、ヒストグラム		
	5	RAW現像に慣れ、画づくりを理解する	RAW現像の基本、RAW現像とレタッチの違い、色味・調子・質感、印象と複線、記憶色・忠実色／演習：RAW現像に慣れる		
	6		評価・設計・調整のサイクル／演習：ワークシートを使いながら自己作品でRAW現像～プリントをする、JPEG撮って出しと比較する		
	7		自己作品でRAW現像～プリントをする、JPEG撮って出しと比較する		
	8	色調補正に慣れる	加法混色・減法混色、色相・彩度・明度、トーンカーブの仕組み、色調補正の基本、調整レイヤー／演習：色調補正に慣れる		
	9		ワークシートを使いながら自己作品でRAW現像～レタッチ～プリントをする		
	10	選択範囲に慣れる	選択範囲の取り方・使いどころ／演習：選択操作に慣れる		
	11		選択範囲も使い、ワークシートを使いながら自己作品でRAW現像～レタッチ～プリントをする		
	12	作品を仕上げる	これまでの学びを踏まえて自由作品を仕上げる（随時質疑応答、講義）		
	13		これまでの学びを踏まえて自由作品を仕上げる（随時質疑応答、講義）		
	14	質問・おさらい	講義・演習：質問内容に応じて		
	15	テスト	テスト：習得度の確認		
後期	1	カラーマネージメントを理解する	カラーマネージメントシステムの考え方、仕組み、実践例、観察光源、ワークフローへの応用		
	2	表現を深める	いろいろなRAW現像ソフト／演習：Lightroomの基本操作、ペンタブレットの使い方、ペンタブレットに慣れる		
	3		RAW現像の基本補正以外の活用、モノクロ表現、Photoshopフィルターの活用、プリントの外注について、入稿データ／演習：実践		
	4		演習：自己作品を仕上げる		
	5		演習：自己作品を仕上げる		
	6	ポートレートのレタッチ	肌のレタッチ、質感／演習：実践		
	7		自己作品を仕上げる		
	8	画像合成の実践	同ポジションの合成、切り抜き合成／演習：実践		
	9		自己作品を仕上げる		
	10	画づくりを分析する	演習：好きな写真家の画づくりを分析・真似てみる		
	11	画像・プリントのみきわめ	講義：画像やプリントの不良・劣化のみきわめ／演習：仕上げ実践		
	12	作品を仕上げる	演習：これまでの学びを踏まえて自由作品を仕上げる（随時質疑応答、講義）		
	13		演習：これまでの学びを踏まえて自由作品を仕上げる（随時質疑応答、講義）		
	14	質問・おさらい	講義・演習：質問内容に応じて		
	15	テスト	テスト：習得度の確認		
評価方法	出席、授業内課題、期末テストをベースに、授業への取り組み、作品の完成度を加味して評価します。				
テキスト参考書	適宜指示します。				

科目名	スタジオ演習		
開講期	前後期	単位数	6
講師名	林 憲治		
授業概要	全ての写真は光と影で写ります。その光と影を自由にコントロールすることで自らの写真撮影に繋がり思い通りの表現が出来るようになります。この授業ではカメラの使い方は勿論のこと光源の大きさや方向で写り方が変化することを基本的にスタジオ内で学びます。		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	カメラについて	デジタルカメラの使い方、フィルムカメラの種類と概要
	2	光について	光源の大きさと光源の位置変化の違い
	3	露出計について	光をコントロールするために必要な露出計の使い方
	4	大型ストロボ	取り扱い方法
	5	大型ストロボ	各自のデジタルカメラで撮影
	6	中判デジタルカメラ	人物撮影 1灯使用
	7	中判デジタルカメラ	人物撮影 2灯使用
	8	4X5カメラ	アオリ等を含めた使い方の説明
	9	調整日	
	10	調整日	
	11	デジタルカメラ	クリップオンストロボの使い方
	12	デジタルカメラ	カメラを撮影
	13	デジタルカメラ	カメラを撮影
	14	パソコン	パソコンで画像処理
	15	予備日	
後期	1	デジタルカメラ	各自好きな物を撮影
	2	デジタルカメラ	黒デコラ板を使って撮影
	3	デジタルカメラ	黒デコラ板を使って撮影
	4	デジタルカメラ	水のペットボトルを撮影
	5	デジタルカメラ	水のペットボトルを撮影
	6	デジタルカメラ	ガラスの撮影
	7	デジタルカメラ	ガラスの撮影
	8	デジタルカメラ	人物撮影 バストアップ
	9	デジタルカメラ	パソコンで画像処理
	10	デジタルカメラ	人物撮影 全身
	11	デジタルカメラ	モデルの撮影
	12	デジタルカメラ	見本からライティングを読み出して再現する
	13	デジタルカメラ	見本からライティングを読み出して再現する
	14	デジタルカメラ	見本からライティングを読み出して再現する
	15	予備日	
評価方法	出席状況、課題、授業態度等		
テキスト 参考書			

2025		区分	必修	対象	I 部2年制2年
科目名		スタジオ演習			
開講期	前後期		単位数	6	
講師名	佐藤 和恵				
授業概要	スタジオ演習ではプロを志す人が撮影において必要となる、基本的な光の種類やライティング・撮影までのプロセスを1年生で覚えなければならない基礎的な知識と技術を中心に、順序立てて学んでいきます。実習では撮影機材の種類から使い方までを年間を通じて学習し、自分自身の写真表現に結びつく、フレームワーク・ライティング方法・露光の調整・イメージ作りなどを実習を通して身に付けていきます。生徒一人一人が興味の持てる授業内容にし、個々の相談にも対応していきます。				
授業計画	回数	主題・目的	授業予定		
前期	1	オリエンテーション	年間説明、カメラの使い方、カメラの種類		
	2	写真基礎①	撮影に必要な基礎的な知識の説明①		
	3	写真基礎②	撮影に必要な基礎的な知識の説明②		
	4	スタジオ機材の扱い方①	スタジオ撮影に使用する機材の種類と説明		
	5	スタジオ機材の扱い方②	大型ストロボの使い方		
	6	光について①	露出計を使用した露出の考え方		
	7	光について②	光の種類を知って、光をコントロールする①		
	8	光について③	光の種類を知って、光をコントロールする②		
	9	光について④	光の質感について①		
	10	光について⑤	光の質感について②		
	11	撮影環境を整える	撮影環境の整え方、テザー撮影について		
	12	商品撮影の種類①	商品撮影の種類とその方法①		
	13	商品撮影の種類②	商品撮影の種類とその方法②		
	14	商品撮影の種類③	商品撮影の種類とその方法③		
	15	前期のまとめ	前期のまとめ、スタジオ演習授業内テスト		
後期	1	イメージを表現する①	シズル感の表現とイメージ構成 スイーツ編①		
	2	イメージを表現する②	シズル感の表現とイメージ構成 スイーツ編②		
	3	イメージを表現する③	朝ごはん編		
	4	クリップオンストロボ①	クリップオンストロボ 基礎編		
	5	クリップオンストロボ②	クリップオンストロボ 応用編		
	6	イメージを表現する④	化粧品編① 映り込み		
	7	イメージを表現する⑤	化粧品編② シズル		
	8	イメージを表現する⑥	靴編		
	9	合成を考えた撮影①	合成を前提とした撮影を考える		
	10	合成を考えた撮影①	合成を前提とした撮影を考える		
	11	広告制作①	グループに分かれての広告制作①		
	12	広告制作②	グループに分かれての広告制作②		
	13	広告制作③	グループに分かれての広告制作③		
	14	広告制作④	グループに分かれての広告制作④		
	15	後期のまとめ	後期のまとめ、スタジオ演習 授業内テスト		
評価方法	各実習製作に於ける提出作品、理解力、積極性、授業態度による絶対評価				
テキスト 参考書					



科目名	スタジオ演習			
開講期	前後期		単位数	6
講師名	池谷 友秀			
授業概要	全ての写真は光と影で写ります。その光と影を自由にコントロールすることで自らの写真撮影に繋がり思い通りの表現ができるようになります。この授業ではカメラの使い方は勿論のこと光源の大きさや方向で写り方が変化することを基本的にスタジオ内で学びます。後期では企画書を作り実現する段取りを学びます。			
授業計画	回数	主題・目的	授業予定	
前期	1	オリエンテーション	年間説明、カメラの使い方、カメラの種類	
	2	写真基礎①	撮影に必要な基礎的な知識の説明①	
	3	写真基礎②	撮影に必要な基礎的な知識の説明②	
	4	機材の扱い	スタジオ撮影に使用する機材の種類と説明	
	5	機材の扱い	大型ストロボの使い方	
	6	ライティン	露出計を使用した露出の考え方	
	7	ライティン	光の種類を知って、光をコントロールする①	
	8	ライティン	光の種類を知って、光をコントロールする②	
	9	ライティン	光の質感について①	
	10	ライティン	光の質感について②	
	11	撮影環境を整える	撮影環境の整え方、テザー撮影について	
	12	商品撮影の種類	商品撮影の種類とその方法①	
	13	商品撮影の種類	商品撮影の種類とその方法②	
	14	商品撮影の種類	商品撮影の種類とその方法③	
	15	前期のまとめ	前期のまとめ、スタジオ演習授業内テスト	
後期	1	フード撮影	フード撮影	
	2		フード撮影 2	
	3	透過光	瓶、ボトル 撮影	
	4	素材感	アクセサリー	
	5		アクセサリー イメージ	
	6		カメラを撮影	
	7		革ジャケット	
	8	応用	撮影したいイメージ写真を持参して撮影	
	9		撮影したいイメージ写真を持参して撮影	
	10	モデル撮影	モデル撮影 ライティング	
	11		モデル撮影 ライティング	
	12	自主企画	企画書 作成	
	13		テスト撮影	
	14		撮影本番	
	15		作品提出	
評価方法	授業中の積極性と提出物			
テキスト 参考書				

2025		区分	必修	対象	I 部1年
科目名	ポ ー ト レ ー ト 演 習				
開講期	前後期		単位数	6	
講師名	河野 鉄平				
授業概要	この授業では、主にスタジオにおけるポートレート撮影に必要な基礎的なスキルを学んでいきます。スタジオ内の機材の正しい使い方から、効果的なライティングの生み出し方まで、幅広く知識を深めていきます（時々、屋外でも撮影を行います）。また、ポートレート撮影では、被写体となる目の前の人物とのコミュニケーションも非常に大事な要素です。人物との対峙の仕方、表現が変わります。”人を撮るとはどういうことなのか”にも触れながら、授業を展開していきます。				
授業計画	回数	主題・目的	授業予定		
前期	1	授業の説明	オリエンテーション/スタジオ機材の使い方/バック紙のセットの仕方/カメラレンズの基礎		
	2		露出計の使い方/クリップオンストロボの使い方/センチュリースタンドの使い方		
	3		自然光からポートレートライティングを考える/屋外撮影		
	4		イメージに合わせてコミュニケーションを取る/紗幕ライティング/天井パウンス		
	5		モデリングライトで光を見る/ズームリフレクターの使い方		
	6		1灯ライティング（角度、高さ）		
	7		1灯ライティング（距離）		
	8		1 灯ライティング（光の広がり方、ホットスポット、グリッド）		
	9		そのとき光は一体どう巡っているのか ～ハード系リフレクターで学ぶ～		
	10		ソフトボックスを使った1灯ライティング（ソフトボックスの使い方）		
	11		ソフトボックスを使った1灯ライティングその2（フェザリング、反射板を使う）		
	12		アンブレラを使った1灯ライティング（アンブレラの使い方）		
	13		オパライトを使ったライティング（オパライトの使い方）		
	14		身近な人を題材にライティングで魅せる1		
	15		身近な人を題材にライティングで魅せる2		
後期	1		多灯ライティングの考え方/トップライト/アクセントライトの演出		
	2		背景を意識したライティング1（バックライト、カラーバック紙への対応）		
	3		背景を意識したライティング2（グラデーション）		
	4		光量のバランス、クラムシェルライティングその1		
	5		クラムシェルライティングその2		
	6		光を回すライティング/切るライティング		
	7		全身を写すためのライティング		
	8		バック飛ばし1		
	9		バック飛ばし2		
	10		逆光で柔らかい光を作る		
	11		硬い光と柔らかい光のミックス光で撮る 1		
	12		硬い光と柔らかい光のミックス光で撮る 2		
	13		モデル撮影のための準備		
	14		モデル撮影		
	15		写真講評 まとめ		
評価方法	能動的、自主的に授業に参加しているか クリエイティブな発想で作品づくりを行えているか				
テキスト 参考書					

2025		区分	必修	対象	I 部1年
科目名	ポォートレート演習				
開講期	前後期		単位数	6	
講師名	林 憲治				
授業概要	<p>この授業では人をどのように撮影すれば良いのかを学んで行きます。 光の使い方、光源の大きさなど、思い通りの写真が撮れるようにライティングを学びます。 人に対してどのようなタイミングでシャッターを切れば良いのかを体験し身につけることと、普段何気なく見ている写真から光を読み出せる様になればそのライティングを再現できるようになります。</p>				
授業計画	回数	主題・目的	授業予定		
前期	1	実習	光源の方向と大きさの変化 露出計の使い方		
	2	実習	1灯ライティング 大型ストロボの使い方 露出計の使い方 バストアップ撮影		
	3	実習	1灯ライティング レフ板を使用 バストアップ撮影 背景の明るさコントロール		
	4	実習	2灯ライティング バストアップ撮影		
	5	実習	2灯ライティング 黒バック バストアップ撮影		
	6	実習	3灯ライティング 全身撮影		
	7	実習	3灯ライティング 全身撮影 エッジの変化		
	8	実習	LEDを使用する		
	9	実習	LEDを使用しシャッター速度の変化を確認する		
	10	実習	3灯ライティング、バストアップの撮影		
	11	実習	横からのライティング、バックの明るさのコントロール		
	12	実習	横からのライティング、バックの明るさのコントロール		
	13	実習	モデルの撮影		
	14	実習	前期の復習		
	15	実習	前期の復習		
後期	1	実習	1灯ライティング、面光源 バストアップ		
	2	実習	1灯ライティング、面光源 全身		
	3	実習	自由にライティング		
	4	実習	屋外撮影 レフ板を使って撮影		
	5	実習	復習・作品撮影		
	6	実習	6人程度のグループ分けをして、各班で見本になる写真からライティングを読み出し、スタジオで再現していきます。普段見ている人物写真の中で好きなライティングを各自パソコンやスマートフォンに保存して下さい。		
	7	実習			
	8	実習			
	9	実習			
	10	実習	復習・作品撮影		
	11	実習	復習・作品撮影		
	12	実習	モデルの撮影		
	13	実習	復習・作品撮影		
	14	実習	後期の復習		
	15	実習	後期の復習		
評価方法	出席状況、課題、授業態度等				
テキスト 参考書					

科目名	写真表現基礎演習			
開講期	前後期		単位数	6
講師名	馬場 磨貴・植田 真紗美			
授業概要	写真を撮る！という行為は、カメラというメカニカルな道具を使い、感性を伴った眼で見た事象を記録・定着させる作業です。写真表現には様々な技法があります。それがどのように表現に関わっていくのかを実習によって学ぶ授業です。他者に伝える意図・撮影の目的を明確にし、映像化する為の基礎を身につける。それがこの授業の柱です。 写真も身体表現です。たくさんシャッターを押して、たくさんプリントして、たくさん写真を観ることです。写真に費やした努力を、写真は裏切りません。体で憶えましょう。			
授業計画	回数	主題・目的	授業予定	
前期	1	写真の主題	オリエンテーション/組み写真と単写真について/課題1『他者』発表	
	2	カメラワーク	露出・ピント・WBを使った表現を知る/課題1講評	
	3	カメラワーク	シャッタースピード・絞りをを使った表現を知る/課題1講評	
	4	全体講評	課題1の合評/課題2『三社祭』発表（フレーム・アングル・ディスタンスを意識）	
	5	撮影実習	課題2『三社祭』屋外撮影を実施	
	6	撮影実習	課題2『三社祭』屋外撮影を実施	
	7	全体講評	課題2『三社祭』	
	8	全体講評	課題2『三社祭』	
	9	講義	構図について/組み写真について	
	10	レンズワーク	広角レンズ、望遠レンズを使った表現/課題3『我が町』発表	
	11	中間講評	課題3『我が町』“現在”を5枚、“過去”を5枚で構成	
	12	中間講評	課題3『我が町』	
	13	全体講評	課題3のまとめ	
	14	中間講評	前期末中間審査	
	15	中間講評	前期末中間審査	
後期	1	講義	/課題4発表	
	2	中間講評	課題4	
	3	中間講評	課題4	
	4	全体講評	課題4のまとめ	
	5	撮影実習	課題5『〇〇一日』屋外撮影を実施	
	6	撮影実習	課題5『〇〇一日』屋外撮影を実施	
	7	全体講評	課題5の合評	
	8	全体講評	課題5の合評	
	9	講義	/課題6発表	
	10	中間講評	課題6	
	11	中間講評	課題6	
	12	全体講評	課題6のまとめ	
	13	中間講評	進級審査課題中間審査	
	14	中間講評	進級審査課題中間審査	
	15	まとめ	進級審査について	
評価方法	出席及び熱意 作品の完成度（写真のうまさだけでは評価しない）			
テキスト 参考書	図書館の写真集等			

科目名	写真撮影基礎演習		
開講期	前期	単位数	3
講師名	五十嵐 太二		
授業概要	<p>写真を通して人に何かを伝えるには、被写体の状態を的確に捉え、最適な機材の選択と設定が必要になります。この授業は表現そのものではなく、自分が伝えたい内容表現するための基本的な撮影技術、カメラやレンズなど機材の特性を理解すること、そして将来、様々な分野に進むために不可欠となる技術的土台を作ることを目的とします。</p>		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	カメラの点検	オリエンテーション。カメラの点検法・実写
	2	カメラの仕組み	一眼レフの仕組みと特性・写真の三大失敗
	3	露出① 絞り	適正露出、絞りの表現効果、被写界深度
	4	露出② シャッター	シャッタースピードの効果、相反則
	5	露出③	EV、露出補正、ヒストグラムの見方
	6	フラッシュ①	同調速度、GN、調光、ストロボを使用した様々な撮影法
	7	フラッシュ②	同調速度、GN、調光、ストロボを使用した様々な撮影法
	8	画面構成①	構図、画面構成（アングル、ポジション、ディスタンス）
	9	画面構成②	レンズの効果・画角とパース・焦点距離、前期のまとめ
	10	作品講評	撮影技術の基礎を確認
	11	写真用品解説	フィルターの種類と使い方、三脚の使用法と選び方
	12	光源と色①	光の種類、ライティングポジション（順光、逆光、斜光etc）
	13	光源と色②	デジタルカメラの特性、WBの解説
	14	撮影マナー	撮影時のマナーやルール
	15	まとめ	不明点等をクリアにする
後期	1		
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
評価方法	出席、習熟度、課題作品、授業態度などを総合的に評価。		
テキスト 参考書	授業配布プリント		

2025		区分	必修	対象	I 部2年制1年
科目名		写真撮影基礎演習			
開講期	前期		単位数	3	
講師名	松井 寛泰				
授業概要	写真を撮影するために必要な基礎技術を学んでいきます。 講義と実技を交えながら一つ一つのステップで確実に撮影技術を身につけていきます。 最終的にはあらゆる技術を自由に組み合わせて、自分が表現したい写真が撮れるようになる事を目指します。				
授業計画	回数	主題・目的	授業予定		
前期	1	授業ガイダンス	授業内容の説明／カメラの種類と取扱いについて		
	2	ピントについて	被写体に合ったピントモードの選択		
	3	露出について	絞り、シャッタースピード、ISO		
	4	露出について	適正露出と露出補正		
	5	絞りの効果	被写界深度		
	6	シャッタースピードの効果	長時間露光、高速シャッターの効果		
	7	ホワイトバランス	光源の種類と色温度について		
	8	レンズ	焦点距離の違いによる表現の変化 撮像素子サイズとイメージサークル		
	9	フレーミング	縦位置横市の効果 背景の注意点/50mm撮影		
	10	記録形式と色空間	画像記録形式の種類と特徴 色空間の種類と特徴		
	11	小型ストロボ撮影	小型ストロボを使った撮影方法1		
	12	小型ストロボ撮影	小型ストロボを使った撮影方法2		
	13	モノクロ撮影	モノクロ撮影で形と光を意識した撮影		
	14	写真の展示方法	プリントと用紙、額装		
	15	講評	まとめ		
後期	1				
	2				
	3				
	4				
	5				
	6				
	7				
	8				
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				
評価方法	出席、習熟度、課題作品、授業態度などを総合的に評価。				
テキスト 参考書	授業配布プリント				

2025		区分	必修	対象	I 部2年制1年 選択者
科目名	コマーシャル基礎ゼミ				
開講期	後期		単位数	3	
講師名	赤坂 トモヒロ				
授業概要	<p>はじめてのスタジオ商品撮影 ー ライティングと構図の基礎を学ぼう ー</p> <p>この授業では、スタジオでの商品撮影の基本をわかりやすく学びます。撮影機材の使い方、背景や構図の工夫など、はじめての人でも安心して取り組める内容です。実際に静物などの撮影をしながら、被写体の魅力をしっかりと伝える撮り方を体験します。授業のねらい：スタジオ撮影に必要な機材名や使い方を学ぶ シンプルなライティングできれいに撮る方法を学ぶ 構図を考えて、見やすく伝わる写真を撮る力をつける 商品の良さが伝わる写真の考え方を体験する。</p>				
授業計画	回数	主題・目的	授業予定		
前期	1				
	2				
	3				
	4				
	5				
	6				
	7				
	8				
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				
後期	1	オリエン他	授業概要の説明等。学生の習熟度をみるために簡単な撮影を実施。		
	2	デモ撮影	缶コーヒーの切り抜き撮影を講師が実演しながら撮影の流れ等を説明。		
	3	切り抜き基礎1	缶コーヒーの切り抜き撮影を通じてメインライト、サブライト、レフ板の意味や使い方を学ぶ。		
	4				
	5				
	6	切り抜き基礎2	チューブの切り抜き撮影を通じて缶との違いと、エッジの黒シメ処理を学ぶ。		
	7				
	8				
	9	切り抜き基礎3	ペットボトルや酒瓶など、透過物を撮影方法を学ぶ。		
	10				
	11	角版と切り抜きの応用	角版撮影と、角版で撮影した商品を別途切り抜き撮影して合成する手法を学ぶ。		
	12				
	13				
	14	課題撮影	講師の提示する課題作品を模写する		
	15				
評価方法	出席および都度の課題				
テキスト 参考書					

2025		区分	必修	対象	I部1年 選択者
科目名	ポォートレート基礎ゼミ				
開講期	後期		単位数	3	
講師名	河野 鉄平				
授業概要	基礎的な人物スタジオワークを学ぶポォートレート演習の授業を補完する役割となるゼミです。ポォートレート撮影の基礎をより多角的な視点で深めていきます。モデル撮影実習は2度あります。人物撮影のためのテクニックに加え、人物と対峙することの大切さを共に学んでいきます。				
授業計画	回数	主題・目的	授業予定		
前期	1				
	2				
	3				
	4				
	5				
	6				
	7				
	8				
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				
後期	1	スタジオワークの確認/ショートとブロードライティングの実践			
	2	色を合わせるワークフロー			
	3	環境光下の撮影と日中シンクロ1			
	4	環境光下の撮影と日中シンクロ2			
	5	課題に合わせた多灯ライティングの実践			
	6	モデル撮影のための準備			
	7	モデル撮影			
	8	写真講評			
	9	カラーフィルターを使ったライティングの基礎			
	10	反射、映り込み、プロジェクターを使ったライティング			
	11	定常光ライトを組み合わせるライティング1			
	12	定常光ライトを組み合わせるライティング2			
	13	モデル撮影のための準備			
	14	モデル撮影			
	15	写真講評　まとめ			
評価方法	能動的、自主的に授業に参加しているか クリエイティブな発想で作品づくりを行っているか				
テキスト 参考書					



2025		区分	必修	対象	I 部2年制1年 選択者
科目名	ドキュメンタリー基礎ゼミ				
開講期	後期		単位数	3	
講師名	鈴木 邦弘				
授業概要	2年次のゼミ選択に向けて、自分の適正を図るためのプレゼミとなる授業です。 現在のドキュメンタリー写真は、ルポルタージュ写真（フォトジャーナリズム）だけではなく、写真の美しさだけ見ればまるでアート写真のような作品が沢山あります。実際、アートとドキュメンタリーが非常に接近し、その境界もあいまいになっています。しかし、そのテーマは社会性を意識したものが多く、複雑な現代の時代性をいかに撮り込むかと多くの写真家たちが悪戦苦闘しています。この授業では、前半5回の授業で1950年代から現在までの写真の大きな流れを写真集をみて学びます。その後、自分で決めたテーマを撮影してもらい、合評の時にテーマにそった制作途中の作品を提示し、作品に対する意見を内容と形式の両面から全員で検討し、そこでの意見を参考に再撮してもらいます。このようなことを繰り返し、最終的には15枚から20枚の作品を提出してください。成績は作品の点数で決定します。				
授業計画	回数	主題・目的	授業予定		
前期	1				
	2				
	3				
	4				
	5				
	6				
	7				
	8				
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				
後期	1	授業説明	授業内容、授業予定、テーマ相談など。		
	2	写真集	1950年代 パブリックな視線からプライベートな視線へ		
	3	写真集・発表	1960年代 コンテンポラリー、ニュードキュメンツ・テーマ発表		
	4	写真集	1970年代 ニューカラー、ニューとポグラフィ、タイポロジーの写真家たち		
	5	写真集	1980・90年代 メイキングフォト、プライベートフォトの写真家たち		
	6	写真集	2000年代 ドキュメンタリー写真の現在		
	7	合評	テーマにそった制作途中の作品を持参する。		
	8	合評	テーマにそった制作途中の作品を持参する。		
	9	合評	テーマにそった世咲く途中の作品を持参する。		
	10	合評	テーマにそった制作途中の作品を持参する。		
	11	合評	テーマにそった制作途中の作品を持参する。		
	12	合評	テーマにそった制作途中の作品を持参する。		
	13	合評	テーマにそった制作途中の作品を持参する。		
	14	合評	テーマにそった制作途中の作品を持参する。		
	15	作品審査	シリーズにした作品15から20枚を提出すること（完成した作品）採点を行う		
評価方法	授業の提出作品の採点の結果を評価とする。出席状況も考慮します。				
テキスト 参考書					

科目名	フォトクリエイティブ基礎ゼミ		
開講期	後期	単位数	3
講師名	馬場 智行		
授業概要	この授業では後期を通して二つ作品を制作し、それらをポートフォリオにまとめてもらいます。制作を通して、撮ること、見せること、自分の作品を言語化すること、毎週の講評とディスカッションを通してこれを繰り返し、作品制作のノウハウを実践的に身に付けていきます。また仲間の作品と写真集を見て、ディスカッションすることで、写真による表現について考察し、その理解を深めていきます。1年次における作品制作の基礎固めと、表現力と想像力を鍛えることがこの授業の目的です。		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1		
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
後期	1	企画発表	各自取り組むテーマの検討
	2	作品検討	3～5枚のテーマに沿ったプリントを発表・検討
	3	作品検討	3～5枚のテーマに沿ったプリントを発表・検討
	4	作品検討	3～5枚のテーマに沿ったプリントを発表・検討
	5	作品検討	8～10枚のテーマに沿ったプリントを発表・検討
	6	作品検討	8～10枚のテーマに沿ったプリントを発表・検討
	7	作品検討	8～10枚のテーマに沿ったプリントを発表・検討
	8	課題提出	これまでのプリントをポートフォリオにまとめたものを提出
	9	企画発表	各自取り組むテーマの発表
	10	作品検討	3～5枚のテーマに沿ったプリントを発表・検討
	11	作品検討	3～5枚のテーマに沿ったプリントを発表・検討
	12	作品検討	8～10枚のテーマに沿ったプリントを発表・検討
	13	作品検討	8～10枚のテーマに沿ったプリントを発表・検討
	14	作品検討	8～10枚のテーマに沿ったプリントを発表・検討
	15	課題提出	これまでのプリントをポートフォリオにまとめたものを提出
評価方法	課題提出、提出頻度、課題内容、出席回数		
テキスト 参考書	必要に応じて随時指定		

2025		区分	必修	対象	I 部1年留学生
科目名	異文化交流演習				
開講期	前後期		単位数	6	
講師名	藤谷 啓雄				
授業概要	1. 日本の生活習慣への理解や適応するための知識を深める。 2. 日本の文化やビジネスマナーの基礎を学ぶ。 3. 第一線で活躍する写真家との対談を通じて実践的見識を深める。 4. 自国と日本の社会文化の相違点を分析して考察する。 5. 個別発表および母語が異なるメンバー構成でのグループ発表を行い、質疑応答を通じて価値観の違いを尊重しつつ、協調性や責任感を醸成する。				
授業計画	回数	主題・目的	授業予定		
前期	1	自己紹介の基本	自己紹介、日本文化の理解		
	2	面接法、異文化理解	日本の日常生活で気をつけること 面接の受け方 異文化理解		
	3	読解 (1)	日本語を読む		
	4	読解 (2)	日本語を読む		
	5	写真家から学ぶ	外部講師によるトークと質疑応答		
	6	レポート技法	レポートの書き方		
	7	レポート実践	レポートの書き方		
	8	グループ研究	リサーチ方法学習、研究テーマの決定、		
	9	グループ研究	中間発表とフィードバック		
	10	グループ研究	中間発表とフィードバック		
	11	グループ研究	研究発表の準備、資料作成		
	12	グループ研究	研究発表		
	13	グループ研究	研究発表		
	14	グループ研究	研究発表		
	15		まとめ 授業の振り返りと総括、フィードバック		
後期	1	個別研究	研究発表の準備、発表方法の学習		
	2	個別研究	研究発表 (1人10分、質疑応答4分)		
	3	個別研究	研究発表 (1人10分、質疑応答4分)		
	4	個別研究	研究発表 (1人10分、質疑応答4分)		
	5	個別研究	研究発表 (1人10分、質疑応答4分)		
	6	個別研究	研究発表 (1人10分、質疑応答4分)		
	7	個別研究	研究発表 (1人10分、質疑応答4分)		
	8	個別研究	研究発表 (1人10分、質疑応答4分)		
	9	個別研究	研究発表 (1人10分、質疑応答4分)		
	10	レポート作成	課題レポート		
	11	レポート作成	課題レポート		
	12	研究計画書	研究計画の構成と書き方		
	13	就職対策	日本のビジネスマナーと接遇		
	14		予備		
	15		予備		
評価方法	授業参加, 発表・質疑応答, レポート 学生の習得度や外部講師の都合により, 授業内容等の変更がある。				
テキスト 参考書					

2025		区分	必修	対象	I 部3年制1年 FWゼミ
科目名		フィールドワーク			
開講期	前後期		単位数	6	
講師名	飯塚 明夫				
授業概要	この授業では3年次のアジア撮影取材に向けて、基礎的なフォトルポルタージュの制作方法の習得を目的とする。前期授業の取材対象は「都市の川と人々」。上流域、中流域、下流域の特徴を調べ、都市の川と人々の係わりが見えるフォトルポルタージュを制作する。後期授業の取材対象は「異国（日本）で暮らす人々」。現代の日本には様々な外国文化が根付き、多くの在留外国人が暮らしています。そのような人々が集まる地域や場所を一か所選び、その現状を写真と文章で捉えたフォトルポルタージュを制作する。				
授業計画	回数	主題・目的	授業予定		
前期	1	オリエンテーション	①授業内容の説明、②自己紹介		
	2	写真表現 (1)	写真の力(捉える・伝える・表現する)とフォトルポルタージュについて		
	3	都市の川 (1)	撮影対象の川の基本情報を調べる(1): 上流、中流、下流		
	4	写真表現 (2)	アフリカ取材①: 西アフリカ		
	5	都市の川 (2)	写真合評①中流域(2Lプリント、20枚～)		
	6	写真表現 (3)	アフリカ取材②: 北アフリカ		
	7	都市の川 (3)	写真合評②下流域(2Lプリント、20枚～)		
	8	写真表現 (4)	アフリカ取材③: 東アフリカ		
	9	都市の川 (4)	写真合評③上流域(2Lプリント、20枚～)		
	10	写真表現 (5)	アフリカ取材④: 南部アフリカ		
	11	都市の川 (5)	集中取材地の検討・決定		
	12	写真表現 (6)	組写真を考える: 写真のセレクトと構成		
	13	都市の川 (6)	10枚の組写真(A4プリント、タイトル、報告文400字)を考える①		
	14	都市の川 (7)	10枚の組写真(A4プリント、タイトル、報告文400字)を考える②		
	15	プレゼンテーション	発表(A4プリント10枚、タイトル、報告文400字)まとめ		
後期	1	オリエンテーション	後期授業説明、東京周辺のエスニックプレイス、情報収集		
	2	エスニックプレイス(1)	エスニックプレイス、取材地検討(2-3か所)		
	3	エスニックプレイス(2)	取材地、ロケハン報告①		
	4	エスニックプレイス(3)	取材地、ロケハン報告②		
	5	エスニックプレイス(4)	写真合評①エスニックプレイス(2Lプリント、20枚～)		
	6	エスニックプレイス(5)	写真合評②エスニックプレイス(2Lプリント、20枚～)		
	7	写真表現(7)	「捕鯨」を巡る価値観の対立①:ドキュメンタリー映画「コープ」		
	8	写真表現(8)	「捕鯨」を巡る価値観の対立②: NHKドキュメンタリー「クジラと生きる・太地町」		
	9	エスニックプレイス(6)	写真合評③エスニックプレイス(2Lプリント、20枚～)		
	10	エスニックプレイス(7)	写真合評④エスニックプレイス(2Lプリント、20枚～)		
	11	写真表現(9)	写真表現と文章表現: エスニックプレイス報告文(600字～)		
	12	エスニックプレイス(8)	写真合評⑤エスニックプレイス(2Lプリント、20枚～)		
	13	エスニックプレイス(9)	エスニックプレイスの10枚組を構成する①(A4プリント、タイトル、報告文)		
	14	エスニックプレイス(10)	エスニックプレイスの10枚組を構成する②(A4プリント、タイトル、報告文)		
	15	プレゼンテーション	エスニックプレイス、発表(A4プリント10枚、タイトル、報告文600字～)、まとめ		
評価方法	課題作品のレベル重視(80%)であるが、課題に取り組む姿勢や出席率(計20%)も考慮する。				
テキスト 参考書	「The family of Man」、セバスチャン・サルガド写真集、野町和嘉写真集、林典子写真集、現代写真論(シャーロット・コットン)、ステーブ・マッカーリー写真集等				

2025		区分	必修	対象	1 部2年制2年 1 部3年制2年 総合写真研究ゼミ 1 部3年制3年 総合写真研究ゼミ
科目名	コマーシャルフォトゼミ				
開講期	前後期		単位数	6	
講師名	イ キョンソン				
授業概要	<p>画面構成とライティングの技術を習得し、商品撮影の特性を学びます。</p> <p>前期：ライティングの基本や構図の工夫、被写体の魅力を引き出す撮影方法を実践的に学ぶ。</p> <p>後期：前期で培ったスキルを応用し、オリジナリティのある作品を制作。コンセプト設計から撮影・編集まで一貫した制作プロセスを経験し、より実践的なスキルを磨く。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・照明機材とライティングの基礎および応用技術の習得</li><li>・商品写真のクオリティを見極める判断力の養成</li><li>・創造力と発想力の強化、イメージを具体化する力の向上</li></ul>				
授業計画	回数	主題・目的	授業予定		
前期	1	テスト	オリエンテーション、基礎知識テスト		
	2	写真管理	LrC写真管理、テザー撮影		
	3	機材	スタジオ機材の名称と使用方法		
	4	複写撮影	平面の絵画や図表などをそのまま写真に撮影・説明		
	5	複写撮影	平面の絵画や図表などをそのまま写真に撮る・実践		
	6	撮影	2灯ライト撮影・説明		
	7	撮影	2灯ライト撮影・実践		
	8	撮影	透過ボトル切り抜き撮影・説明		
	9	撮影	透過ボトル切り抜き撮影・実践		
	10	撮影	俯瞰撮影セッティング、ライティング		
	11	撮影	俯瞰撮影ー実践		
	12	課題提出	質問応答、課題撮影準備、課題提出		
	13	撮影	テーブル撮影＋ライティング、構図（小道具の利用）ー説明		
	14	撮影	テーブル撮影＋ライティング、構図（小道具の利用）ー実践		
	15	撮影	作品講評		
後期	1	企画	後期目標、テーマ決め		
	2	企画	テスト撮影、個人面談		
	3	企画	テスト撮影、個人面談		
	4	撮影	作品制作		
	5	撮影	作品制作		
	6	撮影	作品制作		
	7	撮影	作品制作		
	8	課題提出	作品講評		
	9	企画	作品方向性検討		
	10	撮影	作品制作		
	11	撮影	ハウススタジオ撮影		
	12	撮影	ハウススタジオ撮影		
	13	課題提出	作品講評		
	14	卒展準備	卒展面談		
	15	予備日	作品講評、卒展面談		
評価方法	15回出席点数51点/ 課題提出・授業態度・撮影準備を含め総合評価				
テキスト 参考書	PDFファイルおよび授業内容ページのリンク共有				

2025		区分	必修	対象	I 部3年制3年
科目名	画像処理Ⅲ				
開講期	前後期		単位数	6	
講師名	豊田 直之				
授業概要	本科目では、卒業して実際の現場でも即戦力として使えるテクニックを学びます。現場で必要なのは Photoshop (PS) だけではなくありません。社会に出てからありとあらゆる場面で必要なのはプレゼンテーション。そのためには、Illustrator (AI) や InDesign (ID) 、PowerPointやKeynoteなども最小限覚えておく必要のあることを学びます。また、動画やドローン撮影などについても学びます。テーマごとに課題を出し、それを制作することによって複合的に使われるテクニックを修得します。後期では、プレゼンテーションを目的としたいくつかの制作課題を出します。それを制作しながらテクニックを熟成させます。動画についても制作実習します。				
授業計画	回数	主題・目的	授業予定		
前期	1	解説	授業内容説明。PSによる簡単な塗り絵作業。		
	2	実習	PSによる高度な塗り絵作業。(PSの基本を理解します)		
	3		用紙の使い分けて、自分の作品を表現する		
	4		思い通りのプリント出力をするためのカラーマネージメント		
	5	実習	ドローン飛行実習 @鎌倉・由比ヶ浜		
	6				
	7	実習	AIによるマイ写真展のポスター作り		
	8		AIによるマイ写真展のポスター作り		
	9		AIによるマイ写真展のポスター出力		
	10	解説	画像の納品方法とその注意点。解像度、ファイルサイズなどデジタルの基本		
	11	解説・実習	レイヤーマスク、ごみ消し、合成など		
	12	実習	AIまたはIDによるマイ写真集作り		
	13		AIまたはIDによるマイ写真集作り		
	14		AIまたはIDによるマイ写真集作り		
	15		マイ写真集出力		
後期	1	解説	今後の仕事の動向と動画制作の必要性。スライドショーおよび動画制作について		
	2	実習	ドローン撮影実習 @鎌倉・由比ヶ浜		
	3				
	4				
	5	実習	自分の作品をスライドショーにする		
	6		自分の作品をスライドショーにする		
	7		自分の作品をスライドショーにする		
	8		自分の作品をスライドショーにする		
	9		スライドショーによるプレゼンテーション		
	10	スライドショーによるプレゼンテーション			
	11	実習	ショートムービー作成		
	12		ショートムービー作成		
	13		ショートムービー作成		
	14		ショートムービー作成		
	15		ショートムービー発表会		
16	ショートムービー発表会				
17	ショートムービー発表会				
評価方法	出席回数、授業態度、やる気度重視				
テキスト参考書	授業内配布プリント、他				

2025		区分	必修	対象	1 部3年制3年 総合写真研究ゼミ 1 部2年制2年 ドキュメンタリーフォト・ フォトクリエイティブ・ネイチャーフォト・ス トリーゾット
科目名	映像表現論				
開講期	前後期		単位数	6	
講師名	奥 初起				
授業概要	<p>この授業では、さまざまな歴史の中で生まれた作品を通して表現のあり方を学び、自分の言葉でしっかりと語れる力を養っていきます。得た知識をもとに表現の幅を広げ、今後の自身の作品制作に活かすことを目標とします。授業は、写真集、作品展、映像資料などをもとに進めていきます。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 作品を鑑賞し、作者がどのようなことを考え、何を伝えようとしているのかを考察し、自分の言葉で説明する力を身に付ける。</li><li>・ さまざまな作品の特徴や制作背景を理解し、自らの作品制作に活かす。</li></ul>				
授業計画	回数	主題・目的	授業予定		
前期	1	ガイダンス	オリエンテーション		
	2	講義	写真作品における言葉の扱い方		
	3	講義	写真作品における言葉の扱い方 ステートメント、キャプション		
	4	作品実見	写真展見学※展示状況次第で変更あり		
	5	実習	自身の作品を考える。企画書作成		
	6	実習	企画書の確認		
	7	講義	日本の写真家紹介①		
	8	講義	日本の写真家紹介②		
	9	講義	日本の写真家紹介③		
	10	講義	内容調整日		
	11	作品実見	写真展見学※展示状況次第で変更あり		
	12	講義	海外の写真家紹介①		
	13	講義	海外の写真家紹介②		
	14	講義	海外の写真家紹介③		
	15	講義・作品実見	前期まとめ・写真展見学		
後期	1	講義	日本の写真家紹介①		
	2	講義	日本の写真家紹介②		
	3	作品実見	写真展見学※展示状況次第で変更あり		
	4	講義	表現研究①		
	5	講義	表現研究②		
	6	作品実見	写真展見学※展示状況次第で変更あり		
	7	講義	表現研究③		
	8	講義	表現研究④		
	9	作品実見	写真展見学※展示状況次第で変更あり		
	10	講義	海外の写真家紹介①		
	11	講義	海外の写真家紹介②		
	12	講義	表現研究⑤		
	13	講義	表現研究⑥		
	14	講義	表現研究⑦		
	15	講義	後期まとめ		
評価方法	授業態度、提出物				
テキスト 参考書					

科目名	フォローアップ講座		
開講期	前後期	単位数	6
講師名	教務課・キャリアセンター・山ノ手写真 安部先生		
授業概要	<p>卒業年度に進級おめでとうございます。この授業では、(1)卒業作品展に向けた準備(2)就職やデビューに向けた準備、(3)キャリアに対する考え方や活動の進め方を中心に学んでいきます。卒業作品展に向けた準備ではいろいろな展示方法や、作家の紹介などを通じて、自分の作品に対するイメージを膨らませていきます。実際の制作に活かした、よい卒業作品展を目指しましょう。</p> <p>また、(2)や(3)では実際に仕事の現場はどのような場所なのかを知ったり、キャリアの考え方を広げたり…。自分の生き方を考え直すきっかけにもするような発見や出会いをしてほしいと思っています。</p>		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	オリエンテーション	キャリアのプランニングとは(仕事の種類を知ろう)フォローアップシートの提出確認
	2	キャリア研究	キャリア①
	3	キャリア研究	キャリア②
	4	キャリア研究	キャリア③
	5	卒業研究	卒業作品展とは、作品を展示する、ということとは
	6	卒業研究	卒展に向けたワークショップ
	7	卒業研究	卒展に向けたワークショップ
	8	企業研究	企業説明会①
	9	卒業研究	卒展に向けたワークショップ
	10	卒業研究	卒展に向けたワークショップ
	11	企業研究	企業説明会②
	12	卒業研究	卒展に向けたワークショップ
	13	卒業研究	卒展に向けたワークショップ
	14	卒業研究	卒展に向けたワークショップ
	15	キャリア研究	前期のまとめ
後期	1	個別相談	進路調査・個別相談会
	2	卒業研究	卒展に向けたケーススタディ
	3	卒業研究	卒展に向けたケーススタディ
	4	卒業研究	卒展に向けたケーススタディ
	5	企業研究	企業説明会③
	6	卒業研究	卒展制作
	7	卒業研究	卒展制作
	8	自己PR力UP	ポートフォリオレビュー
	9	卒業研究	卒展制作
	10	卒業研究	卒展に向けた準備①
	11	卒業研究	卒展に向けた準備②
	12	卒業研究	卒展に向けた準備③
	13	卒業研究	卒展に向けた準備④
	14	まとめ	授業調整日
	15	まとめ	一年のまとめ
評価方法	出席と授業態度、意欲、提出物で総合的に評価		
テキスト 参考書	スクーの動画資料など。授業内で適宜指示します。		



2025		区分	必修	対象	I 部3年制3年 総合写真研究ゼミ
科目名	メディア表現論				
開講期	前後期		単位数	6	
講師名	関 貴尚				
授業概要	近現代美術の歴史とは、メディアの多様化の歴史であるといえるだろう。キュビズムや抽象の登場以降、美術は外界の対象を模倣することをやめ、一見してそれとわかるような明確な主題を失うとともに表現手段であるメディアもまた多様化していった。それはまた、市民社会の成立や資本主義の発達、新たなテクノロジーの登場、二度の世界大戦など社会状況の変化とも密接にかかわっている。したがって、美術作品を読み解くためには、どのような歴史・社会的条件のもとで作品がつくられたのかを学ぶことが不可欠となる。 この講義では、近現代美術を理解するうえで重要なテキストを毎回1本ずつとりあげ、美術作品を提示・分析しながら論じることで、狭義の美術のみならず視覚文化一般に対する読解能力を養う。テキストは講義の前週に配布する。授業内容の理解のためにも各自読んでおくこと。				
授業計画	回数	主題・目的	授業予定		
前期	1	オリエンテーション	本講義の基本方針		
	2	近現代美術史	D・H・カーンワイラー「キュビズムへの道」		
	3	近現代美術史	F・T・マリネッティ「未来派文学技術宣言」		
	4	近現代美術史	ヴァルター・ベンヤミン「複製技術時代における芸術作品」		
	5	近現代美術史	エル・リシツキー「芸術と汎幾何学」		
	6	近現代美術史	アンドレ・ブルトン「シュルレアリスム芸術の発生と展望」		
	7	近現代美術史	サルバドール・ダリ「偏執狂的批判的方法」		
	8	近現代美術史	クレメント・グリーンバーグ「モダニズムの絵画」		
	9	近現代美術史	クレメント・グリーンバーグ「抽象表現主義以後」		
	10	近現代美術史	マイケル・フリード「芸術と客体性」		
	11	近現代美術史	ドナルド・ジャッド「スペシフィック・オブジェクト」		
	12	近現代美術史	ロザリンド・クラウス「展開された場における彫刻」		
	13	近現代美術史	ダグラス・クリンプ「サイト・スペシフィシティの再定義」		
	14	近現代美術史	ロバート・スミッソン「精神の堆積作用」		
	15	近現代美術史	E・H・ゴンブリッチ「棒馬考」		
後期	1	近現代美術史	ルーシー・リパード「芸術の非物質化」		
	2	近現代美術史	ミシェル・フーコー「これはパイプではない」		
	3	近現代美術史	ロザリンド・クラウス「指標論」		
	4	近現代美術史	ロザリンド・クラウス「ビデオ：ナルシズムの美学」		
	5	近現代美術史	クレイグ・オーウェンス「アレゴリー的衝動」		
	6	近現代美術史	ハル・フォスター「民族誌家としてのアーティスト」		
	7	近現代美術史	クレア・ビショップ「敵対性と関係性の美学」		
	8	ケーススタディ1	各自が設定したテーマについて発表し、みんなで議論する。		
	9	ケーススタディ2			
	10	ケーススタディ3			
	11	ケーススタディ4			
	12	ケーススタディ5			
	13	ケーススタディ6			
	14	ケーススタディ7			
	15	ケーススタディ8			
評価方法	出席、授業態度、レポートなどで総合的に評価します。				
テキスト 参考書	ハル・フォスター他編著『ART SINCE 1900:図鑑 1900年以後の芸術』（尾崎信一郎他訳、東京書籍、2019年）。個別テーマにかんしては授業内で適宜指示します。				

2025		区分	必修	対象	I 部3年制3年 総合写真研究ゼミ
科目名	テクニカルライティング				
開講期	前後期		単位数	6	
講師名	赤坂 トモヒロ				
授業概要	この授業では、より実践的で応用的なスタジオワークや商品撮影のライティングを学びます。いわゆる「ブツ撮り」のテクニックを身につけることは、目指す写真分野に関係なく大変な強みとなります。前期は与えられた課題を精密にこなしていくことを中心に進め、後期は卒展や就職活動を見据えて自らがテーマを設定して作品を撮り貯めていき、作品に対して講師から与えられる課題をクリアしていくことで完成度を高めていきます。各回ごとにレタッチや合成を行なった画像を翌週の授業内で提出し、個別に講評を行います。ただし、学生の習熟度に応じて内容は適宜変更する予定です。				
授業計画	回数	主題・目的	授業予定		
前期	1	授業内容の説明	オリエン。講師の用意した商品の撮影を通じて広告写真の基本的な考え方を学ぶ。		
	2	基本のおさらい①	缶の切り抜き撮影を通じて切り抜き撮影の基本を復習		
	3				
	4	基本のおさらい②	ボトルの切り抜き撮影を通じて透過物の切り抜き撮影を復習		
	5				
	6	課題撮影①	講師の提示する課題作品を模写する		
	7	課題撮影②	講師の提示する課題作品を模写する		
	8				
	9	課題撮影③	講師の提示する課題作品を模写する		
	10				
	11	課題撮影④	講師の提示する課題作品を模写する		
	12				
	13	課題撮影⑤	講師の提示する課題作品を模写する		
	14				
	15				
後期	1	作品撮り①	事前に講師が提示した課題を踏襲した形で作品を制作する		
	2				
	3	作品撮り②	事前に講師が提示した課題を踏襲した形で作品を制作する		
	4				
	5	作品撮り③	事前に講師が提示した課題を踏襲した形で作品を制作する		
	6				
	7	作品撮り④	事前に講師が提示した課題を踏襲した形で作品を制作する		
	8				
	9	作品撮り⑤	事前に講師が提示した課題を踏襲した形で作品を制作する		
	10				
	11	作品撮り⑥	事前に講師が提示した課題を踏襲した形で作品を制作する		
	12				
	13	作品撮り⑦	事前に講師が提示した課題を踏襲した形で作品を制作する		
	14				
	15				
評価方法	出席状況および課題の提出状況等				
テキスト 参考書					

2025		区分	必修	対象	I 部3年制3年 総合写真研究ゼミ
科目名	映像制作演習				
開講期	前後期		単位数	6	
講師名	小島 真也				
授業概要	<p>一眼レフやミラーレスカメラでの動画撮影が可能になり、またスマートフォンには撮影&amp;編集のアプリが実装されて久しい。</p> <p>一般的にはムービーや映像ではなく「動画」と言われ、撮ることも観ることも身近になった昨今、写真家にもスチルだけでなくムービーの素養が求められている。</p> <p>本講座では、これまで学んできた写真の技術や表現、経験を踏まえて、映像制作を理論と実践の両面から学ぶ。</p> <p>制作するコンテンツは、クライアント（広告主）から発注されるWeb用PR動画を主軸とする。</p>				
授業計画	回数	主題・目的	授業予定		
前期	1	映像知識の基本	映像制作のワークフロー＋映像基礎知識＋撮影の基本設定		
	2	PR動画<A> (1カット撮影)	準備		
	3		撮影（スマホ）		
	4		編集（スマホ）		
	5		講評と問題点&反省点の共有		
	6	PR動画の構成タイプ	三幕構成		
	7		4つのタイプ		
	8	PR動画<B> (プロダクト)	企画①		
	9		企画②		
	10		構成と台本①		
	11		構成と台本②		
	12		撮影①（スマホ）		
	13		撮影②（スマホ）		
	14		編集（スマホ）		
	15		講評		
後期	1	撮影技術	カメラワーク①（DSLR）		
	2		カメラワーク②（DSLR）		
	3	録音技術	音声の録音		
	4	インタビュー動画	インタビューの準備		
	5		インタビューの収録		
	6	編集技術	Premiere Proの使い方①		
	7		Premiere Proの使い方②		
	8		カラーグレーディング		
	9	PR動画<C> (ブランド)	企画		
	10		構成と台本①		
	11		構成と台本②		
	12		撮影①		
	13		撮影②		
	14		編集（スマホ）		
	15		講評		
評価方法	制作過程での取り組みと提出課題、仕上がり評価				
テキスト 参考書	SchooSwingにてレジュメPDF閲覧、『世界一わかりやすい動画制作の教科書』技術評論社刊/ 小島真也著				

2025		区分	必修	対象	I 部3年制3年 PAゼミ
科目名	写真読解				
開講期	前後期		単位数	6	
講師名	坂口 トモユキ				
授業概要	前期後期ともに、授業全体を通じて、受講生各自の卒業制作に向けた作品制作、他の授業の課題として制作している作品、および自主的に制作している作品の制作進捗報告をプレゼンとして行う。各作品について講師との対話を通じて自作品をよりよく理解する手助けとする。自分の立ち位置を明確にする上で、同じジャンルの既存作家研究を行いプレゼンし、社会の中で各自がどのような作家の立ち位置に進みゆくのか検討する。作品議論のベースとなるものとして、ネットでの発表を前提とした印刷冊子ZINEまたは4K動画作品（写真スライド動画含む）などから自由選択して課題制作も行う。				
授業計画	回数	主題・目的	授業予定		
前期	1	導入	オリエンテーション 講師紹介 / 受講生作品紹介		
	2	作家研究 制作報告	各自参考作家 プレゼンと考察		
	3				
	4				
	5				
	6				
	7	課題制作	ポートフォリオ スライド / PDF 作成		
	8				
	9				
	10				
	11				
	12	最終講評	印刷冊子ZINE / 4K動画作品 / SNS から選択して課題制作		
	13				
	14				
	15				
後期	1	導入	各自作品 進捗報告プレゼン		
	2	作品研究 制作報告	各自参考作家 プレゼンと考察		
	3				
	4				
	5				
	6				
	7	作品発表	研究対象となる作家を決めての研究発表 現在制作中作品の進捗プレゼン		
	8				
	9				
	10				
	11				
	12	最終講評	自由課題制作（冊子または動画制作など 形式自由）		
	13				
	14				
	15				
評価方法	課題評価点50点、授業姿勢評価点50点として合わせて評価。前期・後期共に最終課題の提出を必須とし、未提出の場合は不合格とする。				
テキスト 参考書	テキストは、必要に応じて随時配付				

2025		区分	必修	対象	I 部3年制3年 PAゼミ
科目名	ファインアート演習Ⅱ				
開講期	前後期		単位数	6	
講師名	遠藤 麻衣				
授業概要	<p>これまでに培った創作手法をもとに課題制作に応答することで、技術を応用的に用いつつ、コンセプトを練りあげる能力を培います。</p> <p>制作過程の相談や、出来上がった作品をプレゼンすることで、自身の作品を客観的に分析し展開する力を身につけます。</p> <p>展覧会の開催を目標としたグループディスカッションを通して、作品同士の関係性や発表空間に対する構想力を高めていきます。</p> <p>これらの実践的な演習を通して、表現に対する独自の関心や問題意識、そして制作スタイルを見つけることを目指します。</p> <p>前期 keyword:旅、日記、美術史</p>				
授業計画	回数	主題・目的	授業予定		
前期	1	導入	自己／作品紹介・授業内容説明		
	2	鑑賞	東京都近代美術館常設展		
	3	レクチャー	日本近代美術史		
	4		美術史の本を読んで自分で整理する。		
	5		日記やエッセイを読む：宿題日記		
	6		日記の宿題の発表		
	7	鑑賞	場所未定		
	8		ワークショップ		
	9		「MOTコレクション 9つのプロフィール 1935→2025」 東京都現代美術館		
	10		「MOTコレクション 9つのプロフィール 1935→2025」 東京都現代美術館		
	11		「MOTコレクション 9つのプロフィール 1935→2025」 東京都現代美術館		
	12		吹き矢？の旅：場所を決める。		
	13		映画鑑賞		
	14		エッセイを書く。		
	15		ディスカッション・後期に向けた準備		
後期	1	鑑賞	美術館鑑賞		
	2		グループ展にむけたディスカッション		
	3		展覧会企画		
	4		11:00-18:00ギャラリートツアー（いろんな展示を見てグループ展コンセプトを練る）		
	5		11:00-18:00ギャラリートツアー（いろんな展示を見てグループ展コンセプトを練る）		
	6		11:00-18:00ギャラリートツアー（いろんな展示を見てグループ展コンセプトを練る）		
	7		展覧会企画・制作相談、DMロゴ持参		
	8		ポスターデザイン、入稿		
	9	制作	作品制作・制作相談		
	10		準備等最終確認		
	11	設営	グループ展搬入		
	12	設営	グループ展搬入		
	13	設営	グループ展搬入		
	14	搬出	グループ展搬出		
	15	搬出	グループ展搬出		
評価方法	出席、課題作品評価、課題制作過程評価				
テキスト 参考書	参考文献や参考作品は、その都度授業内で紹介します。				

2025	区分	必修	対象	I 部3年制3年 PAゼミ
科目名	フォトプレゼンテーション演習Ⅱ			
開講期	前後期		単位数	6
講師名	篠原 俊之			
授業概要	学生自身が進めている写真を中心に据えた創作活動・表現行為について、どのように社会と接点を持つのか、どのようにして自分の活動する場所を獲得していくのかを考えていく時間になりたいと思います。作品の言語化のみならず、レビューを想定したプレゼンテーションのトレーニング グ、近年増えつつあるビデオプレゼンテーションを日本語と英語で制作することも行います。授業期間中に1度以上、国内外の公募展に応募することもこの授業内でフォローしていきます。			
授業計画	回数	主題・目的	授業予定	
前期	1	ガイダンス	授業の説明、準備するもの、心構えなど	
	2	講義	プレゼンテーションの目的について	
	3		どのような方法が考えられるのか、リサーチしてみます。	
	4	講義と実習	GRAPHGATE への応募	
	5		コンペって何??? 作品計画書をつくる	
	6	講評	GRAPHGATE 応募中間チェック	
	7			
	8	実習	言語化のトレーニング 日本語でプレゼン動画を作る（グループワーク）	
	9			
	10	実習	日本語でプレゼン動画を作ろう（グループワーク）	
	11			
	12	講評	プレゼン動画 発表会	
	13			
	14	講義	展示設営体験1	
	15	講義	展示設営体験2	
後期	1	ガイダンス	後期の授業の進め方について口	
	2	講義	夏休み中にお願いした課題の講評を行います	
	3			
	4	講義と実習	プレゼン資料を作ってみる	
	5			
	6	実習	英語でプレゼン動画を作る	
	7			
	8	実習	SNSを使っのプレゼン環境をととのえる	
	9			
	10	講義	展示方法を拡張する（額装や、パネル加工を先鋭化してみる）	
	11			
	12	講義と講評	プレゼン動画とSNS環境の講評を行います	
	13			
	14	ビューイング	ものとしての作品の価値について、講師所蔵のコレクションをビューイングします。ファインアートフォトの現在について、みなさんが夢を持てる話をします。	
	15			
評価方法	出席 課題提出 授業への参加態度			
テキスト 参考書	都度説明します			

2025		区分	必修	対象	I 部3年制3年 PAゼミ
科目名	メディア表現演習Ⅲ				
開講期	前後期		単位数	6	
講師名	田 凱				
授業概要	<p>この授業では、学生が表現者としての視点と企画者としての視点を統合し、現代写真における展示企画の総合的なスキルを習得することを目指します。現代写真の多様な表現を理解し、キュレーションの実践を通じて、作品の再構成や展示空間の構築方法を学びます。また、様々な視点を尊重しながら、自身の企画意図を明確に伝える能力を養います。今日の業界では、企画者の役割も多様化し、単なる作品の選定者から、社会的・文化的文脈を読み解き、新たな価値を創出するアクティブな企画者としての能力が求められています。特に、作家と協働しながら展示を構築する「共創型キュレーション」の重要性が増しています。</p> <p>到達目標</p> <p>1、多様で創造的なリサーチ能力の習得。 現代写真の表現史や展覧会の歴史を踏まえ、課題を洞察し、解決のためのアイデアを構築する能力を養う。</p> <p>2、他者との協働によるアイデアの可視化。 他者の作品を分析・レビューし、協働の質を高めながら、課題解決に向けたアイデアを明解に可視化する能力を修得する。</p> <p>3、地域・環境を見いだすコンセプトの抽出と実装。 地域や環境に根ざしたコンセプトを抽出し、ビジョンの構築からアクションへの実装を目指す能力を培う。</p>				
授業計画	回数	主題・目的	授業予定		
前期	1	イントロダクション	前期授業の目的と進め方の説明		
	2	講義／実習	現代写真の動向とキュレーションの基礎		
	3	講義／実習	現代写真の動向とキュレーションの基礎 / 指定された写真作品のリサーチ		
	4	講義／実習	他者の作品分析とテーマ設定		
	5	講義／実習	他者の作品分析とテーマ設定 / 展示テーマの提案書作成		
	6	講義／実習	展示コンセプトの立案		
	7	講義／実習	展示コンセプトのブラッシュアップ		
	8	講義／実習	広報物のデザイン		
	9	講義／実習	現代写真の動向とキュレーションの基礎		
	10	講義／実習	現代写真の動向とキュレーションの基礎 / 指定された写真作品のリサーチ		
	11	講義／実習	他者の作品分析とテーマ設定		
	12	講義／実習	他者の作品分析とテーマ設定 / 展示テーマの提案書ブラッシュアップ		
	13	講義／実習	展示空間のデザインと設営計画/図面の作成		
	14	講義／実習	展示空間のデザインと設営計画/模型の作成		
	15	全体講評	展示空間のデザインと設営計画/展示プレゼンテーション		
後期	1	講義／実習	後期授業の目的と進め方の説明		
	2	講義／実習	現代写真の動向とグループ展のキュレーションの基礎		
	3	講義／実習	現代写真の動向とグループ展のキュレーションの基礎 / 写真作品のリサーチ		
	4	講義／実習	他者のグループ展分析とテーマ設定		
	5	講義／実習	他者のグループ展分析とテーマ設定 / 展示テーマの提案書作成		
	6	講義／実習	広報計画と観客とのコミュニケーション戦略		
	7	講義／実習	広報計画と観客とのコミュニケーション戦略		
	8	講義／実習	広報物のデザイン		
	9	講義／実習	グループ展示コンセプトの立案		
	10	講義／実習	グループ展示コンセプトのブラッシュアップ		
	11	講義／実習	展示設営と最終調整		
	12	講義／実習	展示設営と最終調整		
	13	講義／実習	展示空間のデザインと設営計画/図面の作成		
	14	講義／実習	展示空間のデザインと設営計画/模型の作成		
	15	全体講評	展示空間のデザインと設営計画/展示プレゼンテーション		
評価方法	出席、課題作品評価、課題制作過程評価				
テキスト 参考書	参考文献や参考作品は、その都度授業内で紹介します。				

2025		区分	必修	対象	I 部3年制3年 PAゼミ
科目名	ムービー制作演習				
開講期	前後期		単位数	6	
講師名	小島 真也				
授業概要	<p>一眼レフやミラーレスカメラでの動画撮影が可能になり、またスマートフォンには撮影&amp;編集のアプリが実装されて久しい。</p> <p>一般的にはムービーや映像ではなく「動画」と言われ、撮ることも観ることも身近になった昨今、写真家にもスチルだけでなくムービーの素養が求められている。</p> <p>本講座では、これまで学んできた写真の技術や表現、経験を踏まえて、映像制作を理論と実践の両面から学ぶ。</p> <p>制作するコンテンツは、クライアント（広告主）から発注されるWeb用PR動画を主軸とする。</p>				
授業計画	回数	主題・目的	授業予定		
前期	1	映像知識の基本	映像制作のワークフロー＋映像基礎知識＋撮影の基本設定		
	2	PR動画<A> (1カット撮影)	準備		
	3		撮影（スマホ）		
	4		編集（スマホ）		
	5		講評と問題点&反省点の共有		
	6	PR動画の構成タイプ	三幕構成		
	7		4つのタイプ		
	8	PR動画<B> (プロダクト)	企画①		
	9		企画②		
	10		構成と台本①		
	11		構成と台本②		
	12		撮影①（スマホ）		
	13		撮影②（スマホ）		
	14		編集（スマホ）		
	15		講評		
後期	1	撮影技術	カメラワーク①（DSLR）		
	2		カメラワーク②（DSLR）		
	3	録音技術	音声の録音		
	4	インタビュー動画	インタビューの準備		
	5		インタビューの収録		
	6	編集技術	Premiere Proの使い方①		
	7		Premiere Proの使い方②		
	8		カラーグレーディング		
	9	PR動画<C> (ブランド)	企画		
	10		構成と台本①		
	11		構成と台本②		
	12		撮影①		
	13		撮影②		
	14		編集（スマホ）		
	15		講評		
評価方法	制作過程での取り組みと提出課題、仕上がり評価				
テキスト 参考書	SchooSwingにてレジュメPDF閲覧、『世界一わかりやすい動画制作の教科書』技術評論社刊/ 小島真也著				



科目名	画像処理Ⅲ			
開講期	前後期		単位数	6
講師名	豊田 直之			
授業概要	本科目では、卒業して実際の現場でも即戦力として使えるテクニックを学びます。現場で必要なのは Photoshop (PS) だけではなくありません。社会に出てからありとあらゆる場面で必要なのはプレゼンテーション。そのためには、Illustrator (AI) や InDesign (ID)、PowerPointやKeynoteなども最小限覚えておく必要のあることを学びます。また、動画やドローン撮影などについても学びます。テーマごとに課題を出し、それを制作することによって複合的に使われるテクニックを修得します。後期では、プレゼンテーションを目的としたいくつかの制作課題を出します。それを制作しながらテクニックを熟成させます。動画についても制作実習します。			
授業計画	回数	主題・目的	授業予定	
前期	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
	15			
後期	1	解説	今後の仕事の動向と動画制作の必要性。スライドショーおよび動画制作について	
	2	実習	FW	
	3			
	4			
	5	実習	自分の作品をスライドショーにする	
	6		自分の作品をスライドショーにする	
	7		自分の作品をスライドショーにする	
	8		自分の作品をスライドショーにする	
	9		スライドショーによるプレゼンテーション	
	10		スライドショーによるプレゼンテーション	
	11	実習	ショートムービー作成	
	12		ショートムービー作成	
	13		ショートムービー作成	
	14		ショートムービー発表会	
	15		ショートムービー発表会	
15	ショートムービー発表会			
評価方法	出席回数、授業態度、やる気度重視			
テキスト 参考書	授業内配布プリント、他			

2025		区分	必修	対象	I 部3年制3年 FWゼミ
科目名	エディトリアルワーク				
開講期	後期		単位数	3	
講師名	泉 美菜子・宮添 浩司				
授業概要	<p>写真表現を他者に伝えるためのメディアとしての印刷表現を通して、ビジュアルデザインの基礎を学びます。</p> <p>まずはAdobe IllustratorとIndesignの基本操作を学びながら、書体、色彩、編集などの考え方を身につけ、その知識を活かして、印刷物による自由な自己表現を深め、意見交換をします。</p> <p>課題制作のために別途撮影を必要とするなど、授業外での制作時間の確保が必須となるため、積極的に楽しむ制作姿勢を望みます。</p>				
授業計画	回数	主題・目的	授業予定		
前期	1				
	2				
	3				
	4				
	5				
	6				
	7				
	8				
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				
後期	1	名刺を作る	イラレで情報を整理する、書体を選ぶ、合成フォント、レイアウトする		
	2	フライヤーを作る	色彩構成（明度彩度色相：目のいくデザインの作り方、錯視）		
	3	アートzineを作る1	テーマ＝旅の日記 インデザインの使い方、写真の配置と考え方		
	4	アートzineを作る2	制作、PDFの書き出し、出力、印刷		
	5	印刷を学ぶ	印刷所見学		
	6	インタビュー誌を作る1	概要説明、編集の基礎、構想を練る、テーマを設定		
	7	インタビュー誌を作る2	制作・講評		
	8	製本を知る	上製本 製本実習		
	9	写真集を作る1	写真集のテーマ決め・写真のセレクト		
	10	写真集を作る2	写真構成・本の仕様を考える・インデザイン作業		
	11	写真集を作る3	本の仕様を考える・インデザイン作業		
	12	写真集を作る4	制作		
	13	写真集を作る5	講評		
	14	実寸を知る	デザインワークショップ		
	15	卒展	各個人の卒業制作展にまつわるペーパーアイテムの制作・発注		
評価方法					
テキスト 参考書					

2025		区分	必修	対象	I 部3年制3年 FWゼミ
科目名	文章表現演習Ⅱ				
開講期	後期		単位数	3	
講師名	山田 諭				
授業概要	<p>自身の写真作品に関して、意図や内容、および解説を適切に言語化し、他者に伝えられるよう、主に文章能力の向上を目指します。 また、文章の作成を通じて、写真と言葉の違いや共通性を考えていきます。</p> <p>・主語・述語・目的語など文章の基本構造を学び、わかりやすい文章を作成できるようにする ・文章の構成を考え、読み手に伝わりやすい文章を書く ・自分の意図を具体化して文章化する</p>				
授業計画	回数	主題・目的	授業予定		
前期	1				
	2				
	3				
	4				
	5				
	6				
	7				
	8				
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				
後期	1	イントロ	自分のことを文章で伝える（簡単な自己紹介後、それを文章にする）		
	2	主題 4-1	自身の写真作品を文章化する1		
	3	演習	他の作家の作品を選び、「感想」を文章にする		
	4	演習	・感想を書くことで「主体（私）」の視点について整理する		
	5	演習	・写真について感じたことを具体化する		
	6	主題 4-2	自身の写真作品を文章化する2		
	7	演習	他の作家の作品を選び、「解説」を文章にする		
	8	演習	・他者に向けた解説を書くことで、読み手への意識を整理する		
	9	演習	・作品の意図や背景を理解し、整理する		
	10	主題 4-3	自身の写真作品を文章化する3		
	11	演習	他の作家の作品を選び、「批評」を文章にする		
	12	演習	・自分の視点と理解を具体化し、文章にする		
	13	演習	・読み手に向け、自分の考えをわかりやすく構成する		
	14	主題 4-4	自身の写真作品を文章化する4		
	15	アウトロ	課題と提出と振り返り		
評価方法	出席と、主に課題で評価します。				
テキスト 参考書					

2025		区分	必修	対象	I 部3年制3年 FWゼミ
科目名		ディベート演習Ⅱ			
開講期		前後期		単位数	3
講師名		藤山 新			
授業概要		<p>この授業では、特に自らの作品について説明する場面などを念頭に、自らの体験や考えを他者に伝えるうえで必要な知識や技術を身につけることを目指します。また、社会的な課題について理解を深め、異なる立場の意見を理解しながら議論をするための基礎的な事柄についても、講義と実習で学びます。</p> <p>そのため、基本的には全員が毎回何らかの口頭発表を行うことを予定しています。積極的な授業への参加姿勢が求められますので、そのつもりで受講してください。</p>			
授業計画		回数	主題・目的	授業予定	
前期	1				
	2				
	3				
	4				
	5				
	6				
	7				
	8				
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				
後期	1	イントロダクション	自分を知り、伝えることに関する講義とワーク		
	2	情報整理	情報整理に関する講義とワーク、作品情報棚卸しワーク		
	3	アイデアを出し、まとめる	企画会議ワークショップ		
	4	フィールドワークの思想と実践	社会学分野におけるフィールドワークに関する講義		
	5	語彙力を鍛える	語彙に関する講義とワーク		
	6	思いを伝える	ビブリオバトルワーク		
	7	思いを伝える	ビブリオバトルワーク		
	8	伝える技術	論理的な情報発信に関する講義とワーク		
	9	ディベートのフォーマット1	ディベートの基礎についての講義とワーク		
	10	ディベートのフォーマット2	ディベートの基礎についての講義とワーク		
	11	show and tell	考現学に関する講義とshow and tell ワーク		
	12	写真と言葉	ステートメント作成ワーク		
	13	自分を語る	インタビューに関する講義とミニワーク		
	14	インタビュー実践	インタビューとそのとりまとめに関するワーク		
	15	まとめ	最終回に改めて考える、あなたの作品テーマ		
評価方法		各回の授業への参画度（単なる出席率ではありません）と、実習への取組意欲、成果を総合的に判断して評価します。			
テキスト 参考書		特になし。参考資料は授業内で適宜提示します。			

2025		区分	必修	対象	I 部2年
科目名	画像処理Ⅱ				
開講期	前後期		単位数	6	
講師名	羽立 孝				
授業概要	”イメージ”はコミュニケーションの一つです。”イメージ”を具現化し他者を介し昇華していく上で、デジタル写真をレタッチしていくことはとても重要なことになっています。個々の目的のイメージにより、その必要十分性は変化していきますがそれらの技術を幅広く習得し、またイメージ作成にあたり必要な技術を取捨選択し、最善の結果を得られるイメージづくりができることを目標とします。 それぞれの今後の写真への取り組みへの明確な目標、また課題を持ち、授業に望んでください。				
授業計画	回数	主題・目的	授業予定		
前期	1	概要	ペンタブレット・Bridge		
	2	RAW現像	ヒストグラム、情報		
	3	テザー撮影	SONY、CANON、NIKON		
	4	Photoshop	レイヤーの仕組み(修復ブラシ・コピースタンプ)		
	5	選択範囲	選択範囲およびマスクの概要		
	6	パス①	パスの概要		
	7	パス②	パスの選択、使い方		
	8	パス③	パスを組み合わせる使う		
	9	選択範囲	色		
	10	選択範囲	輝度		
	11	チャンネル	小テスト		
	12	トーンカーブ①	ブラシ		
	13	トーンカーブ②	ブラシ&情報		
	14	テスト	前期内容		
	15	回答			
後期	1	前期の復習	確認および補足		
	2	スマートオブジェクト	概要(RAW)		
	3	スマートオブジェクト	変形		
	4	スマートオブジェクト	フィルター		
	5	スマートオブジェクト	ゆがみ		
	6	スマートオブジェクト	小テスト		
	7	スマートオブジェクト	背景延ばし		
	8	描画モード	スクリーン		
	9	描画モード	乗算		
	10	描画モード	乗算		
	11	描画モード	乗算		
	12	描画モード	オーバーレイ		
	13	描画モード	オーバーレイ & カラー		
	14	テスト	後期内容		
	15	回答			
評価方法	平常点60点(15回出席、減点方式)、期末テスト40				
テキスト 参考書					

科目名	フォトコミュニケーション演習			
開講期	前後期		単位数	6
講師名	篠原 俊之			
授業概要	写真を活用した社会とのかかわりについて、商業写真と写真表現以外の 域で何ができるのかを、リサーチと実践の両面から経験します。 主に前期はSNSの活用を想定したコミュニケーションの取り方を考えていきます。  後期は、主に写真を使った小冊子の制作を進めながら、自分 の表現がまだ出会えない人々との結びつきが生まれることを期待しながら 1年 の授業を進めます。			
授業計画	回数	主題・目的	授業予定	
前期	1	ガイダンス	授業の説明、準備するもの、心構えなど	
	2	講義	写真を使った仕事について カメラマン、創作活動以外に何があるのか	
	3			
	4	研究	SNSを活用したセルフプロモーションについて	
	5			
	6	リサーチと講評	プロモ素材の確認 写真を活用した現場のフィールドワーク	
	7			
	8	講義	写真の選び方、並べ方のポイントなど	
	9			
	10	講義	出来上がった写真の使われ方について 事例を紹介	
	11			
	12	講義と講評	SNS活用の経過確認 と、細部の作りこみについての研究	
	13			
	14	講義	言葉、テキストの挟み方の研究	
	15	講義	前期まとめ	
後期	1	ガイダンス	後期の授業の進め方について□	
	2	講義	夏休み中にお願いした課題の講評を行います。	
	3			
	4	研究	紙の特徴を知る リサーチの方法とフィールドワーク	
	5			
	6	実習	紙を使った小冊子にどのように作品を落とし込むかを考えていきます	
	7			
	8	講評	ダミーブックの途中経過を全員で見せ合うことで、選出、配列を考えるヒントを共有します。	
	9			
	10	講義	オンデマンド出版の現在、活用法についての事例を紹介	
	11			
	12	講義と講評	ダミーブックの完成を目指します。講評と事例紹介を通じてよりモノとしての魅力を高める方法を考えます	
	13			
	14	ビューイング	フィールドワーク、プリントや、アートブックのビューイングを通じて現在の写真表現と社会との結びつきについて考えながら、講座を閉じます。	
	15			
評価方法	出席 課題提出 授業への参加態度			
テキスト 参考書	都度説明します			

2025	区分	必修	対象	I 部3年制2年 総合写真研究ゼミ
科目名	スタジオライティング			
開講期	前後期		単位数	6
講師名	市川 森一			
授業概要	<p>前期は、物撮りを通して、スタジオライティングの基本的な考え方を学びます。1年生でやってきたことから更に踏み込んで、細部にまでこだわっていきます。</p> <p>後期は、人物のライティングを通して、自由な発想で考えることの大切さを学びます。王道に縛られず、今までに見たことのないような君たちオリジナルの表現を見つけることが目標です。</p>			
授業計画	回数	主題・目的	授業予定	
前期	1	授業の概要	年間授業計画、授業の目的について、スタジオ機材の使い方	
	2	切り抜き	切り抜きについて 缶を被写体に、メインライトとハイライトを理解する。	
	3			
	4			
	5			
	6		切り抜き	
	7			
	8			
	9			
	10		合成前提の撮影について photoshop の使い方も含めて、合成のやり方を理解する	
	11			
	12			
	13			
	14	まとめ	前期内容の復習	
	15	まとめ	前期内容の復習	
後期	1	模写	プロの写真を真似る 各自がいいと思った写真を参考にして、同じライティングを再現する 被写体は人物の予定	
	2			
	3			
	4	自然光再現	自然光を再現する 各自が外で撮影してきた光の写真を参考にして、スタジオでライティングを作ってみる	
	5			
	6			
	7	写真以外を参考に	絵画・映画・アニメ等、写真以外の表現を参考にして、ライティングを作ってみる	
	8			
	9			
	10	色彩から考える	色の観点から、画作りについて考える	
	11			
	12	場所を活かす	スタジオ以外の場所で、場を活かしたライティングを考える	
	13			
	14	動きを考える	時間の観点から、写真表現の可能性を考える	
	15			
評価方法	出席状況、課題、授業態度等			
テキスト 参考書				

2025		区分	必修	対象	I 部3年制2年 FW/PA
科目名	スタジオライティング				
開講期	前後期		単位数	6	
講師名	赤坂 トモヒロ				
授業概要	<p>この授業では、基本的なスタジオワークおよび商品撮影のライティングを学びます。志向する写真分野に関わらず、スタジオワークや商品撮影の知識・技術を身につけることは大変な強みになり得ます。デジタルカメラを使用し、スタジオ機材の使用方法や商品撮影、ライティングの基本的な考え方や組み立て方を学びます。それと同時に、写真業界への入り口となるアシスタントとして必要な知識もあわせて伝えたいと思います。前期は基礎となる知識・スキルを学び、後期はより難度が高く実践的な内容に対応する能力を身につけます。コマースフォト志望ではない学生が中心となるため、より実践的・現実的で即現場で役立つ授業内容にし、将来それぞれの分野で「知ってて良かった」と思えるものにしたいと考えています。</p>				
授業計画	回数	主題・目的	授業予定		
前期	1	授業内容の説明	オリエン、講師の用意した商品の撮影を通じて広告写真の基本的な考え方を学ぶ。		
	2	ライティング基礎	身近な商品の撮影を通じて商品撮影の流れや機材の扱い方、各ライトやレフ板の役割について学ぶ。		
	3				
	4		上記の続きに加え、切り抜くための処理と背景撮影前後に行うことを学び直す。		
	5	切り抜き写真基礎	背景にあわせた切り抜き写真について学ぶ。白バック以外での切り抜き撮影		
	6		イメージ写真の撮影等。		
	7		スマホ・携帯を切り抜き撮影。スローシンクロ・多重露光で画面も映し込む。		
	8	ライティング応用	帽子の切り抜き撮影。質感表現や全域にピン트가合わないときの対処について等。		
	9		帽子のイメージカット撮影。季節感、時間帯の表現。		
	10		ボトル・瓶などを透過光を使って切り抜き撮影。		
	11		ボトル・瓶などのイメージカット撮影。液体の表現方法等。		
	12		モデル撮影予行。テストシュートやスタンドイン等、モデル撮影時の技術・知識について学ぶ。		
	13		モデル撮影。ビューティー撮影を通じ人物での質感・色彩表現を行う。		
	14	フード撮影	パン・スイーツの撮影。基本的なパン・料理の撮り方について。		
	15		上記の続き。仕掛けを用いて自在にフードを配置する方法や構図について。		
後期	1	模写	アクセサリ等の極小物の切り抜き・イメージ撮影。		
	2				
	3		洋服の切り抜き撮影。立体感の出し方や動きの付け方について。		
	4		各種商品の切り抜き・イメージ撮影		
	5				
	6	実践	課題撮影 講師が与える商品を課された要求に従って撮影。		
	7				
	8	講評	モデル撮影テストシュート。		
	9	応用	モデル撮影。季節感・空気感の表現。商品を持たせて撮影。		
	10		モデルに持たせた商品の合成用切り抜き写真撮影。		
	11		上記の続き。		
	12	講評	合成し完成させた画像を提出し、講評・復習。		
	13		作品撮り。各自が用意した物でイメージ撮影を行う。		
	14		上記の続きを行い、作品を完成させる。		
	15	講評・まとめ	前3回の講評・復習。		
評価方法	出席状況、レポート&課題の提出状況等				
テキスト参考書	講師が適宜用意する。				



2025		区分	必修	対象	I 部3年制2年 総合写真研究ゼミ
科目名		写真美術史			
開講期	前後期		単位数	6	
講師名	調 文明				
授業概要	現代美術において、写真は欠かすことのできない重要な表現メディアのひとつになっています。本講義では写真術公表（1839年）以前のカメラ・オブスキュラの時代をひとつの出発点として、ピクトリアリズム、モダニズム、戦後美術、現代美術というおおまかな時代区分にしたがい、美術と写真のつながりがいかに密接となっていくかをみていく予定です。また、現代美術の展覧会（美術館やギャラリー）に積極的に言及することで、授業で学んだことを「発揮」できる機会にも目を配りたいと考えています。				
授業計画	回数	主題・目的	授業予定		
前期	1	授業紹介	イントロダクション		
	2	前史	イメージの起源		
	3	前史	光学機器によるイメージメイキング		
	4	ワークショップ	カメラ・オブスクラを制作する		
	5	ピクトリアリズム	世紀転換期のピクトリアリズムにおける写真と絵画Ⅰ		
	6	ピクトリアリズム	世紀転換期のピクトリアリズムにおける写真と絵画Ⅱ		
	7	モダニズム	モダニズムにおける芸術表現Ⅰ：未来派とフォト・ディナミズモ		
	8	モダニズム	モダニズムにおける芸術表現Ⅱ：ニューヨーク・ダダ（マルセル・デュシャン）とレディメイド		
	9	モダニズム	モダニズムにおける芸術表現Ⅲ：ベルリン・ダダとフォト・モンタージュ		
	10	ワークショップ	フォト・モンタージュを制作する（実作）		
	11	ワークショップ	フォト・モンタージュを制作する（発表）		
	12	モダニズム	モダニズムにおける芸術表現Ⅳ：シュルレアリスムとオートマティスム		
	13	モダニズム	20世紀のアメリカ近代美術Ⅰ		
	14	モダニズム	20世紀のアメリカ近代美術Ⅱ		
	15		まとめと振り返り		
後期	1	歴史概説	イズムからアートへ：20世紀美術と複製技術		
	2	戦後美術	戦後美術をたどる：ポップアート		
	3	映像資料	ドキュメンタリー映画をとおしてアンディ・ウォーホルを知る		
	4	戦後美術	戦後美術をたどる：ミニマルアート		
	5	戦後美術	戦後美術をたどる：コンセプチュアルアート		
	6	ワークショップ	コンセプチュアルアートに基づいたアーティストブックを制作する（撮影）		
	7	映像資料	『ハープ&ドロシー』をとおして現代美術を知る		
	8	ワークショップ	コンセプチュアルアートに基づいたアーティストブックを制作する（発表）		
	9	現代美術	現代美術と写真：ファウンド・フォトを用いた表現		
	10	現代美術	現代美術と写真：セルフ・ポートレートについてⅠ		
	11	現代美術	現代美術と写真：セルフ・ポートレートについてⅡ		
	12	ワークショップ	ファウンド・フォトを用いたアーティストブックを制作する（発表）		
	13	ワークショップ	ファウンド・フォトを用いたアーティストブックを制作する（発表）		
	14	サブカルチャー	サブカルチャーと写真Ⅰ		
	15	サブカルチャー	サブカルチャーと写真Ⅱ		
評価方法	平常点（出席日数や授業参加度など）と期末レポート（もしくは授業内課題）の総合評価。ただし、授業内課題はすべて提出していることが成績評価の前提条件となります。				
テキスト 参考書	参考文献は授業で適宜紹介します。				

2025		区分	必修	対象	I 部3年制2年 総合写真研究ゼミ
科目名		デザイン演習			
開講期	前後期		単位数	6	
講師名	松野 正也				
授業概要	<p>●社会やクライアントの本質的な課題発見から、クリエイティブの力で課題解決を行う能力を養う。</p> <p>●チームでの課題解決やディレクション、コミュニケーション能力の成長を狙いながら、表現の可能性を広げる。</p> <p>後期は写真校・デザイン校との混合チームで課題に取り組む。</p> <p>●課題の評価は、適切な成果が想定できることや、十分な分析、既視感のない斬新なアイデアをより高く評価。</p> <p>【目標】課題の発見→調査と分析→アイデアの拡張と吟味→プロトタイプング→改善→解決のためのアウトプット、といった現代のビジネスシーンで必要とされるデザイン思考やプロセスの設計・実践力を身につける。</p>				
授業計画	回数	主題・目的	授業予定		
前期	1	オリエン～写真で表現①	オリエンテーション／自分を表す写真とキャッチコピーを制作		
	2	写真で表現②	自分以外の相手を表す3枚の写真とキャッチコピーで表現します		
	3	授業のデザイン	互いのアイデアを尊重し、誰もが主体的に取り組める授業とは。自分とクラスの仲間それぞれの将来性を踏まえた、理想的な学び方をグループワークで導き出す		
	4	広告の基礎①	消費者を行動に移す広告の「自分ごと化」プロセスについて		
	5	広告の基礎②	広告制作において抑えるべきイシュー「What to say」と「How to say」について。またそれを見出すトレーニング		
	6	広告のプランニング	本質的な課題の抽出と、解決するための広告プランを予算イメージ等とともにチームで検討する 《課題提出 30点満点》		
	7	クリエイティブ・シンキング①	「写真で一言」の発想と「一言から写真」の発想／シート提出 《課題提出 20点満点》※8回目にはずらす		
	8	クリエイティブ・シンキング②	発想の瞬発力を鍛える。ウィットに富んだダジャレを生み出す思考力を鍛えます		
	9	ロジカル・シンキング	論理的思考を鍛える演習を行います		
	10	コンセプトual・シンキング	物事を概念で捉える演習。本質を掘り起こし、課題やビジョンを定義化します		
	11	ビジョンとリーダーシップ	チームメンバーを巻き込み、鼓舞し、プロジェクト成功に導くためのリーダーシップを理解する		
	12	インクルーシブ・デザイン	インクルーシブデザイン概要と、課題解決への活かし方について 《課題提出 20点満点》		
	13	課題制作 A-①	社会課題の抽出／夏休み課題の検討		
	14	課題制作 A-②	解決方法のアイデア出し、アウトプットのプランニング		
	15	課題制作 A-③	プレゼンテーション&レビュー 《30点満点評価》		
後期	1	オリエン～写真で表現	オリエンテーション／自分を表す作品とキャッチコピーで自己紹介。グループ内で共有。		
	2	広告的思考	消費者を行動に移す広告の「自分ごと化」プロセスについて		
	3	ロジカル&コンセプトual・シンキング	論理的思考を持つための演習および物事を概念で捉える演習。本質を掘り起こし、課題やビジョンを定義化します		
	4	クリエイティブ・シンキング①	より広く発想を広げる訓練を行います		
	5	クリエイティブ・シンキング②	新しい桃太郎を考える《課題提出 20点満点》		
	6	プロトタイプングとエレベーターピッチ	漠然なものを形にする。フィードバックを繰り返し改善していくプロセスと、短時間で効率的に相手に伝える手		
	7	学内コンペ①	フォトグラファースとデザイナー混合チームでのデザイン制作。テーマ・コンセプト立案。企画提案		
	8	学内コンペ②	フォトグラファースとデザイナー混合チームでのデザイン制作。テーマ・コンセプト立案。企画提案		
	9	プロジェクト設計①	チームビルディング、プランニング：ヒト・モノ・コト・カネについて具体化する《課題提出 30点満点》		
	10	プロジェクト設計②	チームビルディング、プランニング：ヒト・モノ・コト・カネについて具体化／レビュー		
	11	学内コンペ③	最終作品レビュー&ブラッシュアップ《課題提出 30点満点》		
	12	チームング	チーム制作について振り返り		
	13	ブランド構築①	チームによる会社ごっこ。経営理念（PMVV）、事業内容を検討する		
	14	ブランド構築②	チームによる会社ごっこ。ブランドガイドライン作成。《課題提出 20点満点》		
	15	総括	ブランド構築、チームによる発表と講義全体の振り返り		
評価方法	授業出席率含む平常点：50% 課題評価：50%				
テキスト 参考書	プレゼンテーション作成ソフト（PowerPoint、Keynote、GoogleSlideなど）※最終的にPDFでスライドの書き出し・提出できれば作成ソフトはなんでも構いません。持ち物：PC必須、筆記用具				

2025		区分	必修	対象	I 部3年制2年 FWゼミ
科目名	写真創作演習				
開講期	前後期		単位数	6	
講師名	志村 賢一				
授業概要	この授業では、主にフィールドワーク3年次の海外フィールドワークを念頭におき、作品を作る工程、撮影手法について学んでいきます。前期は国内におけるテーマを一つ設定し、作品を作るとともに、取材ベースでの特集記事を作る上での必要な撮影方法を学びます。昨今、作品や記事の発表は印刷ベースのメディアが圧倒的に減り、Webベースのメディアが増えていきます。その中で、どうドキュメンタリー作品を社会に発表するかを考え、動画でのインタビューの撮り方や撮影の仕方も学んでいきたいと思います。後期はみんなでテーマを設定して、写真作品とともに動画作品も一つ制作していくことを目標とします。最終的な目標は卒業後、映像の世界で生活していくことを目標に技術を習得していきます。				
授業計画	回数	主題・目的	授業予定		
前期	1	自己紹介	各自の撮ってきた写真を見ながらディスカッション		
	2	テーマ設定、カウンセリング	各自の考えてきた、『国内テーマ』をもとにディスカッション		
	3				
	4				
	5	行動予定表作成	実際に撮影するにあたっての、細かい行動予定を立てる。		
	6				
	7	中間講評	写真を編集し、ストーリーボードを作る		
	8				
	9				
	10	発表	『国内テーマ』を完成させ発表、ポートフォリオを作る		
	11				
	12				
	13				
	14				
	15	まとめ	制作した写真集を見ながら写真集の可能性についてディスカッション		
後期	1	主題について	後期で制作したいテーマについてディスカッション		
	2				
	3				
	4				
	5				
	6				
	7	撮影編集	写真や動画を編集し、ストーリーボードのレイアウトを実際に素材を使って考える		
	8				
	9				
	10				
	11	作品制作	最終的な写真、動画作品を制作して完成させる。		
	12				
	13				
	14				
	15	まとめ	制作した作品を見ながらディスカッションする		
評価方法	課題への取り組み・出席				
テキスト参考書	必要に応じて随時指定します。				

2025		区分	必修	対象	I 部3年制2年 FW・PA
科目名	ファインアート演習 I/ファインプリントII				
開講期	前後期		単位数	6	
講師名	松井 寛泰				
授業概要	この授業では古典技法のプリント制作を軸として様々な写真の表現技法を身につけてもらうことを目的としています。作者が薬品を調合して印画紙から制作する古典技法のプリントは海外でも作家性の強いオリジナルプリントとして評価されています。自分の作品内容に合わせて自由に扱えるプリント技法を身につけ、幅広い表現方法に生かしてもらいたいと思います。授業の進捗状況により内容を調整する場合もあります。				
授業計画	回数	主題・目的	授業予定		
前期	1	ガイダンス	各種古典技法紹介 美術品としてのプリント		
	2	現像	35mmフィルム現像復習		
	3	プリント	RCペーパーを使用して濃度、コントラストの再確認		
	4	プリント	"		
	5	講義/実技	サイアノタイプ説明 薬品製作 プリントチェック		
	6	古典技法	サイアノタイププリント フォトグラム		
	7	プリント	サイアノタイプ予備日 又はプリント特殊技法		
	8	講義	4x5使い方 シートフィルム現像方法説明		
	9	撮影	4x5撮影		
	10	現像	4x5現像		
	11	プリント	銀塩プリント(4x5)		
	12	講義/実技	プリントチェック スポットティング		
	13	古典技法	サイアノタイプ2		
	14	古典技法	サイアノタイプ予備日 又はバライタ紙と調色について講義		
	15	講評	前期作品講評		
後期	1	講義	前期復習 紫外線露光器について 各自の後期テーマを検討		
	2	古典技法	ソルトプリント説明 薬品製作		
	3	古典技法	ソルトプリント フォトグラム又は4x5コンタクトプリント		
	4	講義/実技	ヴァンダイクブラウンプリント説明 薬品製作		
	5	古典技法	ヴァンダイクブラウンプリント フォトグラム又は4x5ネガ		
	6	講義	デジタルネガ説明		
	7	実技	デジタルネガ制作 ヴァンダイクブラウン又はサイアノタイプ		
	8	実技	"		
	9	古典技法	プリント制作		
	10	古典技法	プリント制作		
	11	講義	作品検討		
	12	作品制作	作品制作期間		
	13	作品制作	"		
	14	作品制作	"		
	15	講評	まとめ 課題提出		
評価方法	出席日数 提出物 習熟度 授業態度				
テキスト 参考書					

2025		区分	必修	対象	I 部3年制2年 FW
科目名	フィールドワークプランニング				
開講期	前後期		単位数	6	
講師名	奥 初起・山下 海				
授業概要	<p>この授業は、3年次に実施する海外フィールドワーク（以下FW）の撮影企画と行動計画の立案、海外FW時を想定した作品を作成することを目的とします。前期はテーマ立案、企画書作成を経て自分の企画を担当講師陣との面談時にプレゼンテーションするための写真作品を作ります。後期は、撮影日程・移動・宿泊等、海外FWで実際に行動するための行動計画の作成、そして前期に引き続き海外FW想定作品を作成します。また、海外FWのブリーフィングや現地にて行う写真による社会貢献活動の準備、予防接種等も行ないます。尚、海外FW時の行動適正を判断するために、理由のない遅刻、欠席、課題提出の遅れは正確に把握し、シビアに判断しますので注意して下さい。</p>				
授業計画	回数	主題・目的	授業予定		
前期	1	オリエンテーション	立案のガイド／ヒアリング(想定している海外FWテーマの確認)		
	2	企画立案	ヒアリング2(想定している海外FWテーマの確認)		
	3	企画書制作	企画書制作① 企画書についての解説(FWにおける企画書とは)		
	4	企画書制作	企画書制作② 企画概要1		
	5	企画書制作	企画書制作③ 企画概要2	FW想定作品検討①	
	6	企画書制作	企画書制作④ 撮影条件を考える	FW想定作品検討②	
	7	企画書制作	企画書制作⑤ 撮影条件の決定	FW想定作品検討③	
	8	企画書制作	企画書制作⑥ 撮影計画1	FW想定作品検討④	
	9	企画書制作	企画書制作⑦ 撮影計画2	FW想定作品検討⑤	
	10	社会貢献活動計画	海外FW「写真による社会貢献活動」解説と計画		
	11	企画書制作	企画書制作⑧ 撮影計画3（必要な作業の実行 ex. 取材依頼 等）		
	12	企画書制作	企画書制作⑨ 撮影計画4（必要な作業の実行 ex. 取材依頼 等）		
	13	プレゼン	進行状況の確認と各自の企画のプレゼンテーション①	※要作品	
	14	プレゼン	進行状況の確認と各自の企画のプレゼンテーション②	※要作品	
	15	プレゼン	進行状況の確認と各自の企画のプレゼンテーション③	※要作品	
後期	1	作品検討	マレーシアFWを受けての変更、および修正		
	2	作品検討	FW想定作品検討⑥		
	3	作品検討	FW想定作品検討⑦		
	4	企画書制作	企画書完成版提出		
	5	社会貢献企画	海外FW「写真による社会貢献活動」企画の必要な作業の実行 ex. 取材依頼 等		
	6	ブリーフィング	FW訪問国ブリーフィング①	FW想定作品検討⑧	
	7	ブリーフィング	FW訪問国ブリーフィング②	FW想定作品検討⑨	
	8	行動計画	行動計画についての解説（FWにおける行動計画とは）		
	9	ブリーフィング	ブリーフィング③(定時連絡、危機管理等)	FW想定作品検討⑩	
	10	ブリーフィング	ブリーフィング④(準備物等)	※社会貢献企画の進行状況を確認	
	11	行動計画	進行状況確認①		
	12	予防接種	予防接種①(破傷風、狂犬病、A型肝炎、B型肝炎、日本脳炎、腸チフス)／海外渡航安全情報		
	13	行動計画	進行状況確認②		
	14	行動計画	行動計画のまとめ		
	15	予防接種	予防接種②(狂犬病、A型肝炎、B型肝炎)	／海外渡航安全情報	
評価方法	出席、企画書と行動計画書の完成度、FW想定作品の進行状況				
テキスト 参考書	ガイドブック、アジア各国の資料 ※授業ではノートPC、Microsoft officeを使用。				

2025		区分	必修	対象	I 部3年制2年 FWゼミ
科目名	ディベート演習 I				
開講期	前後期		単位数	3	
講師名	藤山 新				
授業概要	<p>この授業では、特に自らの作品について説明する場面などを念頭に、自らの体験や考えを他者に伝えるうえで必要な知識や技術を身につけることを目指します。また、社会的な課題について理解を深め、異なる立場の意見を理解しながら議論をするための基礎的な事柄についても、講義と実習で学びます。</p> <p>そのため、基本的には全員が毎回何らかの口頭発表を行うことを予定しています。積極的な授業への参加姿勢が求められますので、そのつもりで受講してください。</p>				
授業計画	回数	主題・目的	授業予定		
前期	1				
	2				
	3				
	4				
	5				
	6				
	7				
	8				
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				
後期	1	イントロダクション	自分を知り、伝えることに関する講義とワーク		
	2	情報整理	情報整理に関する講義とワーク、作品情報棚卸しワーク		
	3	アイデアを出し、まとめる	企画会議ワークショップ		
	4	フィールドワークの思想と実践	社会学分野におけるフィールドワークに関する講義		
	5	語彙力を鍛える	語彙に関する講義とワーク		
	6	思いを伝える	ビブリオバトルワーク		
	7	思いを伝える	ビブリオバトルワーク		
	8	伝える技術	論理的な情報発信に関する講義とワーク		
	9	ディベートのフォーマット1	ディベートの基礎についての講義とワーク		
	10	ディベートのフォーマット2	ディベートの基礎についての講義とワーク		
	11	show and tell	考現学に関する講義とshow and tell ワーク		
	12	写真と言葉	ステートメント作成ワーク		
	13	自分を語る	インタビューに関する講義とミニワーク		
	14	インタビュー実践	インタビューとそのとりまとめに関するワーク		
	15	まとめ	最終回に改めて考える、あなたの作品テーマ		
評価方法	各回の授業への参画度（単なる出席率ではありません）と、実習への取組意欲、成果を総合的に判断して評価します。				
テキスト 参考書	特になし。参考資料は授業内で適宜提示します。				

2025		区分	必修	対象	I 部3年制2年 PAゼミ
科目名	近現代アート史				
開講期	前後期		単位数	6	
講師名	鳥原 学				
授業概要	<p>近現代アート史は、主に写真発明以降の美術の諸相を扱う科目です。写真がアートに与えた影響、アートが写真に与えた影響を考えます。その目的は、PA科学生が自分の作品制作について考える多様な視点を育てることです。</p> <p>アート史について理解するには、その作品や作家が生まれた文脈を知ることが必要です。また何より、じっさいの作品をその目で見なければ。その知識は活かせません。そこでこの授業では指定したテキストを使用しますが、中心となるのは展覧会の鑑賞とそのレポートです。講師は展覧会を指定しますので、そのレポートを発表をしてもらいます。指定する展示について、調べ、自分の考え方を述べることを通じて、近現代のアート史を身近なものとして感じてもらいます。</p> <p>期末には、これまで鑑賞した展示のなかからテーマを選び、考察を深めたレポート課題を発表してもらいます。</p>				
授業計画	回数	主題・目的	授業予定		
前期	1	アート史の基礎	ガイダンスと展示鑑賞 東京国立近代美術館集合		
	2	課題発表	前回の展示についてのレポートの発表とディスカッション		
	3	講義	展示に関連した内容の講義を中心に（テキスト使用）		
	4	課題発表	レポート発表とディスカッション		
	5	講義	展示に関連した内容の講義を中心に（テキスト使用）		
	6	鑑賞	予定：アーティゾン美術館		
	7	課題発表	レポート発表とディスカッション		
	8	講義	展示に関連した内容の講義を中心に（テキスト使用）		
	9	鑑賞	予定：東京国立近代美術館		
	10	課題発表	レポート発表とディスカッション		
	11	講義	展示に関連した内容の講義を中心に（テキスト使用）		
	12	鑑賞	予定：国立新美術館		
	13	課題発表	レポート発表とディスカッション		
	14	講義	展示に関連した内容の講義を中心に（テキスト使用）		
	15	期末発表	期末課題の発表		
後期	1	鑑賞	予定：東京都写真美術館		
	2	課題発表	レポート発表とディスカッション		
	3	講義	展示に関連した内容の講義を中心に（テキスト使用）		
	4	鑑賞	予定：東京都現代美術館		
	5	課題発表	レポート発表とディスカッション		
	6	講義	展示に関連した内容の講義を中心に（テキスト使用）		
	7	鑑賞	未定		
	8	課題発表	レポート発表とディスカッション		
	9	講義	展示に関連した内容の講義を中心に（テキスト使用）		
	10	鑑賞	未定		
	11	課題発表	レポート発表とディスカッション		
	12	講義	展示に関連した内容の講義を中心に（テキスト使用）		
	13	鑑賞	未定		
	14	課題発表	レポート発表とディスカッション		
	15	期末発表	期末課題の発表		
評価方法	出席回数とレポートの内容から総合的に判断				
テキスト参考書	デイヴィッド・ホックニー マーティン・ゲイフォード 『絵画の歴史 洞窟壁画からiPadまで〈増補普及版〉』（青幻舎）				

科目名	英会話		
開講期	前後期	単位数	6
講師名	五十嵐 太二		
授業概要	英語が話せるようになりたい。英語を使い海外で撮影したい ⇒ 絶対大丈夫！ でも、それにはまず、英語を学ぶことが楽しいと思えることが何よりも大切です。そして地道な努力と覚悟。そのきっかけを見つけてもらうのがこのクラスの目的です。写真を切り口に、とにかく声に出して英語をしゃべってもらいます。恥ずかしいなんて言っているヒマはもうありません！ レベル～中学英語程度（備考：下記内容は学生の習熟度やレベル、その他の状況等によって修正・変更になる場合があります。）		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	ガイダンス	授業説明、英語で自己紹介、写真撮影で使う英語表現
	2	英語総合	座外実習（訪日外国人旅行者に英語でインタビュー）写真撮影 第1回
	3	英語総合	実習の発表会①
	4	英語総合	実習の発表会①
	5	英語総合	座外実習（訪日外国人旅行者に英語でインタビュー）写真撮影 第2回
	6	英語総合	実習の発表会①
	7	英語総合	実習の発表会①
	8	英語総合	海外とオンラインでつなぎ、英語で話してみよう
	9	英語総合	座外実習（訪日外国人旅行者に英語でインタビュー）写真撮影 第3回
	10	英語総合	実習の発表会①
	11	英語総合	実習の発表会①
	12	英語総合	座外実習（訪日外国人旅行者に英語でインタビュー）写真撮影 第3回
	13	英語総合	実習の発表会
	14		
	15		
後期	1	英語総合	後期授業説明、休み期間にやったことを英語で説明する
	2	英語総合	日本や自国のことを英語で紹介できるようにする①
	3	英語総合	座外実習（訪日外国人旅行者に英語でインタビュー）写真撮影 第4回
	4	英語総合	実習の発表会①
	5	英語総合	実習の発表会②
	6	英語総合	ゲストスピーカー
	7	英語総合	写真に英語のタイトルとキャプションをつけて発表する①
	8	英語総合	写真に英語のタイトルとキャプションをつけて発表する②
	9	英語総合	座外実習（訪日外国人旅行者に英語でインタビュー）写真撮影 第5回
	10	英語総合	実習の発表会①
	11	英語総合	実習の発表会②
	12	英語総合	座外実習（訪日外国人旅行者に英語でインタビュー）写真撮影 第5回
	13	英語総合	実習の発表会①
	14	英語総合	実習の発表会②
	15	英語総合	有名な英語スピーチ
評価方法	出席回数、習熟度・理解度、授業態度、自助努力		
テキスト 参考書	授業配布プリント、各自所有の辞書・単語本・熟語本・文法書など		



科目名	社会学		
開講期	前後期	単位数	6
講師名	渡辺 浩平		
授業概要	<p>私たちは日常のなかで「社会的なもの」を生成している。本授業では「社会的なもの」をいかに理解することができるかを考察する。前半は主に社会学の理論や各論を講義する。後半はフィールドワークや、文章、写真、動画等の制作、ディスカッションなどを通じて「社会的なもの」を内側から理解するとはどのようなことかを探究する。本授業の目標は、多様な生き方や価値観を内側から理解し、別の生き方の可能性を想像する力を身につけることである。なお、授業計画は、受講生の数や関心等に応じて変わる可能性がある。</p>		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	はじめに	社会調査法としてのフィールドワーク口
	2	社会学とは	社会・文化とは
	3	社会学とは	社会学的思考と概念
	4	学説史	理論と概念① 方法論的全体論
	5	学説史	理論と概念② 方法論的個人主義
	6	学説史	理論と概念③ 社会的相互行為論
	7	社会調査法	研究テーマと問題意識
	8	各論	集団とは：家族、親族、組織
	9	各論	環境と生活
	10	各論	政治と経済
	11	各論	宗教と世界観
	12	まとめ	前期まとめ
	13	テスト	前期テスト
	14		
	15		
後期	1	社会調査法	参与観察：半構造化インタビュー
	2	社会調査法	参与観察：フィールドノート
	3	社会調査法	参与観察：民族誌
	4	社会調査法	フィールドワーク計画
	5	社会調査法	フィールドワーク計画
	6	社会調査法	フィールドワーク計画
	7	社会調査法	フィールドワークの実施
	8	社会調査法	調査結果の整理・ディスカッション
	9	社会調査法	調査結果の整理・ディスカッション
	10	社会調査法	調査結果の整理・ディスカッション
	11	社会調査法	調査結果の整理・ディスカッション
	12	社会調査法	調査報告
	13	社会調査法	調査報告
	14	まとめ	後期まとめ
	15	テスト	後期テスト
評価方法	前・後期のテストと、授業内課題、授業の参画度などから総合的に評価する。		
テキスト 参考書	授業で配布・指示する。		

科目名	メディア論		
開講期	前後期	単位数	6
講師名	関 貴尚		
授業概要	<p>本授業では、「メディア」について考える。  メディアというマスメディアやソーシャルメディアなどが馴染み深いものではあるが、情報を伝達するときに空気のようにまわりついてきて、切り離すことができない要素がメディアである。そのメディアがどんなものなのか理解し、そのメディアによって社会や人々の感情がどのように動かされてきたのか考察する。そのため、本講義では、ファッション、アイドル、戦争、死、政治などを、メディア（新聞、ラジオ、テレビ、インターネットなど・・・）の視点から読み解く。  なお、本講義では、グループワークおよびオープンチャット機能を使って、授業中に質問やコメントを募集する場合がある。  本講義を履修することによって以下の能力を修得することを目指す。  1) メディア特性を知り、自らの制作に活かす。  2) メディアという観点から分析・観察する視点を獲得する。□</p>		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	イントロ	「メディア」とは（メディアの概念・種類）
	2	講義	ファッションとメディア 1
	3	講義	ファッションとメディア 2
	4	講義	アイドルとメディア 1
	5	講義	アイドルとメディア 2
	6	講義	SNSというメディア
	7	講義	戦争とメディア 1
	8	講義	戦争とメディア 2
	9	講義	メディアと技術革新
	10	講義	死とメディア
	11	鑑賞	映画『ドントルックアップ』から考える
	12	講義	音楽とメディア
	13	授業内課題	メディアの特性について言語化する
	14		
	15		
後期	1	イントロ	前期の復習（メディアとは）
	2	講義	政治とメディア 1
	3	講義	政治とメディア 2
	4	授業内課題	ジョージ・オーウェル小説『1984年』から考える
	5	講義	スポーツとメディア 1
	6	講義	スポーツとメディア 2
	7	講義	ファンとメディア
	8	講義	恋愛とメディア
	9	講義	メディアと情動
	10	講義	アニメとメディア
	11	講義	アートとメディア 1
	12	講義	アートとメディア 2
	13	講義	差別とメディア
	14	講義	ジェンダーとメディア
	15	授業内課題	メディアに支配されないために
評価方法	授業中の出席回数、授業へのリアクション、提出課題で判断。期日通りの課題提出や発表ができない場合、単位は与えられません。		
テキスト 参考書			

2025		区分	必修	対象	I 部3年制2年 PAゼミ
科目名	写真表現演習Ⅲ				
開講期	前後期		単位数	6	
講師名	村越 としや				
授業概要	<p>写真がなかった時代、物事は文字や絵にして残しておかなければ、それを覚えている人間がいなくなると同時に消えるものであった。</p> <p>そんななか、元々自然の法則や自然の現象から写真が発見され、そして科学や技術の発展により、現在では多くの人がカメラを持ち歩き、写真や動画で物事を記録し、すぐにsnsやwebなどに保存、保管することが出来るようになった。</p> <p>結果、今現在も目には見えないデータとして想像もつかないほど大量の写真がweb上に存在し増え続けている。</p> <p>こうした歴史的背景を踏まえたうえで、この授業では、写真が大量生産、大量消費されているからこそ、改めて「写真術」とは何かを考え、明らかにする。</p> <p>前半は写真、印刷の歴史的経緯の一部を体験し、後半は各自の写真作品の制作を中心に行うことを通して、授業を展開する。</p> <p>おおまかな授業計画は以下の通りだが、受講者の関心や進度に応じて柔軟に変更対応する。</p>				
授業計画	回数	主題・目的	授業予定		
前期	1	ガイダンス	授業の流れについて		
	2	カメラという装置を理解する	機械式のカメラを分解し、構造を理解する		
	3		械式のカメラを分解し、構造を理解する		
	4		機械式のカメラを分解し、構造を理解する		
	5		分解したカメラを使い、カメラ標本を作る		
	6	ピンホールカメラ	製作		
	7		撮影と現像		
	8		撮影と現像		
	9		発表と意見交換		
	10	シルクスクリーン	シルクスクリーン印刷について		
	11		写真の選択		
	12		データ制作		
	13		印刷		
	14		発表と意見交換		
	15	前期まとめ	講評		
後期	1	ガイダンス	制作について		
	2	作品制作実習	制作、発表、意見交換		
	3				
	4				
	5				
	6				
	7				
	8				
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
	15	後期のまとめ	講評		
評価方法	出席、授業内容の理解				
テキスト 参考書					

科目名	メディア表現演習 I /Web表現演習		
開講期	前後期	単位数	6
講師名	須田 拓也		
授業概要	<p>この授業では、現代においてとても身近なメディアであるWebのしくみや作り方を学びます。Webでの表現や発信はSNSやさまざまなサービスを利用することでも可能ですが、HTMLやCSSといった技術を学ぶことで自分だけのWebサイトを作ることができます。ポートフォリオサイトを制作して役立てることもできるでしょう。</p> <p>前期後期を通してWebサイトの作り方や公開の方法を学び、後期はWebに関する資格試験で問われる知識や技術と同等の内容の練習問題にも取り組みます。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自身の表現に活かせるようにWebに関する基本的な知識と技術を身につける。</li> <li>・Webサイトを制作・公開・運用する一連の手順を経験する。</li> </ul>		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	ガイダンス	授業内容の説明、制作環境の準備
	2	Webのしくみ	Webのしくみ
	3	HTML、CSS入門	HTML、CSSの基礎
	4	HTML、CSS入門	HTML、CSSの基礎
	5	Webサイトの公開	Webサイトの公開について
	6	中間課題	課題の制作
	7	中間課題	課題の制作・講評
	8	Webサイトの設計・運用	Webサイトの設計・運用について
	9	Webサイトの設計・運用	Webサイトの設計・運用について
	10	まとめ	まとめと補足
	11	課題	課題の制作
	12	課題	課題の制作
	13	課題	課題の発表・講評
	14		
	15		
後期	1	前期の復習	前期の復習
	2	HTMLとCSS	HTMLの基礎と応用
	3	HTMLとCSS	CSSの基礎と応用
	4	課題	練習問題
	5	テーブルとフォーム	テーブル
	6	テーブルとフォーム	フォーム
	7	課題	練習問題
	8	レイアウト	マルチカラムのレイアウト
	9	レイアウト	グリッド状のレイアウト
	10	課題	練習問題
	11	まとめと発展	発展的なWeb表現の紹介
	12	まとめと発展	まとめと補足
	13	課題	課題の制作
	14	課題	課題の制作
	15	課題	課題の発表・講評
評価方法	出席率、提出課題内容から総合的に評価します。		
テキスト 参考書	必要に応じて配布します。		

2025		区分	必修	対象	I 部3年制2年 PAゼミ
科目名	メディア表現演習Ⅱ				
開講期	前後期		単位数	6	
講師名	小島 真也				
授業概要	<p>「動画」を撮ることも観ることも身近になった昨今、写真家にもスチルだけではなく「動画」の表現が求められている。</p> <p>これまでスチル（写真）で培ってきた「色＝カラー」の表現を、動画コンテンツに活かすことは出来ないだろうか？</p> <p>本講座では、タイプの異なる3つのコンテンツを制作しながら、動画としての「見せ方」と「カラー表現」の理解を深めることを目的とする。なおアプリケーションは「DaVinci Resolve」を使用</p> <p>1. ミュージックビデオ（楽曲は自由）</p> <p>2. インタビュー動画（TV番組、ドキュメンタリー風）</p> <p>3. ワンカットCM（15～30秒）</p>				
授業計画	回数	主題・目的	授業予定		
前期	1	概論	ランダムMV＋動画ワークフロー＋映像基礎知識＋DaVinci Resolveについて		
	2	ミュージックビデオ	制作方法とMV構成（メモ、コンテ）		
	3		撮影（スタジオ、近隣、自宅など）		
	4		DaVinci Resolveの使い方		
	5		編集の基本①		
	6		編集の基本②		
	7		カラーグレーディングの基本		
	8		仕上げ編集		
	9		講評		
	10	動画編集演習	動画編集の流れ、動画編集の目的、動画編集のセオリー、		
	11		動画編集のツール、カット編集、トランジション、エフェクト、		
	12		キーフレーム、スタビライザー、テロップ、音声チャンネル、音		
	13		声ノイズ処理		
	14	カラーグレーディング演習	カラーの基礎、カラースペース、ノードベース		
	15		カラーグレーディングの基本：プライマリー、セカンダリー		
	（カラーホイール、カーブ、ウィンドウ、クオリファイア、トラッカー、キーフレーム（カラー）、ノイズ除去、キーイング、LUT、ギャラリーとコピペ）				
後期	1		インタビュー動画の準備		
	2		収録機材の準備/収録①（教室）		
	3		収録②（教室）		
	4	インタビュー動画	インタビュー編集①		
	5		インタビュー編集②		
	6		講評		
	7		企画		
	8		構成、台本（画コンテ）作成		
	9		撮影/スタジオ他		
	10	ワンカットCM 学内サイネージ発表	編集実習（BGMなど）		
	11		講評		
	12				
	13				
	14				
		15	予備日		
評価方法	制作過程での取り組みと提出課題、仕上がり評価				
テキスト参考書	SchooSwingにて、レジュメPDFを配布				

2025		区分	必修	対象	I 部2年
科目名	画像処理Ⅱ				
開講期	前後期		単位数	6	
講師名	羽立 孝				
授業概要	”イメージ”はコミュニケーションの一つです。”イメージ”を具現化し他者を介し昇華していく上で、デジタル写真をレタッチしていくことはとても重要なことになっています。個々の目的のイメージにより、その必要十分性は変化していきますがそれらの技術を幅広く習得し、またイメージ作成にあたり必要な技術を取捨選択し、最善の結果を得られるイメージづくりができることを目標とします。 それぞれの今後の写真への取り組みへの明確な目標、また課題を持ち、授業に望んでください。				
授業計画	回数	主題・目的	授業予定		
前期	1	概要	ペンタブレット・Bridge		
	2	RAW現像	ヒストグラム、情報		
	3	テザー撮影	SONY、CANON、NIKON		
	4	Photoshop	レイヤーの仕組み(修復ブラシ・コピースタンプ)		
	5	選択範囲	選択範囲およびマスクの概要		
	6	パス①	パスの概要		
	7	パス②	パスの選択、使い方		
	8	パス③	パスを組み合わせる使う		
	9	選択範囲	色		
	10	選択範囲	輝度		
	11	チャンネル	小テスト		
	12	トーンカーブ①	ブラシ		
	13	トーンカーブ②	ブラシ&情報		
	14	テスト	前期内容		
	15	回答			
後期	1	前期の復習	確認および補足		
	2	スマートオブジェクト	概要(RAW)		
	3	スマートオブジェクト	変形		
	4	スマートオブジェクト	フィルター		
	5	スマートオブジェクト	ゆがみ		
	6	スマートオブジェクト	小テスト		
	7	スマートオブジェクト	背景延ばし		
	8	描画モード	スクリーン		
	9	描画モード	乗算		
	10	描画モード	乗算		
	11	描画モード	乗算		
	12	描画モード	オーバーレイ		
	13	描画モード	オーバーレイ & カラー		
	14	テスト	後期内容		
	15	回答			
評価方法	平常点60点(15回出席、減点方式)、期末テスト40				
テキスト 参考書					

科目名	フォローアップ講座		
開講期	前後期	単位数	6
講師名	教務課・キャリアセンター・山ノ手写真 安部先生		
授業概要	<p>卒業年度に進級おめでとうございます。この授業では、(1)卒業作品展に向けた準備(2)就職やデビューに向けた準備、(3)キャリアに対する考え方や活動の進め方を中心に学んでいきます。卒業作品展に向けた準備ではいろいろな展示方法や、作家の紹介などを通じて、自分の作品に対するイメージを膨らませていきます。実際の制作に活かした、よい卒業作品展を目指しましょう。</p> <p>また、(2)や(3)では実際に仕事の現場はどのような場所なのかを知ったり、キャリアの考え方を広げたり…。自分の生き方を考え直すきっかけにもするような発見や出会いをしてほしいと思っています。</p>		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	オリエンテーション	キャリアのプランニングとは(仕事の種類を知ろう)フォローアップシートの提出確認
	2	キャリア研究	キャリア①
	3	キャリア研究	キャリア②
	4	キャリア研究	キャリア③
	5	卒業研究	卒業作品展とは、作品を展示する、ということとは
	6	卒業研究	卒展に向けたワークショップ
	7	卒業研究	卒展に向けたワークショップ
	8	企業研究	企業説明会①
	9	卒業研究	卒展に向けたワークショップ
	10	卒業研究	卒展に向けたワークショップ
	11	企業研究	企業説明会②
	12	卒業研究	卒展に向けたワークショップ
	13	卒業研究	卒展に向けたワークショップ
	14	卒業研究	卒展に向けたワークショップ
	15	キャリア研究	前期のまとめ
後期	1	個別相談	進路調査・個別相談会
	2	卒業研究	卒展に向けたケーススタディ
	3	卒業研究	卒展に向けたケーススタディ
	4	卒業研究	卒展に向けたケーススタディ
	5	企業研究	企業説明会③
	6	卒業研究	卒展制作
	7	卒業研究	卒展制作
	8	自己PR力UP	ポートフォリオレビュー
	9	卒業研究	卒展制作
	10	卒業研究	卒展に向けた準備①
	11	卒業研究	卒展に向けた準備②
	12	卒業研究	卒展に向けた準備③
	13	卒業研究	卒展に向けた準備④
	14	まとめ	授業調整日
	15	まとめ	一年のまとめ
評価方法	出席と授業態度、意欲、提出物で総合的に評価		
テキスト 参考書	スクーの動画資料など。授業内で適宜指示します。		

2025		区分	選択必修	対象	ドキュメンタリー・クリエイティブ・ネイチャー・スポーツ
科目名	写真創作演習				
開講期	前後期		単位数	6	
講師名	馬場 智行				
授業概要	<p>手法の用い方が自分自身の撮影行為とどのように関係するか、また観賞者にとってどのような意味として表されるのかを体験し、表現の引き出しを増やす事、及び選択の仕方の基準を得る事をこの授業の目的とします。</p> <p>前期には、五つのテーマの中で、手法の研究を行なっていきます。各テーマに対し、3～4の手法を設定し、各々がその中から選択した手法に基づき作品制作します。持ち寄った作品に対してディスカッションし、手法の効果を考察し共有します。</p> <p>後期には、前半後半に分けて、一つのテーマに対して異なる手法で二つの作品を製作し、選択した手法についてより深く研究していきます、</p>				
授業計画	回数	主題・目的	授業予定		
前期	1	オリエンテーション	授業内容の説明 第一回テーマと手法の発表 一年時に制作した課題10枚程度各自持参		
	2	1-1	第1回テーマ：存在 手法：距離によるコントロール 主観 客観 中間（グループa）		
	3	1-2	第1回テーマ：存在 手法：距離によるコントロール 主観 客観 中間（グループb）		
	4	1-3	第1回テーマ：存在 手法：距離によるコントロール 主観 客観 中間（グループc）		
	5	2-1	第2回テーマ：空間 手法：スナップ ノーフインダー コラージュ（グループa）		
	6	2-2	第2回テーマ：空間 手法：スナップ ノーフインダー コラージュ（グループb）		
	7	2-3	第2回テーマ：空間 手法：スナップ ノーフインダー コラージュ（グループc）		
	8	3-1	第3回テーマ：感情 手法：アウトオブフォーカス 多重露光 クローズアップ（グループa）		
	9	3-2	第3回テーマ：感情 手法：アウトオブフォーカス 多重露光 クローズアップ（グループb）		
	10	3-3	第3回テーマ：感情 手法：アウトオブフォーカス 多重露光 クローズアップ（グループc）		
	11	4-1	第4回テーマ：他者 手法：タイポロジー ファウンドフォト ステージドフォト 定点観測（グループa）		
	12	4-2	第4回テーマ：他者 手法：タイポロジー ファウンドフォト ステージドフォト 定点観測（グループb）		
	13	4-3	第4回テーマ：他者 手法：タイポロジー ファウンドフォト ステージドフォト 定点観測（グループc）		
	14	5-1	夏休み課題の提出・発表 課題テーマ 都市 手法 自由		
	15	5-2	夏休み課題の提出・発表 課題テーマ 都市 手法 自由 後期の説明		
後期	1	1-1	各自のテーマとテーマに対して選択した手法の発表（一作目）		
	2	1-2	作品・手法の検証		
	3	1-3	作品・手法の検証		
	4	1-4	作品・手法の検証		
	5	1-5	作品・手法の検証		
	6	1-6	作品・手法の検証		
	7	提出	まとめた物を提出・発表		
	8	2-1	一作目のテーマに対して異なる手法での制作開始		
	9	2-2	作品・手法の検証		
	10	2-3	作品・手法の検証		
	11	2-4	作品・手法の検証		
	12	2-5	作品・手法の検証		
	13	2-6	作品・手法の検証		
	14	2-7	作品・手法の検証		
	15	提出	まとめた物を提出・発表		
評価方法	課題提出、提出頻度、課題内容、出席回数				
テキスト参考書	必要に応じて随時指定				



2025		区分	選択必修	対象	I 部2年制2年 ドキュメンタリー・クリエイティ ブ・ネイチャー・スポーツ
科目名	取材撮影演習				
開講期	前後期		単位数	6	
講師名	鈴木 邦弘				
授業概要	この授業は、撮影対象をとおして自分なりのテーマ、作品をまとめるための背骨になる部分を学びます。決められた対象から自分なりの企画を考え(アイデア、コンセプト)、実際に撮影に行き(撮影)、その経験を踏まえて企画の見直しを行い(アイデア、コンセプトの修正)、再び撮影に行き(撮影の修正)、最終的な構成を考えそれらの写真群を作品化する(シークエンス、構成)。このような作品作りのために必要なプロセスを短期間で、何回か繰り返して経験し、自分なりのテーマの発見の仕方、それに沿った写真撮影という行為、シークエンス、構成を考え、作品のまとめ方などを身につけることが目的です。				
授業計画	回数	主題・目的	授業予定		
前期	1	授業説明	公園シリーズ、動物園シリーズ、ストリート(商店街なども含む)シリーズ、街シリーズの4本のシリーズを制作してもらいます。撮影場所の決定など(全員同じ場所で撮影をすることが前提)。		
	2	企画書制作	撮影対象、テーマなどの検討		
	3	撮影実習	ロケハン兼ねて		
	4	企画書見直し	前回撮影した写真、経験を踏まえて、撮影対象、テーマの明確化		
	5	撮影実習			
	6	撮影実習			
	7	課題提出	シークエンス、構成を考えたまとまりのある10枚以上、A4以上のプリント		
	8	課題提出	シークエンス、構成を考えたまとまりのある10枚以上、A4以上のプリント		
	9	企画書制作	撮影対象、テーマなどの検討		
	10	撮影実習	ロケハン兼ねて		
	11	企画書見直し	前回撮影した写真、経験を踏まえて、撮影対象、テーマの明確化		
	12	撮影実習			
	13	撮影実習			
	14	課題提出	シークエンス、構成を考えたまとまりのある10枚以上、A4以上のプリント		
	15	課題提出	シークエンス、構成を考えたまとまりのある10枚以上、A5以上のプリント		
後期	1	企画書制作	撮影対象、テーマなどの検討		
	2	撮影実習	ロケハン兼ねて		
	3	企画書見直し	前回撮影した写真、経験を踏まえて、撮影対象、テーマの明確化		
	4	撮影実習			
	5	撮影実習			
	6	課題提出	シークエンス、構成を考えたまとまりのある10枚以上、A4以上のプリント		
	7	課題提出	シークエンス、構成を考えたまとまりのある10枚以上、A4以上のプリント		
	8	企画書制作	撮影対象、テーマなどの検討		
	9	撮影実習	ロケハン兼ねて		
	10	企画書見直し			
	11	撮影実習			
	12	撮影実習			
	13	課題提出	シークエンス、構成を考えたまとまりのある10枚以上、A4以上のプリント		
	14	課題提出	シークエンス、構成を考えたまとまりのある10枚以上、A4以上のプリント		
	15	まとめ			
評価方法	提出課題の平均点を成績とする。				
テキスト 参考書	取材撮影地は変更の可能性があります。				

科目名	ポートレートライティング		
開講期	前後期	単位数	6
講師名	池谷 友秀		
授業概要	全ての写真は光と影で写ります。その光と影を自由にコントロールすることで自らの写真撮影に繋がりたい通りの表現ができるようになります。この授業ではカメラの使い方は勿論のこと光源の大きさや方向で写り方が変化することを基本的にスタジオ内で学びます。後期では企画書を作り実現する段取りを学びます。		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	授業説明	オリエンテーション 自己PR(各自作品持参)
	2	機材の扱い	機材の扱い方復習
	3	講習、座学	白ホリの塗り方
	4	講習、座学	ポートレートの歴史 媒体 リファレンス集め
	5	技術	光源の違い
	6	技術	MIX光
	7	技術	背景と人物の露出差のコントロール
	8	技術	シャッタースピードのコントロール
	9	技術	Movie撮影との親和性
	10	撮影流れ	ポートレート撮影リファレンス
	11	撮影練習	ポートレート テスト撮影
	12	撮影	ポートレート本番撮影
	13	撮影流れ	ポートレート撮影リファレンス
	14	撮影練習	ポートレート テスト撮影
	15	撮影	ポートレート本番撮影
後期	1	講習、座学	リファレンス集め
	2	技術	商品とポートレート
	3	技術	風などの動きのある撮影
	4	技術	カラーフィルターを使った撮影
	5	技術	スモークを使った撮影
	6	技術	プロジェクターを使った撮影
	7	技術	Still & Movieの連動撮影
	8	技術	ロケ撮影
	9	撮影流れ	ポートレート撮影リファレンス
	10	撮影練習	ポートレート テスト撮影
	11	撮影	ポートレート本番撮影
	12	撮影流れ	自由課題 リファレンス
	13	撮影練習	自由課題 テスト撮影
	14	撮影	自由課題 本番撮影
	15		写真講評 まとめ
評価方法	授業中の積極性と提出物		
テキスト 参考書			

2025		区分	必修	対象	I 部2年制2年 コマーシャル・レタッチ
科目名	スチルライフライティング				
開講期	前後期		単位数	6	
講師名	安澤 剛直				
授業概要	世の中に必要とされているスチルライフとは、どんなコンセプトでどんなターゲット層にどのように響かせるか??を写真で表現することが求められています。ライティングによる表現だけでなく、構図、様々なアイデアが求められます。授業としては、ライティングの基礎、一灯ライティングによる表現、多灯ライティングによる表現、光の捉え方を中心に学びます。また、年間を通しての作品作りとコンセプトに合わせた撮影を提案する課題を中心にした実技を多く行います。				
授業計画	回数	主題・目的	授業予定		
前期	1	撮影実習	ライティング基礎（光のトーン/捉え方）／四つのメインライト		
	2	撮影実習	ライティングの組み立て方		
	3	撮影実習	商品 基本ライティング		
	4	外部講師	ポージング		
	5	外部講師	キャプチャーワン講習		
	6	撮影実習	ライティング表現（白背景／白い商品）		
	7	撮影実習	ライティング表現（黒背景／黒い商品）		
	8	撮影実習	ライティング表現（食べ物）		
	9	撮影実習	ライティング表現（食べ物）		
	10		コンセプト企画／作成		
	11		コンセプト企画／提案		
	12	撮影実習	ライティング表現（コンセプト企画）		
	13		コンセプト企画／作成		
	14	撮影実習	ライティング表現（コンセプト企画）		
	15				
後期	1	図書室	ライティング表現（各自） 14回撮影分 決める		
	2	撮影実習	ライティング表現（各自）／各自講評		
	3	撮影実習	ライティング表現（各自）／各自講評		
	4	撮影実習	ライティング表現（各自）／各自講評		
	5	撮影実習	ライティング表現（各自）／各自講評		
	6	撮影実習	ライティング表現（各自）／各自講評		
	7	撮影実習	ライティング表現（各自）／各自講評		
	8	撮影実習	ライティング表現（各自）／各自講評		
	9	撮影実習	ライティング表現（各自）／各自講評		
	10	撮影実習	ライティング表現（各自）／各自講評		
	11	撮影実習	ライティング表現（各自）／各自講評		
	12	撮影実習	ライティング表現（各自）／各自講評		
	13	撮影実習	ライティング表現（各自）／各自講評		
	14	撮影実習	ライティング表現（各自）／各自講評		
	15	撮影実習	ライティング表現（各自）／各自講評		
評価方法	授業への姿勢・態度/課題への取り組み/理解度・習得など				
テキスト 参考書	ウェディングフォト&ライティング実践講座（玄光社）／和装ウェディング&成人式 撮影ガイドブック（玄光社）				

科目名	スタジオライティング		
開講期	前後期	単位数	6
講師名	出水 恵利子		
授業概要	<p>この授業は、クラス全員がスタジオ機材の使い方、使用目的に応じたセッティング、ライティングを習得するものとする。最低限の、プロとしての仕事スキルを習得することを目的にしています。グループ研究課題以外は、必ず、自分のカメラで、自分自身で、ピントを合わせ、シャッターを押し撮影すること。スタジオ器材、レンズ、PCは、授業内容に合わせて、授業貸しをします。授業中の課題提出に関わる商品は、原則、各自が用意すること。機材の用意は、事前に準備された機材を教務課から、当番制で持ってくる。当番は、白板に機材の名前、数量を書き出し、授業終了時に、確認すること。点呼以降、姿が見えない、授業中積極的に、機材のセッティングを行わない者は、減点とします。</p>		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	機材の使用法	機材の使い方
	2	基礎	ライティングの基本
	3	基礎	基本ライティングで撮影
	4	写り込み	カトラリー・点光源
	5	写り込み	カトラリー・面光源
	6	採点	課題提出・確認
	7	ハイライト	缶撮影
	8	ハイライト	缶撮影
	9	透過光	ガラスコップ・ビン撮影
	10	透過光	透過光イメージ
	11	透過光	透過光・切り抜き
	12	自由	季節を考えたライティング
	13	多投	三面見せ
	14	多投	三面見せ切り抜き
	15	課題確認	課題提出・確認
後期	1		人物撮影・基本ライティング
	2		人物撮影・白バック
	3		人物撮影黒バック
	4		人物撮影全身
	5		人物撮絵モデル撮影セット
	6		人物撮影本番
	7		課題提出・確認
	8		食品撮影
	9		食品イメージ
	10		パン撮影
	11		ケーキ撮影
	12		時計撮影
	13		革撮影
	14		衣類撮影
	15		スライドショー
評価方法	授業採点方法は、出席と課題提出です。欠席1回につきー5点・評価点はA～D（Dは加点無し）		
テキスト 参考書	コマーシャルフォト		

2025		区分	必修	対象	I 部2年制2年 コマーシャル・レタッチ・プライダ ル・ファッション・ライブ
科目名	ヴィジュアルディレクション				
開講期	前期		単位数	3	
講師名	片山 順平				
授業概要	<p>現在メディアの変化、多様化と共にフォトグラファーには映像を求められる機会が増えています。</p> <p>私自身、写真からのスタートでしたが、映像撮影の機会が増え、現在は写真と映像を両立させながら仕事をしています。</p> <p>そしてこの流れは今後とも加速していくと思われます。</p> <p>フォトグラファーを包む環境を知っておくことは、自分の進む方向を決める大切なきっかけになると思います。</p> <p>この授業では『知る』をテーマに写真と映像の共通点と相違点を学びながら、一つの映像が出来るまで、撮影から編集、機材や撮影現場の様子、広告映像業界などの仕事や流れなどを学びます。</p> <p>一つの映像作品を作る知識と技術を身につけること、それを最終的な目標としています。□</p>				
授業計画	回数	主題・目的	授業予定		
前期	1	お互いを知る	授業内容の説明、講師の作品などを見ながらお互いの自己紹介(プロフィール持参)		
	2	写真と映像の違いを知る	写真と映像の共通点と相違点、映像の種類などを学ぶ		
	3	映像を知る	映像の手法や基礎として必要なことを学ぶ		
	4	カメラを知る	一眼レフでのムービーの操作、注意点、その他ムービーカメラを学ぶ		
	5	様々な機材を知る	映像を作るのに必要なカメラやその他機材(照明録音など)を学ぶ		
	6	アングルを知る	アングルの効果や注意点を学ぶ		
	7	動きを知る	ムービーの三脚を使って色々なカメラの動きを学ぶ。特機などの紹介		
	8	企画演出を知る	映像を作る際の企画演出、コンテ制作などを学ぶ		
	9	仕事を知る	映像業界の仕事現場や流れなどを学ぶ		
	10	撮影を知る	撮影実習、作品のプレゼン		
	11	インタビューを知る	インタビュー撮影を学ぶ		
	12	編集を知る	Premiereを使い編集を学ぶ		
	13	カラコレを知る	PremiereやDaVinci Resolveを使いカラーマネジメントを学ぶ		
	14	作品編集	今まで撮影してきた素材を使って編集し作品を作る		
	15	講評	作品講評		
後期	1				
	2				
	3				
	4				
	5				
	6				
	7				
	8				
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				
評価方法					
テキスト 参考書					

2025		区分	必修	対象	I 部2年制2年 コマーシャル・レタッチ・ブライダル・ファッション・ライブ
科目名	ヴィジュアルディレクション				
開講期	後期		単位数	3	
講師名	ジェイ・メータ				
授業概要	<p>広告系の仕事の商流や人、コト、アイデアなどの流れを理解するための講義。フォトグラファーの仕事内容や立ち位置を「仕事の種類」ごとに解説。さらに、仕事に関わるさまざまな役割を理解することで、お互いの仕事がどのように影響するかを学ぶ。</p> <p>撮影前の事前準備やポストプロなどの流れを理解することで、フォトグラファー「ひとり」としてではなく、チームとして動ける意識を醸成。</p> <p>学んだ内容を使って広告系コンペへの出展を最終課題とする。</p> <p>講師のジェイ・メータは、広告系の制作商流を幅広く担当しており、それぞれの立場の目線からフォトグラファーに求められる考え方やスタンスを解説。</p>				
授業計画	回数	主題・目的	授業予定		
前期	1				
	2				
	3				
	4				
	5				
	6				
	7				
	8				
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				
後期	1	ガイダンス	講義全体の紹介。半期のスケジュール、課題の共有。		
	2	ディスカッション	アートディレクター、カメラマンなどを交えた模擬企画会議を実施		
	3	シューティング	企画会議に合わせたシューティングを実施。		
	4	ポストプロ	デザイナーがポストプロでどのような仕事をしているかを学び体験		
	5	グループワーク	2～4の授業で学んだ内容を踏まえて、自分達でワークフローを再現		
	6	グループワーク			
	7	グループワーク			
	8	ディスカッション	アートディレクター、カメラマンなどを交えた模擬企画会議を実施		
	9	シューティング	企画会議に合わせたシューティングを実施。		
	10	ポストプロ	デザイナーがポストプロでどのような仕事をしているかを学び体験		
	11	グループワーク	2～4の授業で学んだ内容を踏まえて、自分達でワークフローを再現		
	12	グループワーク			
	13	グループワーク			
	14	課題準備	ガイダンスで共有した課題の進捗確認、発表に向けた準備		
	15	課題発表	課題の発表と評価。コンペへの提出準備。		
評価方法					
テキスト 参考書					

2025		区分	必修	対象	1 部3年制3年 総合写真研究ゼミ 1 部2年制2年 ドキュメンタリーフォト・ フォトクリエイティブ・ネイチャーフォト・ス トoriesフォト
科目名	映像表現論				
開講期	前後期		単位数	6	
講師名	奥 初起				
授業概要	<p>この授業では、さまざまな歴史の中で生まれた作品を通して表現のあり方を学び、自分の言葉でしっかりと語れる力を養っていきます。得た知識をもとに表現の幅を広げ、今後の自身の作品制作に活かすことを目標とします。授業は、写真集、作品展、映像資料などをもとに進めていきます。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 作品を鑑賞し、作者がどのようなことを考え、何を伝えようとしているのかを考察し、自分の言葉で説明する力を身に付ける。</li><li>・ さまざまな作品の特徴や制作背景を理解し、自らの作品制作に活かす。</li></ul>				
授業計画	回数	主題・目的	授業予定		
前期	1	ガイダンス	オリエンテーション		
	2	講義	写真作品における言葉の扱い方		
	3	講義	写真作品における言葉の扱い方 ステートメント、キャプション		
	4	作品実見	写真展見学※展示状況次第で変更あり		
	5	実習	自身の作品を考える。企画書作成		
	6	実習	企画書の確認		
	7	講義	日本の写真家紹介①		
	8	講義	日本の写真家紹介②		
	9	講義	日本の写真家紹介③		
	10	講義	内容調整日		
	11	作品実見	写真展見学※展示状況次第で変更あり		
	12	講義	海外の写真家紹介①		
	13	講義	海外の写真家紹介②		
	14	講義	海外の写真家紹介③		
	15	講義・作品実見	前期まとめ・写真展見学		
後期	1	講義	日本の写真家紹介①		
	2	講義	日本の写真家紹介②		
	3	作品実見	写真展見学※展示状況次第で変更あり		
	4	講義	表現研究①		
	5	講義	表現研究②		
	6	作品実見	写真展見学※展示状況次第で変更あり		
	7	講義	表現研究③		
	8	講義	表現研究④		
	9	作品実見	写真展見学※展示状況次第で変更あり		
	10	講義	海外の写真家紹介①		
	11	講義	海外の写真家紹介②		
	12	講義	表現研究⑤		
	13	講義	表現研究⑥		
	14	講義	表現研究⑦		
	15	講義	後期まとめ		
評価方法	授業態度、提出物				
テキスト 参考書					

2025		区分	必修	対象	I 部2年制2年 コマーシャル・レタッチ・フライング・ファッション・ライブ
科目名	映像表現論				
開講期	前後期		単位数	6	
講師名	江澤 勇介				
授業概要	<p>写真表現・映像表現は、テクノロジーの進化、撮影技術の進歩、社会状況や人々の意識の変化など、様々な要因の中で、時代と共に変わり続けており、その変化は年々早さを増しているように思えます。しかし、2-3年前の写真を見ても古く感じることもあれば、50年前の写真が最新のものとして受け入れられる、というようなこともあり、一方向に進化しているだけではなく、寄せては返す波のようにあちこち行ったり来たりしながら動き続けているという方が的確かもしれません。</p> <p>この授業では写真や映像がどのような形で現在の社会の中にあるのか、これまでの経緯などにも触れながら考え学びます。</p> <p>教室での講義だけに留まらず、実際に現場に伺い理解を深める校外実習や、写真・映像に関わる仕事をしている方々のお話を聴くゲスト講義など、写真・映像の現在を様々な形で学んでいきます。</p> <p>写真・映像と一口で言ってもジャンルによってその内容は千差万別です。多様な現場で写真がどのように扱われているかを学ぶことで自身の興味をより明確にし、卒業後の進路も含め、どのような形で写真と関わっていくのかを考える機会とします。</p>				
授業計画	回数	主題・目的	授業予定		
前期	1	自己紹介	自己紹介、授業の説明		
	2	ワーク 1	好きな写真について話してみる		
	3	講義	広告と写真		
	4	講義	音楽と写真		
	5	講義	カメラマン、フォトグラファー、写真家 写真との関わり方		
	6	講義	写真の現在 インターネット以降の写真を考える		
	7	校外実習 1	写真の現場をみる① 準備編		
	8	校外実習 1	写真の現場をみる① 見学編		
	9	校外実習 1	写真の現場をみる① 振り返り編		
	10	ゲスト講義 1	写真の現場の話を聞こう①		
	11	ゲスト講義 1	写真の現場の話を聞こう① 振り返り編		
	12	校外実習 2	写真の現場をみる② 準備編		
	13	校外実習 2	写真の現場をみる② 見学編		
	14	校外実習 2	写真の現場をみる② 振り返り編		
	15	ワーク 2	前期のまとめ		
後期	1	講義	前期の振り返りと後期の説明		
	2	ワーク 3	自分のキャリアを考える		
	3	ゲスト講義 2	写真の現場の話を聞こう②		
	4	ゲスト講義 2	写真の現場の話を聞こう② 振り返り編		
	5	校外実習 3	写真の現場をみる③ 準備編		
	6	校外実習 3	写真の現場をみる③ 見学編		
	7	校外実習 3	写真の現場をみる③ 振り返り編		
	8	ゲスト講義 3	写真の現場の話を聞こう③		
	9	ゲスト講義 3	写真の現場の話を聞こう③ 振り返り編		
	10	校外実習 4	写真の現場をみる④ 準備編		
	11	校外実習 4	写真の現場をみる④ 見学編		
	12	校外実習 4	写真の現場をみる④ 振り返り編		
	13	ゲスト講義 4	写真の現場の話を聞こう④		
	14	ゲスト講義 4	写真の現場の話を聞こう④ 振り返り編		
	15	ワーク 4	後期のまとめ		
評価方法	出席、提出課題などを見て総合的に評価します。				
テキスト 参考書					



2025		区分	必修	対象	I 部2年制2年 コマーシャル・レタッチ・フライング・ファッション・ライブ
科目名	写真表現演習				
開講期	前後期		単位数	6	
講師名	柳本 史歩				
授業概要	<p>今授業ではこれまで習得した技術を生かし、作品づくりや関心の幅を広げてゆくことを目的とします。</p> <p>撮影技術は日々進歩をしています。誰でもがある程度綺麗に撮影することができ、またプリントすることが出来るようになりました。昨今社会で求められているスキルは撮影技術の向上だけではなく、そうした機材を使って何を撮るかといった部分であると思います。これは作家活動とは離れている分野でも等しく求められる要素です。</p> <p>今授業では作品づくりを短期的に繰り返し、自分の本質を探してゆく作業を行います。課題を通し、写真を見ることや見せることへの楽しみを再確認してゆくことを試みます。</p>				
授業計画	回数	主題・目的	授業予定		
前期	1	ガイダンス	ガイダンス 後期作品づくりの解説と進行について		
	2	講義	ポートフォリオ作成の進行確認		
	3	実習	第1回フィールドワーク		
	4	実習	第1回フィールドワークの報告と成果確認		
	5	実習	第2回フィールドワーク		
	6	実習	第2回フィールドワークの報告と成果確認		
	7	実習	後期作品の中間報告		
	8	実習	後期作品の中間報告		
	9	実習	第3回フィールドワーク		
	10	実習	第3回フィールドワークの報告と成果確認		
	11	実習	第4回フィールドワーク		
	12	実習	第4回フィールドワークの報告と成果確認		
	13	実習	ポートフォリオの作成		
	14	実習	ポートフォリオの作成		
	15	まとめ	ポートフォリオの発表とまとめ		
後期	1	ガイダンス	ガイダンス ポートフォリオについて		
	2	講義	第1回課題_1st作品制作について 撮影の計画作成		
	3	実習	第1回課題_1st作品制作について 作品制作		
	4	実習	第1回課題_1st作品制作について 前回授業の結果報告と作品制作		
	5	実習	第1回課題の1st作品制作について 講評と次回撮影の打ち合わせ		
	6	実習	第2回課題_2nd作品制作について ポートフォリオについて		
	7	実習	第2回課題_2nd作品制作について 作品制作		
	8	実習	第2回課題_2nd作品制作について 前回授業の結果報告と作品制作		
	9	実習	第2回課題_2nd作品制作について 前回授業の結果報告と作品制作		
	10	実習	第2回課題_2nd作品制作について 講評と次回撮影の打ち合わせ		
	11	実習	第3回課題_3rd作品制作について 作品制作		
	12	実習	第3回課題_3rd作品制作について 前回授業の結果報告と作品制作		
	13	実習	第3回課題_3rd作品制作について 前回授業の結果報告と作品制作		
	14	実習	第3回課題_3rd作品制作について 前回授業の結果報告と作品制作		
	15	まとめ	第3回課題_発表 前期のまとめ		
評価方法	出席と課題提出数に準じます。				
テキスト 参考書	その都度紹介します。				

2025		区分		必修		対象		1部2年制2年 ドキュメンタリー・クリエイティ ブ・ネイチャー・スポーツ	
科目名		写真美術史							
開講期		前後期			単位数		6		
講師名		田 凱							
授業概要		<p>写真と絵画の関係は、写真術誕生の初期から組んず解れつ展開してきました。近代は絵画表現では宗教的、理想的な世界が描かれるよりも、遠近法やレンズの光学など科学的理性的知見が注ぎ込まれて、現実世界が正確に描写することにつとめました。カメラ・オブスキュラが、デッサンの補助具としての歴史もあれば、写真はその後、絵画の後塵を拝する場合もあったようだけれども、写真的視覚の登場で、様々な人間の知覚が内側から揺るがされ、人間の知覚経験が拡大されてきました。本講義では、美術と写真の不即不離な関係を軸にして、表現の基層を見つめながら20世紀の美術通史を見ていきます。写真は、原理において他の芸術表現とは異なるけれども、他領域でも手法として出陳されます。また、現代写真の傾向にあるのは、絵画、彫刻などの領域をも冒し、拡張することです。美術史の展開につれて、写真の特質がより明晰になっていきます。それは機械映像と人間の知覚との相互作用のことです。映像で見たことが自らの知見に取り込まれていきます。さらに近年、写真分野ではメディア技術の進化に伴い、新たな専門性を持った人材が切望されています。そのためにも写真映像の特性と他表現のつながりを見つめ直し、その知見を新時代の胎動と結びつけてゆくことが重要です。機械論的視覚論では解明できない、「見る」という能動的行為を探索していきます。表現とその時代を理解する力を身につけることを到達目標とします。</p>							
授業計画		回数	主題・目的	授業予定					
前期	1	イントロダクション	授業の内容、課題、提出方法、採点方法を説明／講義 - 表現の胎動、写真概念						
	2	講義/実習	空間へ再考	- キュビズム					
	3	講義/実習	色彩への再考	-フォーヴィスム					
	4	講義/実習	抽象絵画の道のり	-抽象絵画、バウハウスでの応用					
	5	講義/実習	芸術自体への反逆	- ダダとシュールレアリスム、アジェの写真					
	6	講義/実習	写真が表現への道のり	- 写真概念の誕生、写真と絵画の葛藤					
	7	講義/実習	戦争・革命と芸術	- 両大戦間と第二次世界大戦下のヨーロッパ					
	8	講義/実習	アクションする色彩	- 戦後アメリカ抽象表現主義					
	9	講義/実習	芸術と消費文化	- ネオ・ダダからポップアートへ					
	10	講義/実習	極限への追求	- ミニマリズムとポスト、ミニマリズム、モノ派					
	11	講義/実習	思考のカタチ	- コンセプチュアルアート、ランドアート、写真へ影響					
	12	講義/実習	デザイン表現 1	- バウハウス史					
	13	講義/実習	デザイン表現 2	- ビジュアルデザイン、ポスター史					
	14	実習	自分の写真作品を用いて、マイ・ポスターを制作・事前課題名刺デザイン						
	15	全体講評	自分の写真作品を用いて、マイ・ポスターを発表						
後期	1	講義/実習	後期説明、課題説明						
	2	講義/実習	2000年までの芸術表現	- 新表現主義、公共アート、ニューベイツィングなど					
	3	講義/実習	現代の写真表現	- アプロプリエーション、チャーズ・ジェネレーション					
	4	講義/実習	サブカルチャーと写真1	-消費社会と虚構の時代口					
	5	講義/実習	サブカルチャーと写真2	-グローバル化する中国と新たな地理感覚口					
	6	講義/実習	日本近現代美術 3	-冷戦終結後の美術、代表美術家村上隆					
	7	講義/実習	日本近現代美術 2	-復興期、激動期、消費社会の美術、代表美術家岡本太郎					
	8	講義/実習	日本近現代美術 1	-明治後期から戦時下の美術、代表美術家藤田嗣治					
	9	ワークショップ	芸術家の主体的表現	- 中国文革期後の芸術、シニカル・リアリズム、ポリティカル・ポップ					
	10	ワークショップ	中国の現代写真	-中国ニュードキュメンタリーとコンセプチュアルフォト					
	11	講義/実習	展覧会見学	-対象展覧会の作品研究、作品についてディスカッション・コラージュ作品を思索					
	12	講義/実習	映画と写真1	-初期映画口					
	13	全体講評	映画と写真2	-「夢の工場」口					
	14	全体講評	コラージュ作品を制作						
	15	講義/実習	コラージュ作品を発表						
評価方法		出席回数、授業態度、授業の理解度やレポートの明晰性、個人の発見や新視点の有無などの評価基準に基づいて、授業への取り組み（60%）と最終課題（40%）により評価します。							
テキスト 参考書		伊藤俊治著『写真と絵画のアルケオロジー』白水社『ジオラマ論』リポポート飯沢耕太郎監修『世界写真史』美術出版社末永照和監修『20世紀の美術』美術出版社ジル・モラ、前川修他訳『写真のキーワード：技術・表現・歴史』昭和堂H・H・アーナソン、上田高弘他訳『現代美術の歴史』美術出版社ロバート・アトキンズ『近代美術のキーワード』美術出版社ロバート・アトキンズ『現代美術のキーワード』美術出版社中村賢二・岸文和編『日本美術を学ぶ人のために』世界思想社							

2025	区分	必修	対象	全学年
科目名	特別ワークショップ			
開講期	前後期	単位数	※	
講師名	本校講師・招聘講師			
授業概要	時代を象徴する国内外の写真家、業界で注目されているプロカメラマン、新進気鋭のフォトグラファーなどをお招きします。オリジナル作品の本人による解説や出席者の作品講評やワークショップなど、学生自身の創作意欲を高めます。			
評価方法	出席			
備考	招聘講師との日程調整が確定次第、掲示にて発表。学外のギャラリー等でも実施します			

2025	区分	必修	対象	全学年
科目名	NPIポートフォリオコンペティション			
開講期	後期	単位数	※	
講師名	本校講師			
授業概要	学生が自主制作したポートフォリオから最優秀賞や優秀賞、審査員賞などを選出するコンペティションです。制作を通してポートフォリオの構成や表現方法を学び、客観的な評価を受けることで自分の作品に対する理解力を深めます。			
評価方法	課題提出、内容			
備考				

2025		区分	必修	対象	全学年
科目名	海外研修：アルル・パリ／イタリア、台湾、フランス周遊等				
開講期	前期	単位数	※		
講師名	—				
授業概要	<p>学校指定の研修は、各国から1カ国を選択します。 単に海外へ行く旅行ではなく、現地の人々や異文化と撮影取材で直接触れることで国際的な視野を磨くことができる研修合宿です。</p> <p>【フランス：アルル、パリ研修】（3年制 総合2年生および希望者）x 世界から最新の写真表現や著名な写真家の作品が集まる「アルル国際写真祭」に参加します。世界の写真表現の現在を知ることが目的です。また、パリでは、ルーブル美術館や欧州写真美術館等の見学を行い、美術的、文化的な素養を養う機会となる研修旅行です。</p> <p>【他研修】（2年制2年生および希望者） 海外の文化を体感する研修です。豊かな自然や世界遺産など、様々な撮影スポットを訪れ、各国の歴史、文化、生活にふれることができます。</p>				
評価方法					
備考	出発前に研修指導あり。研修先は状況により変更する場合があります。				

2025		区分	必修	対象	I 部2年FW
科目名	2年次海外フィールドワーク研修 マレーシア				
開講期	後期		単位数	※	
講師名	鈴木 邦弘／飯塚 明夫				
授業概要	海外フィールドワークでも訪れる国のひとつであるマレーシアにおける実践的な研修合宿です。3年次の海外フィールドワークを想定し、企画立案や行動計画をはじめ実際にアジアでの取材撮影を経験することで長期取材撮影の予行演習とします。				
評価方法	出席、課題				
備考	詳細はフィールドワークの授業内にて行います				

2025	区分	必修	対象	全学年
科目名	期末・進級・卒業審査			
開講期	前後期末	単位数	※	
講師名	—			
授業概要	各学期末に半年間の学習成果を確認する審査を実施します。後期末の審査は、各年次に合わせて進級審査・卒業審査となります。1年次は共通課題、2～3年次はゼミ課題になります。			
評価方法	出席、課題内容			
備考	課題は掲示発表され、テーマや規定枚数は各学期・学年・ゼミ等により異なります。			

2025	区分	必修	対象	I / II 部 卒業年度生
科目名	卒業作品展			
開講期	後期	単位数	※	
講師名	—			
授業概要	卒業作品展は、在学中に制作した作品制作の成果を学外において発表するものです。公の場において作品を公開し、展示方法、設営などの経験を通じて作品のプレゼンテーションについての見識を深めます。			
評価方法	作品内容、展示設営、写真展運営			
備考	何れも会場の設営から解体、受付まで担当します。			

2025	区分	必修	対象	I / II 部 卒業年度 生
科目名	卒業作品集			
開講期	後期	単位数	※	
講師名	—			
授業概要	作品のセレクトからレイアウトまで、実際の編集作業を体験しながら作成し、1冊の作品集としてまとめます。			
評価方法	作品内容、編集作業			
備考	最終入稿は2～3月頃。完成受取は8～9月頃の予定です。カラー作品はカラー頁、モノクロ作品はモノクロ頁に掲載され、学科や名前順の記載となります。			

2025

区分

選択

対象

全学年

科目名	進路・就職ガイダンス		
開講期	前後期	単位数	※
講師名	—		
授業概要	卒業後を見据えて1年次から実施します。業界の将来性や動向を含めて就職環境を学び、目標とする企業の内定を目指します。		
評価方法	出席		
備考	テキスト、配布資料あり		

2025

区分

選択

対象

全学年

科目名	進級・卒業オリエンテーション		
開講期	随時	単位数	※
講師名	—		
授業概要	学期の始めに開催される始業説明会や進級オリエンテーションなど、学習プランの組み立てから個別相談まで含めて指導し、卒業までのスムーズな学習環境を整えます。		
評価方法	出席		
備考	テキスト、配布資料あり		

2025	区分	選択	対象	全学年
科目名	写真技能検定			
開講期	前後期	単位数	※	
講師名	—			
授業概要	厚生労働省認可の国家検定を在学中に取得することを目指します。初級は3級から、合格すると「写真技能士」の称号を得ます。			
評価方法	取得証明書の提出			
備考				

2025	区分	選択	対象	全学年
科目名	DTP関連資格検定			
開講期	前後期	単位数	※	
講師名	—			
授業概要	DTPに関わる者に必要と思われる各種アプリケーションソフトの検定やそれに準じた資格などを単位として認定します。			
評価方法	取得証明書の提出			
備考				

2025	区分	選択	対象	全学年
科目名	写真関連資格検定			
開講期	前後期	単位数	※	
講師名	—			
授業概要	写真業界に関わる者に必要と思われる諸分野の検定や、それに準じた資格などを単位として認定します。			
評価方法	取得証明書の提出			
備考				

2025	区分	選択	対象	全学年
科目名	学外写真展認定制度			
開講期	前後期	単位数	※	
講師名	前後期			
授業概要	審査制度を設けたギャラリーでの写真展や、オリジナリティあふれる個展などに対して、単位として認定する制度です。			
評価方法	作品内容、企画・運営			
備考	本校指定の報告書を提出			

2025	区分	選択	対象	全学年
科目名	学外公募展（学校指定）入選・受賞認定制度			
開講期	前後期	単位数	※	
講師名	—			
授業概要	本校の指定する公募展に応募、審査を通過して入選や受賞した場合、「学外写真展認定制度」と併せて単位として認定します。			
評価方法	作品・受賞			
備考	本校指定の報告書を提出			

2025	区分	選択	対象	全学年
科目名	インターン制度			
開講期	後期	単位数	※	
講師名	—			
授業概要	学生が一定期間、写真業界などの企業の中でアシスタントとして働き、就業体験を行い、これを単位認定します。ただし、当校がインターン先として認定した企業に限ります。			
評価方法	出席、インターン制度採用企業の評価			
備考	本校指定の勤務報告書を提出			



日本写真芸術専門学校

科目ガイド

2025

I 部 選択科目

I 部 年 組 氏名：

---

## はじめに

この科目ガイドには、日本写真芸術専門学校で開講される各授業の区分、対象、開講期、単位数、講師名、授業計画、授業内容、評価方法等の授業概要が掲載されています。

選択科目の履修計画を立てるときの資料として、また教室内外で学習を進める手がかりとして活用して下さい。

# 科目ガイド 目次

## ■選択科目

p. 1	ムービー制作演習	小島 真也
p. 2	写真史	江澤 勇介
p. 3	ダークルーム	柳本 史歩
p. 4	フォトアート演習	村越としや
p. 5	マガジンメイキング	岡崎 裕美
p. 6	社会学	渡辺 浩平
p. 7	ルポルタージュ演習	五十嵐 太二
p. 8	写真科学	船生 望
p. 9	デジタル表現演習	江澤 勇介
p. 10	ドキュメンタリー写真論	鈴木 邦弘
p. 11	編集出版論	岡崎 裕美
p. 12	英会話	五十嵐 太二
p. 13	美術造形論	遠藤 麻衣
p. 14	フォトクリエイティブ演習 I	奥 初起
p. 15	ビジュアルデザイン	泉 美菜子・宮添 浩司
p. 16	写真創作演習 II	フジモリ メグミ
p. 17	文章表現演習 I	山岸 宏之
p. 18	メディア論	関 貴尚
p. 19	風景写真演習	秦 達夫
p. 20	Web表現演習	須田 拓也
p. 21	ダークルーム	松井 寛泰
p. 22	写真創作演習	田 凱

2025	区分	選択	対象	I 部全学年 選択科目
科目名	ムービー制作演習			
開講期	前後期		単位数	6
講師名	小島 真也			
授業概要	ムービーや映像ではなく「動画」と言われ、撮ることも観ることも身近になった昨今、写真家にもスチルだけではなくムービーの感覚が強く求められている。 スチル（写真）とムービー（動画）では、コンテンツを制作する上で多くの違いがある。 本講座では、タイプの異なる3つのコンテンツを制作することでムービー制作の理解を深めることを目的とする。 1. ミュージックビデオ（楽曲は自由） 2. 対談コンテンツ（TV番組、YouTube風） 3. コマーシャル ムービー（15～30秒）			
授業計画	回数	主題・目的	授業予定	
前期	1	概 論	ランダムMV+ワークフロー+ムービー基礎知識+撮影の基本設定	
	2	ミュージックビデオ	制作方法とMV構成（メモ、コンテ）	
	3	ミュージックビデオ	撮影（スタジオ、自宅など）	
	4	ミュージックビデオ	編集基本① - Premiere Proの基本	
	5	ミュージックビデオ	編集基本② - MVのセオリー	
	6	ミュージックビデオ	編集基本③ - カラーグレーディング	
	7	ミュージックビデオ	編集実習	
	8	映像技術の基礎	講評	
	9	映像技術の基礎	撮影①	
	10	映像技術の基礎	撮影②	
	11	映像技術の基礎	ライティング①	
	12	映像技術の基礎	ライティング②、録音①	
	13	映像技術の基礎	録音②	
	14			
	15			
後期	1	対談コンテンツ （グループ制作）	対談コンテンツの企画	
	2		対談コンテンツの構成①	
	3		対談コンテンツの構成②/構成台本作成	
	4		収録の事前準備/チーム内の技術確認と役割分担	
	5		収録①（スタジオ）	
	6	コマーシャルムービー （学内サイネージ発表）	収録②（スタジオ）	
	7		編集実習	
	8		企画①	
	9		企画②	
	10		構成①	
	11		構成②、台本（画コンテ）作成	
	12		撮影/スタジオ他	
	13		編集実習（BGMなど）	
	14		編集実習（BGMなど）	
	15		講評	
評価方法	制作過程での取り組みと提出課題、仕上がり評価			
テキスト 参考書	SchooSwingにて、レジュメをプレビュー			

2025	<div>区分</div> <div>選択必修／選択</div> <div>対象</div> <div>I 部全学年 選択科目</div>		
科目名	写真史		
開講期	前後期	単位数	6
講師名	江澤 勇介		
授業概要	<p>写真史。写真の歴史という意味ですね。写真はひとまず置いておくとして、歴史とは何でしょうか。</p> <p>この授業では受験勉強のように年号と出来事を暗記することを目指すのではなく、写真という発明によって人々の感覚がどう変化してきたのか、その中でどんな表現が生まれ受け入れられてきたのかを学び、現在のリアリティと比較しながら考えていきます。写真の歴史を知することは、自分がこれから撮る写真に直結するとても重要な学びになります。とりあえずこの授業では写真の歴史をそんな引用元、データベースとして捉えられるように学んでみたいと思います。全体を俯瞰的にというよりは、歴史の中から自分の好きな写真を見つけ、語れるようになることを目的とします。</p> <p>そしてなんと講師の私は写真史の専門家ではありません。ですが専門性の外から考える、それ自体が少し写真ばいんじゃないかなという気もしています。本格的な写真史の授業とは違う流れになると思いますが、写真について楽しみながら学ぶ時間を作れたらと思います。授業内容は進行状況に応じて随時変更する可能性があります。</p>		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	自己紹介	自己紹介、授業の説明
	2	ワーク 1	好きな写真・写真家について話してみる
	3	ワーク 1	好きな写真・写真家を探してみる
	4	ワーク 1	好きな写真・写真家について調べてみる
	5	ワーク 1	好きな写真・写真家の系譜を考えてみる
	6	ワーク 1 発表	好きな写真・写真家とその周辺について発表してみる
	7	写真の歴史	写真以前、写真以後 写真が生まれて何が変わったのか
	8	写真の歴史	写真と社会の関係性を考える
	9	写真の歴史	インターネット以降の写真を考える
	10	写真の歴史	ポートレート 肖像写真の歴史①
	11	写真の歴史	ポートレート 肖像写真の歴史②
	12	写真の歴史	ポートレート 肖像写真の歴史③□
	13	ワーク 2 発表	ここまで学んだ写真や作家について発表してみる
	14		
	15		
後期	1	写真の歴史	ドキュメンタリー 報道写真の歴史①
	2	写真の歴史	ドキュメンタリー 報道写真の歴史②
	3	写真の歴史	ドキュメンタリー 報道写真の歴史③
	4	写真の歴史	美術としての写真の歴史①
	5	写真の歴史	美術としての写真の歴史②
	6	写真の歴史	美術としての写真の歴史③
	7	ワーク 3 発表	ここまで学んだ写真作家について発表してみる
	8	写真の歴史	広告としての写真の歴史①
	9	写真の歴史	広告としての写真の歴史②
	10	写真の歴史	広告としての写真の歴史③
	11	写真の歴史	ファッション写真の歴史①
	12	写真の歴史	ファッション写真の歴史②
	13	写真の歴史	ファッション写真の歴史③
	14	ワーク 4 発表	ここまで学んだ写真作家について発表してみる
	15	ワーク 5 発表	1年を通して自分が一番いいと思った写真・写真家について発表してみる
評価方法	出席、提出課題などを見て総合的に評価します。		
テキスト 参考書			

2025		区分	選択	対象	I 部全学年 選択科目
科目名	ダークルーム				
開講期	前後期		単位数	6	
講師名	柳本 史歩				
授業概要	ダークルームは、銀塩モノクロ写真の技術習得と修練を通して、デジタル・銀塩問わず幅広い意味での写真の見せ方や伝え方を考察・体得することを目的とした授業です。前期ではモノクロフィルムの現像からプリントまでの流れを把握し、そこから写真表現の基礎を学んでいきます。後期ではそれを生かしながら作品づくりを目指します。個人で習得するペースはまちまちだと思いますが、それぞれのペースに合わせて授業進行をする予定です。作業を通して作品を仕上げてゆく楽しさと基礎知識が身につけてゆくようにしてゆきます。授業内は基本的に作業が中心です。また履修者の習熟度などにより一部進行に変化が生じる場合があります。				
授業計画	回数	主題・目的	授業予定		
前期	1	ガイダンス	説明 前期第一課題「35mmモノクロフィルムを習得する」		
	2	説明と撮影	「35mmモノクロフィルムを習得する」②現像の説明と撮影		
	3	作業	" ③フィルム現像		
	4	作業	" ④プリントのプロセスと引伸機説明。コンタクトプリントをつくる		
	5	合評	フィルム現像・コンタクトのまとめ		
	6	作業	第一課題「35mmモノクロフィルムを習得する」 ⑤六切り印画紙でのプリント		
	7	作業	" ⑤～⑥ 六切り印画紙でのプリント		
	8	合評	第一課題「35mmモノクロフィルムを習得する」合評と、第二課題の説明		
	9	説明と撮影	説明 前期第二課題「中判モノクロフィルムを習得する」①		
	10	作業	" ②現像		
	11	作業	" ③プリントのプロセスと引伸し		
	12	合評	" ④合評 と夏休みおよび後期課題の発表		
	13	作業とまとめ	前期のまとめ		
	14				
	15				
後期	1	ガイダンス	後期の授業の流れについて／後期課題について		
	2	作業	後期作品の撮影		
	3	作業	後期作品の撮影		
	4	作業	フィルム現像		
	5	作業	プリント作業		
	6	合評	プリント作業		
	7	作業	後期課題 中間報告会		
	8	作業	後期作品の撮影		
	9	作業	後期作品の撮影		
	10	作業	フィルム現像		
	11	合評	プリント作業		
	12	作業	プリント作業		
	13	作業	プリント作業		
	14	作業	後期課題 発表日		
	15	合評	後期課題 発表日		
評価方法	出席日数および課題（成果物）、授業内の態度で評価				
テキスト 参考書					

2025	区分	選択	対象	I 部全学年 選択科目
科目名	フォトアート演習			
開講期	前後期	単位数	6	
講師名	村越としや			
授業概要	インターネットで簡単に回答を得ることが出来るようになり、「考える」ということが疎かになっているように感じます。そもそも「考える」というのは非常に困難な作業なので、インターネットの普及で効率的に素早く回答を得られることは、多くの人にとって大変有益なことでしょう。しかしそこで得た回答は本当に知識や経験として、自分自身に定着したといえるのでしょうか？授業では、考えることの基礎を作り上げる、長く取り組めるテーマを見つける、それをどう継続していくかを軸に進行していきます。写真を撮ることはもちろん重要ですが、それ以前とそれ以後の思考や行動は更に重要だと思っています。インターネット上で大量の写真や情報が消費されていく現代で、消費されない写真とは何なのか、消費されない言葉とは何なのかを、一緒に考えていきましょう。			
授業計画	回数	主題・目的	授業予定	
前期	1	ガイダンス	制作途中の写真についてディスカッションとカウンセリングをし、写真の質と量を高める。	
	2	発表と講評		
	3	発表と講評		
	4	発表と講評		
	5	発表と講評		
	6	発表と講評		
	7	発表と講評		
	8	発表と講評		
	9	発表と講評		
	10	発表と講評		
	11	発表と講評		
	12	発表と講評		
	13	発表と講評		
	14			
	15			
後期	1	ガイダンス	制作途中の写真についてディスカッションとカウンセリングをし、写真の質と量を高める。	
	2	発表と講評		
	3	発表と講評		
	4	発表と講評		
	5	発表と講評		
	6	発表と講評		
	7	発表と講評		
	8	発表と講評		
	9	発表と講評		
	10	発表と講評		
	11	発表と講評		
	12	発表と講評		
	13	発表と講評		
	14	発表と講評		
	15	発表と講評		
評価方法	評価方法：出席率、積極性、継続性			
テキスト 参考書				

2025	区分	選択	対象	I 部全学年 選択科目
科目名	マガジンメイキング			
開講期	前後期		単位数	6
講師名	岡崎 裕美			
授業概要	写真家にとって身近な媒体のひとつである雑誌を含む紙媒体の制作体験を通して、写真と印刷物の関係や編集などについて学びます。前期は雑誌や編集の基本的な知識を学び、それぞれのテーマに沿って、写真をセレクトし誌面を構成します。後期はグループワークのスタイルで雑誌を制作します。前期で学んだことを踏まえ、グループで協力しあってオリジナルの雑誌を企画し、一冊の雑誌を完成させます。			
授業計画	回数	主題・目的	授業予定	
前期	1	講義	授業説明、マスメディアとは	
	2	講義	マスメディアについて、雑誌の特徴（他のメディアとの比較）、雑誌制作の雑誌の流れと基本用語	
	3	講義	雑誌の特徴2、出版社が制作するもの	
	4	実習・講義	商業施設のリーフレット企画（個人課題）、発表	
	5	実習	グループディスカッション、企画決定。台割作成	
	6	実習・講義	制作する（素材を集め、レイアウトする）   データの扱いについて、フォントについて	
	7	実習・講義	制作する（素材集め、レイアウト、最終データ作成）   レイアウトの基礎	
	8	実習・講義	制作する（素材集め、レイアウト、最終データ作成）   レイアウトの基礎②	
	9	実習	制作 プレゼンテーションと講評	
	10	実習・講義	雑誌の基本設計   雑誌制作①-1 説明とグループ分け	
	11	実習	雑誌制作①-2 グループ内で編集会議、台割作成   雑誌制作の流れと基本用語②	
	12	実習・講義	雑誌制作①-3 制作   誌面の構成について	
	13	実習	雑誌制作①-4 制作	
	14			
	15			
後期	1	実習	雑誌制作①-5 制作	
	2	実習・講義	雑誌制作①-6 制作   データ提出	
	3	実習・講義	雑誌制作①-7 プレゼンテーションと講評   （制作物を踏まえて）レイアウト基礎③、レポート提出	
	4	実習・講義	雑誌制作②-1 グループ分け、全体の編集会議（企画、台割）   テキストについて	
	5	実習・講義	雑誌制作②-3 制作   段組について	
	6	実習・講義	雑誌制作②-4 制作	
	7	実習	雑誌制作②-5 制作、編集会議	
	8	実習・講義	雑誌制作②-6 制作   適切な画像データ	
	9	実習・講義	雑誌制作②-7 制作   テキストについて②	
	10	実習	雑誌制作②-8 制作	
	11	実習	雑誌制作②-9 制作	
	12	実習	雑誌制作②-10 制作	
	13	実習	雑誌制作②-11 制作	
	14	実習	雑誌制作②-12 制作、印刷、製本	
	15	実習	雑誌制作②-13 最終プレゼンテーションと講評	
評価方法	出席率、積極性などから総合的に評価します。最終的な提出物の出来だけでなくプロセスを重視します。			
テキスト 参考書				



2025		区分	選択必修／選択	対象	I 部1・2年FW選択必修 ／全学年選択
科目名	社会学				
開講期	前後期		単位数	6	
講師名	渡辺 浩平				
授業概要	私たちは日常のなかで「社会的なもの」を生成している。本授業では「社会的なもの」をいかに理解することができるかを考察する。前半は主に社会学の理論や各論を講義する。後半はフィールドワークや、文章、写真、動画等の制作、ディスカッションなどを通じて「社会的なもの」を内側から理解するとはどのようなことかを探究する。本授業の目標は、多様な生き方や価値観を内側から理解し、別の生き方の可能性を想像する力を身につけることである。なお、授業計画は、受講生の数や関心等に応じて変わる可能性がある。				
授業計画	回数	主題・目的	授業予定		
前期	1	はじめに	社会調査法としてのフィールドワークⅠ		
	2	社会学とは	社会・文化とは		
	3	社会学とは	社会学的思考と概念		
	4	学説史	理論と概念① 方法論的全体論		
	5	学説史	理論と概念② 方法論的個人主義		
	6	学説史	理論と概念③ 社会的相互行為論		
	7	社会調査法	研究テーマと問題意識		
	8	各論	集団とは：家族、親族、組織		
	9	各論	環境と生活		
	10	各論	政治と経済		
	11	各論	宗教と世界観		
	12	まとめ	前期まとめ		
	13	テスト	前期テスト		
	14				
	15				
後期	1	社会調査法	参与観察：半構造化インタビュー		
	2	社会調査法	参与観察：フィールドノート		
	3	社会調査法	参与観察：民族誌		
	4	社会調査法	フィールドワーク計画		
	5	社会調査法	フィールドワーク計画		
	6	社会調査法	フィールドワーク計画		
	7	社会調査法	フィールドワークの実施		
	8	社会調査法	調査結果の整理・ディスカッション		
	9	社会調査法	調査結果の整理・ディスカッション		
	10	社会調査法	調査結果の整理・ディスカッション		
	11	社会調査法	調査結果の整理・ディスカッション		
	12	社会調査法	調査報告		
	13	社会調査法	調査報告		
	14	まとめ	後期まとめ		
	15	テスト	後期テスト		
評価方法	前・後期のテストと、授業内課題、授業の参画度などから総合的に評価する。				
テキスト 参考書	授業で配布・指示する。				

2025		区分	選択	対象	I 部全学年 選択科目
科目名	ルポルタージュ演習				
開講期	前後期		単位数	6	
講師名	五十嵐 太二				
授業概要	ルポルタージュとは、自分が現場で実際に見聞きした事実に基づいて報告をおこなうことをいい、主に写真と文章が使われます。この授業では課題（ルポ）をメインに、①そもそも自分は何に関心があるのか、また、問題意識を持つには何が必要なのか、②取材準備とリサーチ方法、③企画書作成、④現場取材（撮影＋取材ノート）、⑤編集（写真の選択、文章作成）、⑥発表、も考えていきます。写真学生が苦手とする文章表現の基礎も学びます。ブログ発信や雑誌・新聞・Webメディアなどへの掲載にも挑戦します。				
授業計画	回数	主題・目的	授業予定		
前期	1	オリエンテーション	授業内容説明、各自の関心事項を発表、課題（ルポ①～③）の説		
	2	段取り確認	ルポ① テーマ「身近な人の得意料理」 ⇨ 取材準備作業		
	3	課題～ルポ①	作品発表・全員で講評		
	4	発表・講評	作品発表・全員で講評		
	5	発表・講評	作品発表・全員で講評		
	6	課題～ルポ②	ルポ② テーマ「クラスメートが写真を始めたわけ」 ⇨ 取材準備		
	7	発表・講評	作品発表・全員で講評		
	8	発表・講評	作品発表・全員で講評		
	9	発表・講評	作品発表・全員で講評		
	10	課題～ルポ③	ルポ③ テーマ「身近にある社会問題」 ⇨ 取材準備作業		
	11	発表・講評	作品発表・全員で講評		
	12	発表・講評	作品発表・全員で講評		
	13	発表・講評	作品発表・全員で講評		
	14				
	15				
後期	1	課題～ルポ④	ルポ④ テーマ「身近にある社会問題」 ⇨ 取材準備作業		
	2	発表・講評	作品発表・全員で講評		
	3	発表・講評	作品発表・全員で講評		
	4	発表・講評	作品発表・全員で講評		
	5	課題～ルポ⑤	食レポに挑戦（味や香りなど、目に見えないものを文字と写真で表現する）		
	6	発表・講評	作品発表・講評		
	7	発表・講評	作品発表・講評		
	8	文章に親しむ	読書会（好きな本を持ち寄り読書会。ルポルタージュ本、文学作品など自由）		
	9	文章に親しむ	ゲストスピーカー		
	10	課題～ルポ⑥	ルポ⑥ テーマ「身近にある社会問題」 ⇨ 取材準備作業		
	11	発表・講評	作品発表・全員で講評		
	12	発表・講評	作品発表・全員で講評		
	13	課題～ルポ⑦	ルポ⑦ テーマ「身近にある社会問題」 ⇨ 取材準備作業		
	14	発表・講評	作品発表・全員で講評		
	15	発表・講評	作品発表・全員で講評		
評価方法	出席、理解度・習熟度、課題作品、授業態度などを総合的に評価。				
テキスト 参考書	授業配布プリント				

2025	区分	選択	対象	I 部全学年 選択科目
科目名	写真科学			
開講期	前後期		単位数	6
講師名	船生 望			
授業概要	本授業は、写真の理論的知識を付与する講義が主目的ですが、写真技術の科学的な側面への理解を促すための撮影の基本技術や写真の画像品質に関する実習も行います。講義では、写真の画像形成に必須の、光と感光体および画像形成に関する事項や撮影機材、コンピュータと周辺機器などについてのい主な事項を取り上げます。実習では、テストチャートなどを使用して、撮影機材の操作技術や画像品質の向上につなげる課題を課します。			
授業計画	回数	主題・目的	授業予定	
前期	1	説明／講義	ガイダンス/写真のシステムと撮影のプロセス	
	2	講義	画像の構造 デジタルとアナログ	
	3	講義	カメラとレンズ	
	4	実習	カメラをまっすぐにかまえる	
	5	実習	三脚をつかう	
	6	講義	露出と照明	
	7	実習	被写体面の照度をそろえる	
	8	実習	画面の明るさをそろえる	
	9	実習	像のおおきさをそろえる	
	10	実習	絞りのはたらき	
	11	実習	閃光をはかる	
	12	講義	前期授業のまとめ	
	13	まとめ	筆記テスト	
	14			
	15			
後期	1	講義	ガイダンス/画像形成のあゆみ	
	2	講義	光の三原色と色の三原色	
	3	講義	コンピュータ・ディスプレイ・プリンタ	
	4	講義	写真画像の品質特性	
	5	実習	カメラの分解能をくらべる①	
	6	実習	カメラの分解能をくらべる②	
	7	実習	カメラの階調性をくらべる①	
	8	実習	カメラの階調性をくらべる②	
	9	実習	カメラの色再現性をくらべる①	
	10	実習	カメラの色再現性をくらべる②	
	11	実習	画像の周辺部に注目する①	
	12	実習	画像の周辺部に注目する②	
	13	講義	後期授業のまとめ①	
	14	講義	後期授業のまとめ②	
	15	まとめ	筆記テスト	
評価方法	筆記テストと平常点			
テキスト 参考書	授業内配布プリント			

2025	区分	選択	対象	I 部全学年 選択科目
科目名	デジタル表現演習			
開講期	前後期		単位数	6
講師名	江澤 勇介			
授業概要	<p>現代では、デジタル写真が一般化しスマートフォンの普及などで誰もが写真を気軽に撮れるようになり、街中などリアル空間だけでなくSNSをはじめとしたインターネット上にも、これまでにない大量の写真が溢れかえっています。デジタルカメラとパソコンがあれば(無くてもスマホ1台あれば)個人で簡単に写真集を作ったり、SNSやHPなどで作品を発表することが出来ます。一方で、あえてフィルム写真やボラロイド写真などアナログな写真表現を好んで使う人が増える逆転現象も起きており、写真で何かを作るにはとても恵まれた環境にあるといえます。</p> <p>この授業では、撮影、編集、作品発表のアウトプットまで“個人で簡単に素早く完結できる”現在のデジタル環境の強みを最大限に生かし、SNSやホームページでの作品発表、写真冊子(zine)の制作など、デジタルとアナログを往復しながら様々な創作物を作っていきます。自分のやりたいことを形にするために、恵まれた環境をシンプルに使いこなす基礎体力を身につけましょう。※授業では基本的に毎回パソコンとデジタルカメラを使用します。授業内容は随時変更する可能性があります</p>			
授業計画	回数	主題・目的	授業予定	
前期	1	自己紹介	自己紹介、授業の説明	
	2	ワーク 1	tumblrで毎日写真①	
	3	ワーク 1	tumblrで毎日写真②	
	4	ワーク 1	tumblrで毎日写真③	
	5	ワーク 1 発表	発表・講評	
	6	ワーク 2	毎日写真を本にしてみる①	
	7	ワーク 2	毎日写真を本にしてみる②	
	8	ワーク 2 発表	発表・講評	
	9	ワーク 3	テーマを決めて毎日写真①	
	10	ワーク 3	テーマを決めて毎日写真②	
	11	ワーク 3	テーマを決めて毎日写真③	
	12	ワーク 3 発表	発表・講評	
	13	振り返り	振り返り、後期について	
	14			
	15			
後期	1	ワーク 4	スライドショーを作る①	
	2	ワーク 4	スライドショーを作る②□	
	3	ワーク 4 発表	発表・講評	
	4	ワーク 5	モニターで見る写真を考える①	
	5	ワーク 5	モニターで見る写真を考える②	
	6	ワーク 5 発表	発表・講評	
	7	ワーク 6	写真冊子(ZINE)を作る①	
	8	ワーク 6	写真冊子(ZINE)を作る②	
	9	ワーク 6	写真冊子(ZINE)を作る③	
	10	ワーク 6 発表	発表・講評	
	11	ワーク 7	写真作品を作る①	
	12	ワーク 7	写真作品を作る②	
	13	ワーク 7	写真作品を作る③	
	14	ワーク 7	写真作品を作る④	
	15	ワーク 7 発表□	発表・講評□	
評価方法	出席、提出課題などを見て総合的に評価します。 基本的には全ての課題の提出を必須とし、未提出課題がある場合不合格とします。			
テキスト 参考書				

2025		区分		選択		対象		I 部全学年 選択科目	
科目名		ドキュメンタリー写真論							
開講期		前後期			単位数		6		
講師名		鈴木 邦弘							
授業概要		写真家になるためには、作品を制作しなければなりません。作品を制作するためには、作品と呼べる写真(写真群)が、どのようなものなのかを理解しなければなりません。そのために、この授業では、1950年代以降のドキュメンタリー写真を中心に世界の様々な写真集を見てもらいます。前半は、年代を10年ごとに区切り、写真史の中でその時代の特徴をもち、その後に影響を与えた作品を中心に、2010年代まで見ていきます。その中で、写真史的流れとその時代の作品の特徴などを解説していきます。後半の最初の4回は「戦争」を対象にした作品を見ます。5回以降は、国、地域にまとめた写真集を見てもらいます。似たような被写体、写真家によってテーマや撮り方が異なることを学んでももらいます。後半では、前半のようにまとめた解説はしませんが、作品に対する質問がしたい場合は、授業中に、個別に質問をしてください。授業の進め方は、同じ年代、国の写真集を2回の授業で見てもらいます。その際に、2回目の授業の終わり1時間で、その回の自分の気になった作品を一冊以上選び、その作品の感想文(字数800字以上)を書いて提出してもらいます。成績は、授業ごとに提出された感想文の平均点とします。							
授業計画		回数	主題・目的		授業予定				
前期	1	講義・読解	<1900年代～1950年代>パブリックな視線からプライベートな視線へ						
	2	講義・読解	<1900年代～1950年代>パブリックな視線からプライベートな視線へ						
	3	講義・読解	<1900年代～1950年代>パブリックな視線からプライベートな視線へ		①感想文提出				
	4	講義・読解	<1960年代>コンテンポラリーフォトグラファーズ展、ニュードキュメンツ展の写真家たち						
	5	講義・読解	<1960年代>コンテンポラリーフォトグラファーズ展、ニュードキュメンツ展の写真家たち		②感想文提出				
	6	講義・読解	<1970年代>ニュートポグラフィクス、ニューカラー、タイポロジー						
	7	講義・読解	<1970年代>ニュートポグラフィクス、ニューカラー、タイポロジー		③感想文提出				
	8	講義・読解	<1980/90年代>コンストラクティッド・フォト(構成的写真)、ステージド・フォト(演じられた写真)、プライベート・フォト						
	9	講義・読解	<1980/90年代>コンストラクティッド・フォト(構成的写真)、ステージド・フォト(演じられた写真)、プライベート・フォト④		感想文提出				
	10	講義・読解	<2000年代>ドキュメンタリー写真の現在						
	11	講義・読解	<2000年代>ドキュメンタリー写真の現在		⑤感想文提出				
	12	講義・読解	<2010年代>						
	13	講義・読解	<2010年代>		⑥感想文提出				
	14								
	15								
後期	1	講義・読解	<戦争>戦場の写真家たち						
	2	講義・読解	<戦争>戦場の写真家たち		①感想文提出				
	3	講義・読解	<戦争>過去の戦争を撮る写真家たち						
	4	講義・読解	<戦争>過去の戦争を撮る写真家たち		②感想文提出				
	5	講義・読解	<日本・東京>						
	6	講義・読解	<日本・東京>		③感想文提出				
	7	講義・読解	<アメリカ>						
	8	講義・読解	<アメリカ>		④感想文提出				
	9	講義・読解	<カリブ・中・南米>						
	10	講義・読解	<カリブ・中・南米>		⑤感想文提出				
	11	講義・読解	<アジア>インドを中心に						
	12	講義・読解	<アジア>インドを中心に		⑥感想文提出				
	13	講義・読解	<アジア>中国を中心に						
	14	講義・読解	<アジア>中国を中心に		⑦感想文提出				
	15	講義・読解	<東ヨーロッパ><PORTRAIT>						
評価方法		提出した感想文の平均点を成績とする(感想文本数：前期6本、後期7本)							
テキスト 参考書									

2025	区分	選択	対象	I 部全学年 選択科目
科目名	編集出版論			
開講期	前後期	単位数	6	
講師名	岡崎 裕美			
授業概要	写真が世に出るひとつの媒体としての印刷物や出版物について、またその中のひとつとしての写真集について学びます。 撮り手ではない立場から写真に関わる経験は、伝える力につながります。前期は、メディアにおける写真の役割、写真集の作りについて考えます。後期から、写真をまとめる上での写真と言葉について、写真編集について学び、それまでの内容を自分の作品をまとめる作業に活かしていくという流れで進めます。 講義やディスカッションのほかに、実習の授業ではZINE・印刷物制作や写真編集を行います。			
授業計画	回数	主題・目的	授業予定	
前期	1	講義	授業内容説明 マスメディアについて	
	2	講義	出版メディアの特徴、写真の役割	
	3	講義	写真を使って伝える 1口	
	4	講義/実習	写真を使って伝える 2 (ポスター企画) 発表 編集者の役割	
	5	講義/実習	雑誌の特徴について考える 編集者の役割	
	6	講義/実習	雑誌の写真について考える	
	7	講義/実習	雑誌の記事広告を企画する	
	8	実習	制作①-1 雑誌の記事広告制作	
	9	実習	制作①-2 雑誌の記事広告制作	
	10	講義/実習	制作①-3 雑誌の記事広告制作   テキストの注意点	
	11	講義/実習	制作①-4 発表、講評、レポート	
	12	講義	印刷の基礎知識 1	
	13	講義/実習	雑誌の写真と写真集の写真について	
	14			
	15			
後期	1	実習/講義	ページネーションについて	
	2	実習/講義	ページネーションと物語について	
	3	実習/講義	写真集のページネーションとレイアウト	
	4	実習/講義	写真集の仕様	
	5	実習	制作②-1 自分以外の人の写真を編集する	
	6	実習	制作②-2 自分以外の人の写真を編集しZINEを企画する	
	7	実習/講義	制作②-3 DMとプレスリリース	
	8	実習	制作②-4 ZINE制作	
	9	実習	制作②-5 ZINE制作	
	10	実習/講義	プレゼンテーション (ZINE、DM、プレスリリース)	
	11	実習	自分の写真を編集する 1	
	12	実習	自分の写真を編集する 2	
	13	実習	プレスリリースとDM、ステートメントを作る	
	14	講義	プレゼンテーションと講評 (ZINE、DM、プレスリリース、ステートメント)	
	15	実習	印刷の基礎知識 2 (印刷博物館見学)	
評価方法	出席、提出課題などをみて総合的に評価します。			
テキスト 参考書				

2025	区分	選択必修／選択	対象	I 部1・2年FW選択必修 ／全学年選択
科目名	英会話			
開講期	前後期		単位数	6
講師名	五十嵐 太二			
授業概要	英語が話せるようになりたい。英語を使い海外で撮影したい ⇒ 絶対大丈夫！ でも、それにはまず、英語を学ぶことが楽しいと思えることが何よりも大切です。そして地道な努力と覚悟。そのきっかけを見つけてもらうのがこのクラスの目的です。写真を切り口に、とにかく声に出して英語をしゃべってもらいます。恥ずかしいなんて言っているヒマはもうありません！ レベル～中学英語程度（備考：下記内容は学生の習熟度やレベル、その他の状況等によって修正・変更になる場合があります。）			
授業計画	回数	主題・目的	授業予定	
前期	1	ガイダンス	授業説明、英語で自己紹介、写真撮影で使う英語表現	
	2	英語総合	屋外実習（訪日外国人旅行者に英語でインタビュー＋写真撮影）第1回目	
	3	英語総合	実習の発表会①	
	4	英語総合	実習の発表会①	
	5	英語総合	屋外実習（訪日外国人旅行者に英語でインタビュー＋写真撮影）第2回目	
	6	英語総合	実習の発表会①	
	7	英語総合	実習の発表会①	
	8	英語総合	海外とオンラインでつなぎ、英語で話してみよう	
	9	英語総合	屋外実習（訪日外国人旅行者に英語でインタビュー＋写真撮影）第3回目	
	10	英語総合	実習の発表会①	
	11	英語総合	実習の発表会①	
	12	英語総合	屋外実習（訪日外国人旅行者に英語でインタビュー＋写真撮影）第3回目	
	13	英語総合	実習の発表会	
	14			
	15			
後期	1	英語総合	後期授業説明、休み期間にやったことを英語で説明する	
	2	英語総合	日本や自国のことを英語で紹介できるようにする①	
	3	英語総合	屋外実習（訪日外国人旅行者に英語でインタビュー＋写真撮影）第4回目	
	4	英語総合	実習の発表会①	
	5	英語総合	実習の発表会②	
	6	英語総合	ゲストスピーカー	
	7	英語総合	写真に英語のタイトルとキャプションをつけて発表する①	
	8	英語総合	写真に英語のタイトルとキャプションをつけて発表する②	
	9	英語総合	屋外実習（訪日外国人旅行者に英語でインタビュー＋写真撮影）第5回目	
	10	英語総合	実習の発表会①	
	11	英語総合	実習の発表会②	
	12	英語総合	屋外実習（訪日外国人旅行者に英語でインタビュー＋写真撮影）第6回目	
	13	英語総合	実習の発表会①	
	14	英語総合	実習の発表会②	
	15	英語総合	有名な英語スピーチ	
評価方法	出席回数、習熟度・理解度、授業態度、自助努力			
テキスト 参考書	授業配布プリント、各自所有の辞書・単語本・熟語本・文法書など			

2025		区分	選択	対象	I 部全学年 選択科目
科目名		美術造形論			
開講期		前後期		単位数	6
講師名		遠藤 麻衣			
授業概要		写真表現を含む現代の幅広い芸術実践について学び、自身の制作や実践と接続して考えられるようになる。 現在開催されている展覧会や具体的な作品を通して、鑑賞眼と分析する力を育む。 複数のテーマに沿って芸術の歴史を概観することで、芸術史の複数性を知る。また、実際に鑑賞した作品を通すことで、体験的な知識の習得を目指す。 文章制作を通して、語る力を身につける。 実践を通して、表現の幅を広げる。 生徒のみなさんは、ここで扱われるトピックについて、それぞれの関心に寄せて解釈すること。 なるべく、グループディスカッションをする時間を設けようと思っています。			
授業計画		回数	主題・目的	授業予定	
前期	1	説明	授業内容説明、スケジュール説明、自己紹介		
	2	鑑賞	「マシン・ラブ：ビデオゲーム、AIと現代アート」（森美術館）		
	3		展覧会で気になったことを掘り下げる、ディカッション&レポート		
	4	鑑賞	「ヒルマ・アフ・クリント」（東京国立近代美術館）		
	5	レクチャー	美術史を批評的に捉える レポート		
	6		展覧会で気になったことを掘り下げる、ディカッション&レポート		
	7	鑑賞	NFAJコレクションでみる 日本映画の歴史（国立映画アーカイブ）		
	8	フィールドワーク	丸木美術館（予定）		
	9	フィールドワーク	丸木美術館（予定）		
	10	フィールドワーク	丸木美術館（予定）		
	11		展覧会で気になったことを掘り下げる、ディカッション&レポート		
	12	鑑賞	「藤田嗣治 絵画と写真」（東京ステーションギャラリー）		
	13		展覧会で気になったことを掘り下げる、ディカッション&レポート		
	14				
	15				
後期	1	説明	授業内容説明、スケジュール説明、自己紹介		
	2	鑑賞	時代のプリズム 日本で生まれた美術表現1989-2010（国立新美術館）		
	3	ディスカッション	展覧会で気になったことを掘り下げる、ディカッション&レポート		
	4	レクチャー			
	5	鑑賞	ジャム・セッション 石橋財団コレクション×山城知佳子×志賀理江子 漂着」（アーティゾン美術館）		
	6	ディスカッション	展覧会で気になったことを掘り下げる、ディカッション&レポート		
	7		個人制作：版画（予定）		
	8		個人制作：版画（予定）発表		
	9		フィールドワーク準備		
	10		フィールドワーク		
	11		フィールドワーク		
	12		フィールドワーク		
	13		グループワークのプレゼン		
	14	鑑賞	六本木クロッシング2025（森美術館）		
	15	ディスカッション	展覧会で気になったことを掘り下げる、ディカッション&レポート		
評価方法		レポート、課題制作などの提出物、出席を基に評価します。 後期ではグループワークと個人政策の比重を重くします。			
テキスト 参考書		適宜指示します。			



2025	区分	選択	対象	I 部全学年 選択科目
科目名	フォトクリエイティブ演習 I			
開講期	前後期	単位数	6	
講師名	奥 初起			
授業概要	この授業は、みなさんのクリエイティビティを高めながら作品を制作していきます。年間で四つの課題に対してポートフォリオ（自作の作品集）を制作します。お題は決まっていますが、それぞれの被写体や表現方法はディスカッションを行いながら決めていきます。また、様々な表現方法をインプットしていくための実習も行います。カメラマン、フォトグラファー、作家など呼び方はたくさんありますが、共通して必要なことはそれぞれのクリエイティビティです。そして、それを形にしていくための技術と知識だと私は考えています。皆さんが専門的に学んだ（もしくはこれから学ぶ）ことを活かして作品制作を行っていきましょう。授業のスケジュールは、みなさんの作品制作の進行に合わせて変更する場合があります。			
授業計画	回数	主題・目的	授業予定	
前期	1	作品検討	現在までに各自が撮影した写真を持ち寄ったディスカッション/GW課題解説	
	2	講義/実習	GW課題講評/課題①解説/インクジェットプリンターを使ったプリントワーク	
	3	講義/講評	様々な表現方法を知る/課題①作品講評	
	4	作品講評	課題①作品講評	
	5	講評/講義	課題①作品講評/様々な写真集を見る	
	6	作品講評	課題①作品講評	
	7	実習	大判カメラ、中判デジタルカメラを使った撮影	
	8	作品講評	課題①作品講評	
	9	作品講評	課題①作品講評	
	10	実習	Photoshopレタッチ/インクジェットプリンターを使ったプリントワーク	
	11	作品講評	課題①作品講評	
	12	作品講評	課題①ポートフォリオ提出/講評/課題②「旅」説明	
	13	作品講評	課題②ポートフォリオ提出、講評、課題③「新しい場所」解説	
	14			
	15			
後期	1	講義/講評	様々な写真集を見る/作品講評	
	2	実習/講評	フィルターワークの実習/作品講評	
	3	作品講評	課題③作品講評	
	4	作品講評	課題③作品講評	
	5	作品講評	課題③作品講評	
	6	作品講評	課題③作品講評	
	7	作品講評	課題③作品講評	
	8	作品講評	課題③作品講評	
	9	作品講評	課題③作品講評、課題④「自由」解説	
	10	講評/講義	課題③作品講評	
	11	作品講評	課題③ポートフォリオ提出、講評	
	12	作品講評	課題④作品講評	
	13	作品講評	課題④作品講評	
	14	作品講評	課題④作品講評	
	15	作品講評	課題④ポートフォリオ提出、講評	
評価方法	出席回数、課題の提出頻度、課題内容			
テキスト 参考書				

2025		区分		選択		対象		I 部全学年 選択科目	
科目名		ビジュアルデザイン							
開講期		前後期			単位数		6		
講師名		泉 美菜子・宮添 浩司							
授業概要		写真表現を他者に伝えるためのメディアとしての印刷表現を通して、ビジュアルデザインの基礎を学びます。 前期では、Adobe IllustratorとIndesignの基本操作を学びながら、書体、色彩、編集などの考え方を身につけます。 後期では、前期で身につけた知識を活かして、印刷物による自由な自己表現を深め、意見交換をします。 課題制作のために別途撮影を必要とするなど、授業外での制作時間の確保が必須となるため、積極的に楽しむ制作姿勢を望みます。							
授業計画		回数	主題・目的	授業予定					
前期	1	イントロダクション	自己紹介、イラレとインデザインに触ってみる、機能の説明						
	2	名刺を作る	情報を整理する、書体を選ぶ、合成フォント、レイアウトする						
	3	フライヤーを作る:1	色彩構成（明度彩度色相:目のいくデザインの作り方、錯視）						
	4	フライヤーを作る:2	色々な案を出す（出力して意見交換）、講評						
	5	ZINEを作る 1	テーマ＝COLORS インデザインの使い方、写真の配置と考え方						
	6	ZINEを作る 2	制作、PDFの書き出し、出力、印刷						
	7	ZINEを作る 3	講評						
	8	製本を知る	ゲスト						
	9	インタビュー誌を作る1	概要説明、編集の基礎、構想を練る、グループでプレスト、テーマを設定						
	10	インタビュー誌を作る2	グループごとインタビューの軽い報告会、まとめ方を検討						
	11	インタビュー誌を作る3	講評						
	12	紙を知る	竹尾青山見本帖本店見学・レクチャー						
	13	講義	デザインワークショップ						
	14								
	15								
後期	1	アートzineを作る1	テーマ＝心象風景IllustratorかInDesignで作成						
	2	アートzineを作る2	制作						
	3	アートzineを作る3	講評						
	4	アートzineを作る1	テーマ＝Identity						
	5	印刷を学ぶ	印刷所見学						
	6	アートzineを作る2	講評、意見交換						
	7	アートブックを作る1	ハードカバーの本を作る、ハードカバーの本の種類						
	8	製本を知る	上製本 製本実習						
	9	アートブックを作る2	制作/中間講評						
	10	アートブックを作る3	講評						
	11	アートポスターを作る1	B1サイズのビッグポスターシリーズを作る						
	12	アートポスターを作る2	制作						
	13	実寸を知る	デザインワークショップ						
	14	アートポスターを作る3	制作						
	15	アートポスターを作る4	講評						
評価方法									
テキスト 参考書									

2025	区分	選択	対象	I 部全学年 選択科目
科目名	写真創作演習Ⅱ			
開講期	前後期	単位数	6	
講師名	フジモリ　メグミ			
授業概要	<p>私は17歳とのきに、ナン・ゴールドディンのドキュメンタリービデオをみたことをきっかけに、写真学校へ進学することになりました。写真をはじめたきっかけは、みんなそれぞれにあると思います。</p> <p>みなさんはなぜ、写真を勉強しようとおもったのでしょうか？ なぜ、写真家・カメラマンになろうとおもったのでしょうか？</p> <p>この授業ではなぜ？に対する答えを繰り返し出す、という作業をしていきます。その中で、自分自身の写真に対する意見や、クラスメイトの写真に対する意見を言い合っていきます。「うまい」言葉で表現する必要はありませんので、積極的に授業に参加してください。写真の完成度ではなく、写真に向き合う姿勢を身につけることを目指します。そこから、作品を完成させるために必要なことを学んでください。</p>			
授業計画	回数	主題・目的	授業予定	
前期	1	自己紹介	持参物→これまで撮ってきた写真　自分にとって写真とは？なぜ写真なのか	
	2	実習・課題	「学校」	
	3	↓	中間講評・撮影	
	4	↓	中間講評・撮影	
	5	↓	zineにまとめる	
	6	実習・課題	「家族」	
	7	↓	中間講評・撮影	
	8	↓	中間講評・撮影	
	9	↓	zineにまとめる	
	10	まとめ	発表	
	11	実習・課題	「私」をテーマに撮影	
	12	↓	中間講評・撮影	
	13	↓	中間講評・撮影撮影　夏休みの課題説明	
	14			
	15			
後期	1	↓	「私」をテーマに撮影の続き　中間講評・撮影	
	2	↓	↓	
	3	まとめ	zineやポートフォリオにまとめる	
	4	実習・課題	「ポートレート」	
	5	↓	中間講評・撮影	
	6	↓	中間講評・撮影	
	7	↓	zineやポートフォリオにまとめる	
	8	実習・課題	「フェチ」	
	9	↓	中間講評・撮影	
	10	↓	中間講評・撮影	
	11	↓	中間講評・撮影	
	12	まとめ	zineやポートフォリオにまとめる	
	13	実習・課題	「自由テーマ」	
	14	↓	中間講評・撮影	
	15	総括	中間講評・撮影	
評価方法	提出頻度、作品内容、出席回数			
テキスト 参考書	必要に応じて随時指定します。			

2025	区分	選択	対象	I 部全学年 選択科目
科目名	文章表現演習 I			
開講期	前後期	単位数	6	
講師名	山岸 宏之			
授業概要	写真(ビジュアル)と言葉(文章)の関係性について考え、言葉が写真のコミュニケーション力を高めたり、写真という表現のフィールドが拡げられることを理解してもらい、さまざまなテーマについて演習を行います。書くことは考えること、自分と向き合うこと、さまざまなアングル(視点)からモノ・コト・ヒトを考察すること。どう書くか(どう上手く書くか)よりも、なにを伝えたいかを自分の言葉で書くことを目標とします。			
授業計画	回数	主題・目的	授業予定	
前期	1	講義	授業の方針説明／写真と言葉の関係について	
	2	演習	「自分と写真」について書いてみる～写真を始めたきっかけなど	
	3	演習	「自分と写真」について書いてみる～書く／提出	
	4	演習	「卒業後の希望」について書いてみる～どんな写真を撮っていききたいのかなど	
	5	演習	「卒業後の希望」について書いてみる／書く・提出	
	6	演習	「写真と広告」 ポスターと写真とコピー ～ キャッチフレーズを書く	
	7	演習	「写真と広告」 新聞広告と写真とコピー ～ キャッチフレーズとボディコピーを書く	
	8	演習	「写真と文章(エッセイ)」～ 写真を撮り、文章を書く	
	9	演習	「写真と文章(エッセイ)」～ 発表／提出	
	10	演習	「写真と文章(ルポタージュ)」～ 取材し、写真を撮って文章を書く	
	11	演習	「写真と文章(ルポタージュ)」～ 発表／提出	
	12	演習	「写真と文章(私の好きなもの)」～ 自分の好きなモノ・コトを撮って、その魅力を文章で綴る	
	13	講評	前期のまとめ	
	14			
	15			
後期	1	講義	自分の身近な人や街を写真と言葉で魅力的に表現する／自分の写真集、写真展に関する言葉や文章を作る	
	2	演習	身近な人取材し、写真と文章で魅力的に表現する	
	3	演習	身近な人取材し、写真と文章で魅力的に表現する ～ プレゼンテーション・提出	
	4	演習	自分の住んでいる街を写真で切り取り、文章をつける	
	5	演習	自分の住んでいる街を写真で切り取り、文章をつける ～ プレゼンテーション・提出	
	6	演習	自分の写真集(ポートフォリオ)や写真展のタイトルを考える	
	7	演習	自分の写真集(ポートフォリオ)や写真展のタイトルを考える ～ 発表・提出	
	8	演習	自分の写真集(ポートフォリオ)に載せる文章を書く	
	9	演習	自分の写真集(ポートフォリオ)に載せる文章を書く ～ 発表・提出	
	10	演習	売り込む相手に、言葉(文章)で自分の作品を伝える	
	11	演習	売り込む相手に、言葉(文章)で自分の作品を伝える ～ 発表・提出	
	12	演習	子供に、言葉(文章)で自分の作品を伝える	
	13	演習	子供に、言葉(文章)で自分の作品を伝える ～ 発表・提出	
	14	演習	英語で、自分の作品を伝える	
	15	講評	英語で、自分の作品を伝える 提出～全体講評	
評価方法	課題の提出状況および表現内容を総合的に判断します。また、取り組みのプロセスや姿勢の評価という点から出席状況も重視します。			
テキスト 参考書	授業内配布プリント、関連資料を適宜参照			

2025		区分		選択必修／選択		対象		I 部1・2年FW選択必修 ／全学年選択	
科目名		メディア論							
開講期		前後期			単位数		6		
講師名		関 貴尚							
授業概要		<p>本授業では、「メディア」について考える。 メディアというとマスメディアやソーシャルメディアなどが馴染み深いものではあるが、情報を伝達するときに空気のようにまわりついてきて、切り離すことができない要素がメディアである。そのメディアがどんなものなのか理解し、そのメディアによって社会や人々の感情がどのように動かされてきたのか考察する。そのため、本講義では、ファッション、アイドル、戦争、死、政治などを、メディア（新聞、ラジオ、テレビ、インターネットなど・・・）の視点から読み解く。</p> <p>なお、本講義では、グループワークおよびオープンチャット機能を使って、授業中に質問やコメントを募集する場合がある。</p> <p>本講義を履修することによって以下の能力を修得することを目指す。</p> <p>1)メディア特性を知り、自らの制作に活かす。</p> <p>2)メディアという観点から分析・観察する視点を獲得する。□</p>							
授業計画		回数	主題・目的	授業予定					
前期	1	イントロ	「メディア」とは（メディアの概念・種類）						
	2	講義	ファッションとメディア1						
	3	講義	ファッションとメディア2						
	4	講義	アイドルとメディア1						
	5	講義	アイドルとメディア2						
	6	講義	SNSというメディア						
	7	講義	戦争とメディア1						
	8	講義	戦争とメディア2						
	9	講義	メディアと技術革新						
	10	講義	死とメディア						
	11	鑑賞	映画『ドントルックアップ』から考える						
	12	講義	音楽とメディア						
	13	授業内課題	メディアの特性について言語化する						
	14								
	15								
後期	1	イントロ	前期の復習（メディアとは）						
	2	講義	政治とメディア1						
	3	講義	政治とメディア2						
	4	授業内課題	ジョージ・オーウェル小説『1984年』から考える						
	5	講義	スポーツとメディア1						
	6	講義	スポーツとメディア2						
	7	講義	ファンとメディア						
	8	講義	恋愛とメディア						
	9	講義	メディアと情動						
	10	講義	アニメとメディア						
	11	講義	アートとメディア1						
	12	講義	アートとメディア2						
	13	講義	差別とメディア						
	14	講義	ジェンダーとメディア						
	15	授業内課題	メディアに支配されないために						
評価方法		授業中の出席回数、授業へのリアクション、提出課題で判断。期日通りの課題提出や発表ができない場合、単位は与えられません。							
テキスト 参考書									

2025	区分	選択	対象	I 部全学年 選択科目
科目名	風景写真演習			
開講期	前後期		単位数	6
講師名	秦 達夫			
授業概要	このジャンルは自由にライティングを調整したり被写体とコミュニケーションを取ったりなど状況を撮り手がコントロールすることはできません。故に状況任せの撮影と思われがちですが、季節や天候を読み太陽の動きを観察しライティングやアプローチを考察する能力が必要です。また、絶景を複写するのではなく構図・遠近感をコントロールし独自の視点を創り出す事も重要。その他、写真を取り巻く人間関係はとても重要と考えているので、卒業後支援もしくは仕事仲間となり得る機材メーカーに訪問し交流の場を作ります。			
授業計画	回数	主題・目的	授業予定	
前期	1	オリエンテーリング	自己紹介 授業の進め方説明 講師作品紹介	
	2	座学	写真基礎の説明	
	3	座学&実習	身近な光を探す	
	4	撮影実習	御岳山撮影実習	
	5	撮影実習	御岳山撮影実習	
	6	添削	6月1日 実習添削	
	7	座学&実習	レンズワーク&フットワーク	
	8	実習	夕景撮影 6/21夏至 京成押上線_四ツ木駅周辺	
	9	座学&実習	構図	
	10	座学	クローズアップ撮影方法&フィルターの話	
	11	太陽・月・星	太陽月星の撮り方	
	12	座学	取材スケジュールのチェックポイント	
	13	まとめ	前期で最もお気に入りの作品発表	
	14			
	15			
後期	1	オリエンテーリング	後期の概要説明	
	2	座学&実習	絞り・シャッター速度の理解を深める	
	3	天候と表現	校外の実地で実際に撮影を行う。	
	4	時間と表現	校外の実地で実際に撮影を行う。	
	5	合成	紅葉の撮り方	
	6	社会科見学	プロショップ見学（プロショップ銀一）	
	7	紅葉	太陽・月を理解し作品に活かす	
	8	座学	絞り・シャッター速度を活かした作品添削	
	9	座学&実習	逆光の効果 影の活かし方	
	10	撮影実習	御岳山撮影実習	
	11	撮影実習	御岳山撮影実習	
	12	撮影実習	夕景撮影実習 12/22冬至	
	13	冬撮影基礎	雪氷の撮り方。冬の装備について。冬休みの課題	
	14	社会見学	銀一	
	15	1年のまとめ	2025年度で一番のお気に入り作品	
評価方法	提出物にて評価します。			
テキスト 参考書				

2025	区分	選択	対象	I 部全学年 選択科目
科目名	Web表現演習			
開講期	前後期		単位数	6
講師名	須田 拓也			
授業概要	<p>この授業では、現代においてとても身近なメディアであるWebのしくみや作り方を学びます。Webでの表現や発信はSNSやさまざまなサービスを利用することでも可能ですが、HTMLやCSSといった技術を学ぶことで自分だけのWebサイトを作ることができます。ポートフォリオサイトを制作して役立てることもできるでしょう。</p> <p>前期後期を通してWebサイトの作り方や公開の方法を学び、後期はWebに関する資格試験で問われる知識や技術と同等の内容の練習問題にも取り組みます。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・自身の表現に活かせるようにWebに関する基本的な知識と技術を身につける。</li><li>・Webサイトを制作・公開・運用する一連の手順を経験する。</li></ul>			
授業計画	回数	主題・目的	授業予定	
前期	1	ガイダンス	授業内容の説明、制作環境の準備	
	2	Webのしくみ	Webのしくみ	
	3	HTML、CSS入門	HTML、CSSの基礎	
	4	HTML、CSS入門	HTML、CSSの基礎	
	5	Webサイトの公開	Webサイトの公開について	
	6	中間課題	課題の制作	
	7	中間課題	課題の制作・講評	
	8	Webサイトの設計・運用	Webサイトの設計・運用について	
	9	Webサイトの設計・運用	Webサイトの設計・運用について	
	10	まとめ	まとめと補足	
	11	課題	課題の制作	
	12	課題	課題の制作	
	13	課題	課題の発表・講評	
	14			
	15			
後期	1	前期の復習	前期の復習	
	2	HTMLとCSS	HTMLの基礎と応用	
	3	HTMLとCSS	CSSの基礎と応用	
	4	課題	練習問題	
	5	テーブルとフォーム	テーブル	
	6	テーブルとフォーム	フォーム	
	7	課題	練習問題	
	8	レイアウト	マルチカラムのレイアウト	
	9	レイアウト	グリッド状のレイアウト	
	10	課題	練習問題	
	11	まとめと発展	発展的なWeb表現の紹介	
	12	まとめと発展	まとめと補足	
	13	課題	課題の制作	
	14	課題	課題の制作	
	15	課題	課題の発表・講評	
評価方法	出席率、提出課題内容から総合的に評価します。			
テキスト 参考書	必要に応じて配布します。			

2025	区分	選択	対象	I 部全学年 選択科目
科目名	ダークルーム			
開講期	前後期		単位数	6
講師名	松井 寛泰			
授業概要	この授業は伝統的な銀塩モノクロプリントの授業です。モノクロフィルムを使い、撮影、現像、プリントまでの技術を習得し、デジタル・銀塩問わず幅広い意味での写真の見せ方や伝え方を考察・体得することを目的とした授業です。前期ではモノクロフィルムの現像からプリントまでの流れを把握し、写真表現の基礎を学んでいきます。前期、後期共に撮影課題に沿った作品作りを行ってもらいます。授業内容は基本的に暗室での実技が中心になります。また履修者の習熟度などにより一部進行に変化が生じる場合があります。			
授業計画	回数	主題・目的	授業予定	
前期	1	ガイダンス	機材説明 プリント手順 オリジナルプリントとは/撮影	
	2	講義	フィルム現像デモンストレーション/リールに巻く練習/機材	
	3	現像	フィルム現像	
	4	講義	プリントデモンストレーション/コンタクト/引き延ばし/機材	
	5	プリント	コンタクトプリント	
	6	プリント	引き延ばしプリント/濃度とコントラスト調整1	
	7	プリント	引き延ばしプリント/濃度とコントラスト調整2	
	8	現像	フィルム現像	
	9	プリント	焼き込み/覆い焼き	
	10	プリント	コントラストコントロール	
	11	現像	フィルム現像	
	12	プリント	プリント	
	13	講義	前期のまとめ/前期課題講評	
	14			
	15			
後期	1	ガイダンス	後期の授業の流れについて/後期課題について	
	2	現像	フィルム現像	
	3	プリント	プリント作業	
	4	特殊技法	ソラリゼーション	
	5	プリント	プリント作業	
	6	プリント	プリント作業	
	7	講義	スポッティング/サイアナタイプ説明	
	8	講義	サイアナタイプ	
	9	プリント	プリント作業	
	10	プリント	プリント作業	
	11	現像	フィルム現像	
	12	プリント	プリント作業	
	13	プリント	プリント作業	
	14	プリント	プリント作業	
	15	講評	後期課題講評	
評価方法	出席日数、提出物、授業態度			
テキスト 参考書				



2025	区分	選択	対象	I 部全学年 選択科目
科目名	写真創作演習			
開講期	前後期		単位数	6
講師名	田 凱			
授業概要	<p>この授業では、時代による表現の違いに注目し、国別や地域別を無視しテーマに分類した写真の映像的特性を探りながら、個々の研究制作をより大きな文脈に置いて再考するきっかけを提示していきます。写真表現の形式を習うよりも、勉強、研究することで自分自身の内面を知り、外面としての社会とどう関わるかを学習し、自分の作品づくりの根幹を形成していきます。作品を、母語以外の言語をも、言語化していきます。国内、海外のフォトコンテストにチャレンジすることに礎を置きます。本授業ではそうした知識を必要とする専門的な領域を切り開いてゆく能力を養うことを目標にします。</p> <p>この授業の講義として、現代写真を中心に世界の様々な写真集を見てもらいます。その中で、写真史的流れとその特徴などを解説していきます。同テーマの写真集を数回の授業で見てもらいます。言語化訓練として、3回授業の終わり1で、その回の自分の気になった作品を一冊以上選び、その作品のリアクションペーパー(字数500字以上)を書いて提出してもらいます。成績は、授業ごとに提出されたリアクションペーパーの平均点と課題の平均点で計算します。また、学生の作品制作を講評、言語化する作業のアドバイスする時間ももうけてあるため、コンテストなどの目標を設定して、それに向かって努力するのをサポートしていきます。</p>			
授業計画	回数	主題・目的	授業予定	
前期	1	説明	授業の内容説明・写真ギャラリー・写真コンテスト紹介・個人面談	
	2	講義 ディスカッション 実習	テーマ①	
	3		テーマ① / リアクションペーパー提出	
	4		テーマ①	
	5		テーマ① / リアクションペーパー提出	
	6		テーマ②	
	7		テーマ② / リアクションペーパー提出/コンテストなどの経過報告	
	8		テーマ②	
	9		テーマ② / リアクションペーパー提出	
	10		テーマ③	
	11		テーマ③ / リアクションペーパー提出	
	12		テーマ③	
	13		テーマ③ / リアクションペーパー提出/コンテストなどの経過報告	
	14			
	15			
後期	1	説明	授業の内容説明 個人面談	
	2	講義 ディスカッション 実習	テーマ④	
	3		テーマ④ / リアクションペーパー提出	
	4		テーマ④	
	5		テーマ④ / リアクションペーパー提出	
	6		テーマ⑤	
	7		テーマ⑤ / リアクションペーパー提出/コンテストなどの経過報告	
	8		テーマ⑤	
	9		テーマ⑤ / リアクションペーパー提出	
	10		テーマ⑥	
	11		テーマ⑥	
	12		テーマ⑥ / リアクションペーパー提出	
	13		テーマ⑦	
	14		テーマ⑦	
	15	まとめ	テーマ⑦ / リアクションペーパー提出/コンテストなどの最終結果報告	
評価方法	出席回数、授業態度、授業の理解度やレポートの明晰性、個人の発見や新視点の有無などの評価基準に基づいて感想文の平均点と、コンテスト応募の有無を成績とする(感想文本数：前期6本、後期7本)			
テキスト 参考書	必要に応じて随時指定します			

日本写真芸術専門学校

科目ガイド

2025

Ⅱ部 必修・選択科目

Ⅱ部 年 組 氏名：

---

## はじめに

この科目ガイドには、日本写真芸術専門学校で開講される各授業の区分、対象、開講期、単位数、講師名、授業計画、授業内容、評価方法等の授業概要が掲載されています。

選択科目の履修計画を立てるときの資料として、また教室内外で学習を進める手がかりとして活用して下さい。

# 科目ガイド 目次

## ■Ⅱ部１年 必修科目・選択必修科目

p. 1	スタジオ演習	佐藤 和恵
p. 2	写真撮影基礎演習	五十嵐 太二
p. 3	写真表現基礎演習	馬場 智行・植田 真紗美
p. 4	画像処理Ⅰ	芳田 賢明
p. 5	現代写真論	調 文明
p. 6	写真科学	船生 望
p. 7	写真創作演習	馬場 智行
p. 8	暗室表現演習	松井 寛泰
p. 9	コマーシャル基礎ゼミ	イ キョンソン
p. 10	ポートレート基礎ゼミ	出水 恵利子
p. 11	ドキュメンタリー基礎ゼミ	鈴木 邦弘
p. 12	フォトクリエイティブ基礎ゼミ	馬場 智行

## ■ゼミ（２年次）

p. 13	コマーシャルフォトゼミ	赤坂 トモヒロ
p. 14	ファッションポートレートゼミ	倭田 宏樹
p. 15	フォトクリエイティブゼミ	倉持 正実
p. 16	ドキュメンタリーフォトゼミ	鈴木 邦弘

## ■必修科目・選択必修科目（２年次）

p. 17	画像処理Ⅱ	羽立 孝
p. 18	スタジオアドワーク	市川 森一
p. 19	ファッションポートレート	河野 鉄平
p. 20	フォトクリエイティブ演習	田 凱
p. 21	ムービー制作演習	栗林 武
p. 22	映像表現論	調 文明
p. 23	写真表現演習	柳本 史歩
p. 24	スタジオライティング	出水 恵利子

## ■特別科目

p. 25	特別WS／NPIポートフォリオコンペティション
p. 26	海外研修
p. 27	期末審査／卒業作品展／卒業作品集
p. 28	就職ガイダンス／卒進オリエンテーション

## ■認定科目

p. 29	技能検定／DTP検定／写真関連検定
p. 30	学外写真展／学外公募展／インターン

2025		区分	必修	対象	Ⅱ部1年
科目名	スタジオ演習				
開講期	前後期		単位数	6	
講師名	佐藤 和恵				
授業概要	スタジオ演習ではプロを志す人が撮影において必要となる、基本的な光の種類やライティング・撮影までのプロセスを1年生で覚えなければならない基礎的な知識と技術を中心に、順序立てて学んでいきます。実習では撮影機材の種類から使い方までを年間を通じて学習し、自分自身の写真表現に結びつく、フレームワーク・ライティング方法・露光の調整・イメージ作りなどを実習を通して身に付けていきます。学生一人一人が興味の持てる授業内容にし、個々の相談にも対応していきます。				
授業計画	回数	主題・目的	授業予定		
前期	1	オリエンテーション	年間説明、カメラの使い方、カメラの種類		
	2	写真基礎①	撮影に必要な基礎的な知識の説明①		
	3	写真基礎②	撮影に必要な基礎的な知識の説明②		
	4	スタジオ機材の扱い方①	スタジオ撮影に使用する機材の種類と説明		
	5	スタジオ機材の扱い方②	大型ストロボの使い方		
	6	光について①	露出計を使用した露出の考え方		
	7	光について②	光の種類を知って、光をコントロールする①		
	8	光について③	光の種類を知って、光をコントロールする②		
	9	光について④	光の質感について①		
	10	光について⑤	光の質感について②		
	11	撮影環境を整える	撮影環境の整え方、テザー撮影について		
	12	商品撮影の種類①	商品撮影の種類とその方法①		
	13	商品撮影の種類②	商品撮影の種類とその方法②		
	14	商品撮影の種類③	商品撮影の種類とその方法③		
	15	前期のまとめ	前期のまとめ、スタジオ演習授業内テスト		
後期	1	イメージを表現する①	シズル感の表現とイメージ構成 スイーツ編①		
	2	イメージを表現する②	シズル感の表現とイメージ構成 スイーツ編②		
	3	イメージを表現する③	朝ごはん編		
	4	クリップオンストロボ①	クリップオンストロボ 基礎編		
	5	クリップオンストロボ②	クリップオンストロボ 応用編		
	6	イメージを表現する④	化粧品編① 映り込み		
	7	イメージを表現する⑤	化粧品編② シズル		
	8	イメージを表現する⑥	靴編		
	9	合成を考えた撮影①	合成を前提とした撮影を考える		
	10	合成を考えた撮影①	合成を前提とした撮影を考える		
	11	広告制作①	グループに分かれての広告制作①		
	12	広告制作②	グループに分かれての広告制作②		
	13	広告制作③	グループに分かれての広告制作③		
	14	広告制作④	グループに分かれての広告制作④		
	15	後期のまとめ	後期のまとめ、スタジオ演習 授業内テスト		
評価方法	各実習製作に於ける提出作品、理解力、積極性、授業態度による絶対評価				
テキスト 参考書					

科目名	写真撮影基礎演習		
開講期	前期	単位数	6
講師名	五十嵐 太二		
授業概要	<p>写真を通して人に何かを伝えるには、被写体の状態を的確に捉え、最適な機材の選択と設定が必要になります。この授業は表現そのものではなく、自分が伝えたい内容を表現するための基本的な撮影技術、カメラやレンズなど機材の特性を理解すること、そして将来、様々な分野に進むために不可欠となる技術的土台を作ることを目的とします。</p>		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	カメラの点検	オリエンテーション。カメラの点検法・実写
	2	カメラの仕組み	一眼レフの仕組みと特性・写真の三大失敗
	3	露出① 絞り	適正露出、絞りの表現効果、被写界深度
	4	露出② シャッター	シャッタースピードの効果、相反則
	5	露出③	EV、露出補正、ヒストグラムの見方
	6	フラッシュ①	同調速度、GN、調光、ストロボを使用した様々な撮影法
	7	フラッシュ②	同調速度、GN、調光、ストロボを使用した様々な撮影法
	8	画面構成①	構図、画面構成（アングル、ポジション、ディスタンス）
	9	画面構成②	レンズの効果・画角とパース・焦点距離、前期のまとめ
	10	作品講評	撮影技術の基礎を確認
	11	写真用品解説	フィルターの種類と使い方、三脚の使用法と選び方
	12	光源と色①	光の種類、ライティングポジション（順光、逆光、斜光etc）
	13	光源と色②	デジタルカメラの特性、WBの解説
	14	撮影マナー	撮影時のマナーやルール
	15	まとめ	不明点等をクリアにする
後期	1		
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
評価方法	出席、習熟度、課題作品、授業態度などを総合的に評価。		
テキスト 参考書	授業配布プリント		

科目名	写真表現基礎演習			
開講期	前後期		単位数	6
講師名	馬場 智行・植田 真紗美			
授業概要	写真を撮る！という行為は、カメラというメカニカルな道具を使い、感性を伴った眼で見た事象を記録・定着させる作業です。写真表現には様々な技法があります。それがどのように表現に関わっていくのかを実習によって学ぶ授業です。他者に伝える意図・撮影の目的を明確にし、映像化する為の基礎を身につける。それがこの授業の柱です。 写真も身体表現です。たくさんシャッターを押して、たくさんプリントして、たくさん写真を観ることです。写真に費やした努力を、写真は裏切りません。体で憶えましょう。			
授業計画	回数	主題・目的	授業予定	
前期	1	写真の主題	オリエンテーション/組み写真と単写真について/課題1『他者』発表	
	2	カメラワーク	露出・ピント・WBを使った表現を知る/課題1講評	
	3	カメラワーク	シャッタースピード・絞りをを使った表現を知る/課題1講評	
	4	全体講評	課題1の合評/課題2『三社祭』発表（フレーム・アングル・ディスタンスを意識）	
	5	撮影実習	課題2『三社祭』屋外撮影を実施	
	6	撮影実習	課題2『三社祭』屋外撮影を実施	
	7	全体講評	課題2『三社祭』	
	8	全体講評	課題2『三社祭』	
	9	講義	構図について/組み写真について	
	10	レンズワーク	広角レンズ、望遠レンズを使った表現/課題3『我が町』発表	
	11	中間講評	課題3『我が町』“現在”を5枚、“過去”を5枚で構成	
	12	中間講評	課題3『我が町』	
	13	全体講評	課題3のまとめ	
	14	中間講評	前期末中間審査	
	15	中間講評	前期末中間審査	
後期	1	講義	課題4発表	
	2	中間講評	課題4	
	3	中間講評	課題4	
	4	全体講評	課題4のまとめ	
	5	撮影実習	課題5	
	6	撮影実習	課題5	
	7	全体講評	課題5の合評	
	8	全体講評	課題5の合評	
	9	講義	課題6発表	
	10	中間講評	課題6	
	11	中間講評	課題6	
	12	全体講評	課題6のまとめ	
	13	中間講評	進級審査課題中間審査	
	14	中間講評	進級審査課題中間審査	
	15	まとめ	進級審査について	
評価方法	出席及び熱意 作品の完成度（写真のうさだけでは評価しない）			
テキスト 参考書	図書室の写真集等			

2025		区分	必修	対象	Ⅱ部1年
科目名		画像処理Ⅰ			
開講期	前後期		単位数	6	
講師名	芳田 賢明				
授業概要	業界標準の画像処理ソフトウェアであるAdobe Photoshopを主に用い、写真家・フォトグラファーとして必要な、RAW現像～レタッチ～インクジェットプリントの基本を学びます。撮影データを自らプリントして仕上げていく作業を繰り返し行う中で、画像処理による画づくりの基本的な知識と技術の習得を目指します。				
授業計画	回数	主題・目的	授業予定		
前期	1	写真制作の概要	ワークフロー、写真制作・画像処理の考え方／演習：Mac、Bridge、Photoshopの基本操作		
	2	作業環境を整える	作業環境、機材の選び方、モニターのキャリブレーション、カラー設定、データの管理、レイヤー／演習：写真のセレクト、ゴミ消し		
	3	プリントの概要を把握する	RAW現像やレタッチを考慮した撮影、プリンターについて、用紙について、いろいろなプリントの仕方／演習：プリントしてみる		
	4	デジタル画像を理解する	RAWとJPEGの違い、保存形式、圧縮、画像の仕組み（解像度・ピクセル深度）、階調、ヒストグラム		
	5	RAW現像に慣れ、画づくりを理解する	RAW現像の基本、RAW現像とレタッチの違い、色味・調子・質感、印象と視線、記憶色・忠実色／演習：RAW現像に慣れる		
	6		評価・設計・調整のサイクル／演習：ワークシートを使いながら自己作品でRAW現像～プリントをする、JPEG撮って出しと比較する		
	7		自己作品でRAW現像～プリントをする、JPEG撮って出しと比較する		
	8	色調補正に慣れる	加法混色・減法混色、色相・彩度・明度、トーンカーブの仕組み、色調補正の基本、調整レイヤー／演習：色調補正に慣れる		
	9		ワークシートを使いながら自己作品でRAW現像～レタッチ～プリントをする		
	10	選択範囲に慣れる	選択範囲の取り方・使いどころ／演習：選択操作に慣れる		
	11		選択範囲も使い、ワークシートを使いながら自己作品でRAW現像～レタッチ～プリントをする		
	12	作品を仕上げる	これまでの学びを踏まえて自由作品を仕上げる（随時質疑応答、講義）		
	13		これまでの学びを踏まえて自由作品を仕上げる（随時質疑応答、講義）		
	14	質問・おさらい	講義・演習：質問内容に応じて		
	15	テスト	テスト：習得度の確認		
後期	1	カラーマネジメントを理解する	カラーマネジメントシステムの考え方、仕組み、実践例、観察光源、ワークフローへの応用		
	2	表現を深める	いろいろなRAW現像ソフト／演習：Lightroomの基本操作、ペンタブレットの使い方、ペンタブレットに慣れる		
	3		RAW現像の基本補正以外の活用、モノクロ表現、Photoshopフィルターの活用、プリントの外注について、入稿データ／演習：実践		
	4		演習：自己作品を仕上げる		
	5		演習：自己作品を仕上げる		
	6	ポートレートのレタッチ	肌のレタッチ、質感／演習：実践		
	7		自己作品を仕上げる		
	8	画像合成の実践	同ポジションの合成、切り抜き合成／演習：実践		
	9		自己作品を仕上げる		
	10	画づくりを分析する	演習：好きな写真家の画づくりを分析・真似てみる		
	11	画像・プリントのみきわめ	講義：画像やプリントの不良・劣化のみきわめ／演習：仕上げ実践		
	12	作品を仕上げる	演習：これまでの学びを踏まえて自由作品を仕上げる（随時質疑応答、講義）		
	13		演習：これまでの学びを踏まえて自由作品を仕上げる（随時質疑応答、講義）		
	14	質問・おさらい	講義・演習：質問内容に応じて		
	15	テスト	テスト：習得度の確認		
評価方法	出席、授業内課題、期末テストをベースに、授業への取り組み、作品の完成度を加味して評価します。				
テキスト参考書	適宜指示します。				



2025		区分	必修	対象	Ⅱ部1年
科目名	現代写真論				
開講期	後期		単位数	3	
講師名	調 文明				
授業概要	フランスの思想家ロラン・バルトが『明るい部屋』（1980年）のなかで写真における3つの実践として「撮ること」「撮られること」「眺めること」を挙げていますが、この3つに注目することは現代の写真表現を考えるうえで今なお高い有効性をもっています。撮ること＝写真家の意図や写真の技術革新、撮られること＝人物や出来事などの社会的・歴史的・文化的背景、眺めること＝写真の一般的な使用や鑑賞者の自己認識……。本授業ではよりよい理解のために実際の資料（写真集やドキュメンタリー映像、写真論関連の文献など）にも触れながら、ジャンルやトピックに分けて国内外の現代写真の概説を年代に沿って行っていきます。教科書は鳥原学著『教養としての写真全史』（筑摩書房、2021年）を用います。				
授業計画	回数	主題・目的	授業予定		
前期	1				
	2				
	3				
	4				
	5				
	6				
	7				
	8				
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				
後期	1	授業紹介	イントロダクション：現代写真論とは		
	2	写真技術	写真の起源		
	3	写真技術	描写の進化とメディアの複製性		
	4	写真技術	デジタルテクノロジーによるフラット化		
	5	肖像写真	写真と社会		
	6	肖像写真	記録と表現		
	7	技術と表現	スナップショット——写真と日常の瞬間		
	8	技術と表現	スナップショット——「決定的瞬間」以後の多様な表現		
	9	視覚文化	モダン・デザインと写真		
	10	記録写真	ジャーナリズムとプロパガンダ		
	11	記録写真	主観的なドキュメンタリー		
	12	記録写真	誰もが写真を撮り写真に写る時代における記録のあり方		
	13	広告写真	大量消費社会における視覚的訴求力		
	14	広告写真	音楽と写真の交叉		
	15	芸術写真	19世紀後半のピクトリアリズムから21世紀の現代写真まで		
評価方法	平常点（授業参加度とリアクションペーパー）と期末レポート（もしくは授業内課題）の総合評価。ただし、2/3以上の出席をしていない場合は、単位修得不可。				
テキスト参考書	教科書：鳥原学『教養としての写真全史』（筑摩書房、2021年） *授業開始前にならず各自購入すること。				

科目名	写真科学		
開講期	前後期	単位数	3
講師名	船生 望		
授業概要	<p>写真の表現は感性に基づく主観的な要素を中心に展開されますが、知識に基づく客観的な要素も必要です。現在の写真システムは主観的な要素を支援するための十分なテクノロジーを備えています。しかし、このような高度化・自動化された環境の中でより深く写真と関わるためには、より一層の理論的な裏付け知識が必要になります。</p> <p>そこで、本授業では、現在の写真システムの基礎となる写真技術の歴史的な変遷を辿り、写真のできるしくみや写真制作に用いられる機器や材料などの主要な事項について学習します。</p>		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	説明／講義	ガイダンス/写真技術の歴史的な変遷
	2	講義	写真のできるしくみ（銀塩写真・デジタル写真）
	3	講義	写真のデジタル
	4	講義	色と光・写真の色再現のしくみ
	5	講義	写真制作の主な機材
	6	講義	撮影のメカニズム
	7	講義	カメラ
	8	講義	写真レンズ
	9	講義	露出計
	10	講義	写真用人工光源
	11	講義	コンピュータと周辺機器・①
	12	講義	コンピュータと周辺機器・②
	13	まとめ	授業のまとめ
	14		
	15		
後期	1		
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
評価方法	出席、授業内課題、期末テストをベースに、授業への取り組みを加味して評価します。		
テキスト 参考書	適宜指示します。		

2025		区分	選択必修	対象	Ⅱ部1年
科目名	写真創作演習				
開講期	前後期		単位数	3	
講師名	馬場 智行				
授業概要	<p>この授業では前期を通して各々一つのテーマに基づく作品を制作してもらいます。それぞれのテーマに沿った写真を提出し、講評とディスカッションを行います。そこで得られた考えを元に各自新たに撮影し、それをまた提出してもらい、さらに講評とディスカッションを行います。これを毎週繰り返し、作品をビルドアップさせていきます。その過程で、表現方法、セレクトの方法、組み方、見方、言語化等を実践的に体験してもらいます。写真とは広く深い海のようなもので、その理解は容易に到達できるものではありませんが、実践的に訓練を積み上げていくことでなっていくことができます。この授業は写真表現における考える力と想像力を鍛え、これから始まる写真の道の導入として、それぞれにとってその下地や土台を体験の中から得ることを目的とします。</p>				
授業計画	回数	主題・目的	授業予定		
前期	1	オリエンテーション	授業内容の説明 各自の過去の作品を使って、ディスカッション		
	2	企画発表	各自取り組むテーマの決定		
	3	作品検討	3～5枚の各自のテーマに沿ったプリントを提出・作品検討		
	4	作品検討	3～5枚の各自のテーマに沿ったプリントを提出・作品検討		
	5	作品検討	3～5枚の各自のテーマに沿ったプリントを提出・作品検討		
	6	作品検討	5～8枚の各自のテーマに沿ったプリントを提出・作品検討		
	7	作品検討	5～8枚の各自のテーマに沿ったプリントを提出・作品検討		
	8	作品検討	5～8枚の各自のテーマに沿ったプリントを提出・作品検討		
	9	作品検討	8～10枚の各自のテーマに沿ったプリントを提出・作品検討		
	10	作品検討	8～10枚の各自のテーマに沿ったプリントを提出・作品検討		
	11	作品検討	8～10枚の各自のテーマに沿ったプリントを提出・作品検討		
	12	作品検討	8～10枚の各自のテーマに沿ったプリントを提出・作品検討		
	13	課題提出	ポートフォリオ提出		
	14				
	15				
後期	1				
	2				
	3				
	4				
	5				
	6				
	7				
	8				
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				
評価方法	課題提出、提出頻度、課題内容、出席回数				
テキスト 参考書	必要に応じて随時指定				

科目名	暗室表現演習		
開講期	前期	単位数	3
講師名	松井 寛泰		
授業概要	<p>この授業はモノクロフィルムを使用した暗室作業を身近なものとし、今後の活動における写真表現の幅を広げることを目指します。写真の世界ではデジタルが一般的になりましたが、モノクロフィルムを使用した写真は現在でも写真表現の技法として多くの写真家が活用しています。そこでこの授業ではフィルム現像、プリント作業を中心に、伝統的な銀塩プリントを通して写真の基礎を学んでもらいます。最終的には一つのテーマで作品を制作します。</p>		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	ガイダンス	授業の流れ 機材説明 オリジナルプリントとは
	2	講義	フィルム現像デモンストレーション/リールに巻く練習/機材
	3	現像	フィルム現像
	4	講義	プリントデモンストレーション/コンタクト/引き延ばし/機材
	5	プリント	コンタクトプリント
	6	プリント	引き延ばしプリント/濃度とコントラスト調整1
	7	プリント	引き延ばしプリント/濃度とコントラスト調整2
	8	現像	フィルム現像
	9	プリント	焼き込み/覆い焼き
	10	プリント	プリント
	11	現像	フィルム現像
	12	プリント	プリント
	13	まとめ	作品提出
	14		
	15		
後期	1		
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
評価方法			
テキスト 参考書			

科目名	コマーシャル基礎ゼミ		
開講期	後期	単位数	3
講師名	イ キョンソン		
授業概要	<p>画面構成とライティング、コマーシャルフォトの特性を学びます。            イメージ広告写真模写を中心に広告表現法を習得。            ● 照明機材及びライティング基礎知識と応用。            ● 商品写真の良し悪しを判断する力の養成。創造、発想イメージの定着化。</p>		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1		
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
後期	1	テスト	絞り、シャッタースピード、機材の使い方理解度テスト
	2	Mirror Box	入射光、反射光を理解撮影
	3	課題提出	Mirror Box、Scrap Book, 自己紹介
	4	テスト撮影	模写ライティング確認
	5	Capture One	テザー撮影
	6	撮影	模写撮影
	7	テスト撮影	模写商品決め、撮影方法、ライティング確認
	8	模写撮影	切り抜き撮影
	9	予備日	切り抜き撮影
	10	課題提出	模写①②提出
	11	テスト撮影	模写アレンジカット、イメージ決め、ラフ提出
	12	撮影	撮影
	13	撮影	自由イメージカット①
	14	撮影	自由イメージカット②
	15	課題提出	作品講評
評価方法	出席15回(61点)10回以下点数なし / 課題提出(1/5点+α) / 授業態度・撮影準備(+,-α)		
テキスト 参考書	PDFファイル、プリント配布		

科目名	ポर्टレート基礎ゼミ		
開講期	後期	単位数	3
講師名	出水 恵利子		
授業概要	<p>スタジオワークを基本とし、被写体への取り組み方や自分の撮っていききたいゼミや方向性などを明確にし、写真を撮る基本知識を高める事を目的とします。ライティングの基礎、セッティング等スタジオのワークフローを習得します。機材はストロボを使用。授業の内容にあわせて必ず自分のカメラ、露出計、メディアを持参して下さい。必要に応じて撮影被写体に必要な小物を各自で用意して下さい。必ず自分で露出を計り露出決定を行いピントを合わせて撮影に取り組んで下さい。課題は、授業の時間内スタジオで仕上げる。リモートで参加は、リモート時間ごとに課題を掲げます。リモート授業内で仕上げ、リモート授業時間内終了までに提出してください。</p>		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1		
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
後期	1	授業説明と基礎	機材の基本的知識の確認。機材の使用、組み方の基本。
	2	基本ライティング	基礎ライティングの構築
	3	基礎ライティング	アンブレラを活用／基礎ライティングの構築
	4	基礎ライティング	バンクを活用／基礎ライティングの構築
	5	基礎ライティング	デュフューザーを活用／ライティングの構築
	6	背景のライティング	背景イメージライティング
	7	基礎ライティング	イメージライティング／白バック
	8	基礎ライティング	イメージライティング／黒バック
	9	テスト	イメージライティング・自由
	10	応用	全身ライティング1
	11	応用	全身ライティング2
	12	応用	全身ライティング撮影
	13	応用	作品研究
	14	応用	作品研究
	15	テスト	作品研究撮影／講評
評価方法	授業態度を基本とし理解度や出欠席の総合評価とします。※1回休むごとに（-3点）とします。		
テキスト 参考書	玄光社／ポर्टレイトライティング		

科目名	ドキュメンタリー基礎ゼミ		
開講期	後期	単位数	3
講師名	鈴木 邦弘		
授業概要	<p>現在のドキュメンタリー写真は、ルポルタージュ写真（フォトジャーナリズム）だけではなく、写真の美しさだけ見ればまるでアート写真のような作品が沢山あります。実際、アートとドキュメンタリーが非常に接近し、その境界もあいまいになっています。しかし、そのテーマは社会性を意識したものが多く、複雑な現代の時代性をいかに撮り込むかと多くの写真家たちが悪戦苦闘しています。この授業では、前半5回の授業で1950年代から現在までの写真の大きな流れを写真集をみて学びます。その後、自分で決めたテーマを撮影してもらい、合評の時にテーマにそった制作途中の作品を提示し、作品に対する意見を内容と形式の両面から全員で検討し、そこでの意見を参考に再撮してもらいます。このようなことを繰り返し、最終的には15枚から20枚の作品を提出してください。成績は作品の点数で決定します。</p>		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1		
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
後期	1	授業説明	授業内容、授業予定、テーマ相談など。
	2	写真集	1950年代 パブリックな視線からプライベートな視線へ
	3	写真集・発表	1960年代 コンテンポラリー、ニュードキュメンツ・テーマ発表
	4	写真集	1970年代 ニューカラー、ニューとポグラフィ、タイポロジーの写真家たち
	5	写真集	1980・90年代 メイキングフォト、プライベートフォトの写真家たち
	6	写真集	2000年代 ドキュメンタリー写真の現在
	7	合評	テーマにそった制作途中の作品を持参する。
	8	合評	テーマにそった制作途中の作品を持参する。
	9	合評	テーマにそった世暁く途中の作品を持参する。
	10	合評	テーマにそった制作途中の作品を持参する。
	11	合評	テーマにそった制作途中の作品を持参する。
	12	合評	テーマにそった制作途中の作品を持参する。
	13	合評	テーマにそった制作途中の作品を持参する。
	14	合評	テーマにそった制作途中の作品を持参する。
	15	作品審査	シリーズにした作品15から20枚を提出すること（完成した作品）採点を行う
評価方法	授業の提出作品の採点の結果を評価とする。出席状況も考慮します。		
テキスト 参考書			

科目名	フォトクリエイティブ基礎ゼミ		
開講期	後期	単位数	3
講師名	馬場 智行		
授業概要	<p>後期全15回の授業を通して、一つのテーマに基づき作品を制作してもらいます。前期からテーマのある人はそれを引き継ぎ作成を始め、テーマのない人は取り組むテーマの設定から始めます。“何を、何時、どのように撮るべきか”、“どのようなコンセプトを必要とするか”、毎週の講評・ディスカッションを通して検討し、それに基づき制作を進めていきます。また、そのディスカッションを通して自身と作品との関係性を探っていき、作品の言語化についても練習していきます。この授業はこれからの作品制作における基礎的な力を実践的に身に付けていくことと、自身の作品についてしっかりと説明出来るようになることを目標とします。写真の表現方法、どのような言葉で語るべきか、これらの選択肢は数多くあります。その多くある選択肢の中から何を選択していくべきなのか、その基準をそれぞれに自身の内に構築していくことを目指します。□</p>		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1		
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
後期	1	テーマの模索と検討	過去の作品を基に後期に取り組むテーマを検討
	2	作品検討	テーマに沿った作品を持ち寄り考察
	3	作品検討	前回の考察を基に進展した作品をさらに考察
	4	作品検討	前回の考察を基に進展した作品をさらに考察
	5	作品検討 文章化	前回の考察を基に進展した作品をさらに考察 言語
	6	作品検討 文章化	前回の考察を基に進展した作品をさらに考察 文章
	7	作品検討 ステートメントの考察	前回の考察を基に進展した作品をさらに考察 効果的なステートメントの考察□
	8	作品検討 見せ方を考える	前回の考察を基に進展した作品をさらに考察 効果的な見せ方の考察
	9	作品検討 ステートメントの考察	前回の考察を基に進展した作品をさらに考察 ステートメントの考察□
	10	作品検討 見せ方を考える	前回の考察を基に進展した作品をさらに考察 見せ方の考察 2
	11	作品検討 編集	前回の考察を基に進展した作品をさらに考察 編集の考察 1
	12	作品検討 編集	前回の考察を基に進展した作品をさらに考察 編集の考察 2
	13	作品検討 編集	前回の考察を基に進展した作品をさらに考察 編集の考察 3
	14	作品検討 編集	前回の考察を基に進展した作品をさらに考察 編集の考察 4
	15	まとめ	これまでのまとめ
評価方法	出席及び課題提出、授業中の作品提示回数で判断□		
テキスト 参考書	必要に応じて随時指定します		



2025		区分	必修	対象	Ⅱ部2年
科目名	コマーシャルフォトゼミ				
開講期	前後期		単位数	6	
講師名	赤坂 トモヒロ				
授業概要	<p>このゼミでは、これまで学んできた商品撮影の技術・知識をより深めるとともに、卒業作品展や卒業後を見据えたポートフォリオ制作など、学生生活の集大成としての作品作りを行っていきます。前期は与えられた課題を精密にこなしていくことを中心に進め、後期は学生自らがテーマを設定して作品を撮っていくことを中心にしつつ、作品に対して講師から与えられる課題をクリアしていくことで完成度を高め、「ディレクターやクライアントのオーダーに応える」という実践を想定した内容で進めます。各回ごとにレタッチや合成を行なった画像を翌週の授業内で提出し、個別に講評を行います。ただし、学生の習熟度や技術レベルに応じて、授業の進め方・内容は柔軟に変えていく予定です。</p>				
授業計画	回数	主題・目的	授業予定		
前期	1	授業内容の説明	オリエン、講師の用意した商品の撮影を通じて広告写真の基本的な考え方を学ぶ。		
	2	課題撮影①	前年度の復習を兼ねて基本的な切り抜き撮影を行う		
	3				
	4				
	5	課題撮影②	講師の提示する課題作品を模写する		
	6				
	7				
	8	課題撮影③	講師の提示する課題作品を模写する		
	9				
	10				
	11	課題撮影④	講師の提示する課題作品を模写する		
	12				
	13				
	14	課題撮影⑤	講師の提示する課題作品を模写する		
	15				
16					
後期	1	作品撮り①	各自が自由にテーマを設定し作品を制作する		
	2				
	3				
	4	作品撮り②	各自が自由にテーマを設定し作品を制作する		
	5				
	6				
	7	作品撮り③	各自が自由にテーマを設定し作品を制作する		
	8				
	9				
	10	作品撮り④	各自が自由にテーマを設定し作品を制作する		
	11				
	12				
	13	作品撮り⑤	各自が自由にテーマを設定し作品を制作する		
	14				
	15				
16	作品撮り⑥	各自が自由にテーマを設定し作品を制作する			
17					
18					
19	作品撮り⑦	各自が自由にテーマを設定し作品を制作する			
20					
21					
評価方法	出席状況および課題の提出状況等				
テキスト 参考書					

2025		区分	必修	対象	Ⅱ部2年
科目名	ファッションポートレートゼミ				
開講期	前後期		単位数	6	
講師名	倭田 宏樹				
授業概要	<p>ファッションフォトグラファーに求められるものは技術や知識も大切ですが、独創性と協調性です。</p> <p>既成概念に捉われず、流行を組み上げ、独自のセンスを築く事はこれからのベースであり、道しるべでもあります。</p> <p>『学ぶ』からより『実践』『作品制作』にベースを移行し、授業では主にテーマに沿って独自の感性を形にしていきます。他の生徒達と同じモデルで同じテーマを元に撮影していきます。撮影後は皆んなで写真を展示し、皆んなで評価をつけます。己の形に導き、創り上げていく事が目標です。</p>				
授業計画	回数	主題・目的	授業予定		
前期	1	説明	授業内容説明		
	2	授業	Capture One 講習		
	3	照明授業	ライティング授業 1灯ライトのバリエーション		
	4	照明授業	ライティング授業 色表現		
	5	授業	次回撮影プラン制作		
	6	撮影	課題テーマ撮影『B/W』1		
	7	撮影	課題テーマ撮影『B/W』2		
	8	合評、検討	前回の撮影合評、次回撮影プラン制作		
	9	撮影	課題テーマ撮影『street』1		
	10	撮影	課題テーマ撮影『street』2		
	11	照明授業	ライティング授業 拡散光		
	12	合評、検討	前回の撮影合評、次回撮影プラン制作		
	13	撮影	課題テーマ撮影『ennui』1		
	14	撮影	課題テーマ撮影『ennui』2		
	15	合評、検討	前回の撮影合評、次回撮影プラン制作		
後期	1	撮影	テーマ撮影『組写真』1		
	2	撮影	テーマ撮影『組写真』2		
	3	合評、検討	前回の撮影合評、次回撮影プラン制作		
	4	撮影	テーマ撮影『elegant』1		
	5	撮影	テーマ撮影『elegant』2		
	6	合評、検討	前回の撮影合評、次回撮影プラン制作		
	7	撮影	テーマ撮影『music』1		
	8	撮影	テーマ撮影『music』2		
	9	合評、検討	前回の撮影合評、次回撮影プラン制作		
	10	撮影	テーマ撮影『minimal』1		
	11	撮影	テーマ撮影『minimal』2		
	12	検討	次回撮影プラン制作、卒業審査の経過提出		
	13	撮影	テーマ撮影『own style』1		
	14	経過報告	テーマ撮影『own style』2		
	15	総括	前回の撮影合評一年の総括		
評価方法	出席、授業態度、表現力、テーマ提出物				
テキスト 参考書					

2025		区分	必修	対象	Ⅱ部2年
科目名	フォトクリエイティブゼミ				
開講期	前後期		単位数	3	
講師名	倉持 正実				
授業概要	<p>ゼミの目標は『学生時代の代表作』といえる写真を残すことです。それらの作品は、卒業後の創作活動の原点にも成り得るのです。各自が、最も関心のある事柄を年間テーマとして設定して下さい。テーマ撮影を進めていく上でどんな考え方・撮影方法が適切なのかを学生相互の講評（合評）のなかで模索していく授業です。</p> <p>成果としての作品は期末にポートフォリオとして残します。毎回プレゼンテーション（作品提示）をすることを考えて下さい。このゼミが、クリエイト（創作）していくことを与えてくれるものではありません。受講生一人一人の行動が作品を創り出していくのです！</p>				
授業計画	回数	主題・目的	授業予定		
前期	1	説明	オリエンテーション（授業説明）課題提示1『食』		
	2	講評	合評（1年次作品を中心に）メインテーマの設定		
	3		合評『食』課題提示2『ファッション』		
	4	撮影実習1	機材の復習・再確認（ストロボ等）		
	5	講評	合評『ファッション』		
	6	撮影実習2	都市風景（Phase Oneでの撮影）		
	7	講評	合評（各自のテーマに即して）サブテーマの設定		
	8				
	9	作品鑑賞	適宜		
	10	講評	各自のテーマをプレゼンテーション（中間考査を考慮して）		
	11		合評（各自のテーマに即して）		
	12				
	13	実習	ポートフォリオ（BOOK）の制作		
	14	講評	夏期休暇課題に即して		
	15	まとめ	ポートフォリオ（BOOK）完成		
後期	1	講評	合評（各自のテーマに即して）		
	2				
	3	撮影実習3,4	模倣から1、2（それぞれのテーマに対して別の方法論を疑似体験する）		
	4				
	5	講評	合評（各自のテーマに即して）		
	6				
	7	作品鑑賞	話題の写真展・写真集から		
	8	講評	合評（各自のテーマに即して）		
	9				
	10	卒展実習1～5	卒展構成（タイトル・コンセプトを文章化する）		
	11		卒展レイアウト		
	12				
	13				
	14		作品集編集		
	15	まとめ	ポートフォリオ（BOOK）最終型の完成		
評価方法	出席および熱意 作品の到達度（技術的な写真のうまさだけでは評価しない）				
テキスト参考書	適宜（図書室の写真集等）				

2025		区分	必修	対象	Ⅱ部2年
科目名		ドキュメンタリーフォトゼミ			
開講期		前後期		単位数	6
講師名		鈴木 邦弘			
授業概要		ドキュメンタリーの写真作品とは、社会（人間の営む共同体）を対象にした写真群です。そして、その社会を写真家がどう理解したか（理解できないか）を表現したものが作品です。その範囲は非常に広く、深い。作品作りは常に他者（人間だけでなく自然なども含む）を相手にします。そこには自分探しではなく、自分作りがあるだけです。つまり、作品作りとは他者を通して自分自身を作ること（だからこそ自分自身が問われること）なのです。授業には真剣に取り組んで下さい。このようなことを前提に、自分で年間テーマを決め、1年間かけて作品を制作します。授業ではそれぞれの作品を合評（学生全員と講師で作品検討をすること）し、問題点を改善し再取材撮影を行い、また合評を行います。これらを繰り返し、最終的にはシリーズにした作品30枚以上を提出してもらいます。			
授業計画		回数	主題・目的	授業予定	
前期	1	授業説明	授業内容、授業予定、テーマ相談など		
	2	合評	合評はテーマ内容にもよるので、順番などを1回目の授業で具体的に決める		
	3	合評	デジタル、フィルム、フォーマットなどは自由		
	4	合評	各自提出の際は必ず作品を持参すること 枚数は自由		
	5				
	6				
	7				
	8				
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
	15	作品審査	シリーズにした15枚の作品を提出する（年間テーマ30枚以上の作品の前期分）採点を行う		
後期	1	合評	各自提出の際は必ず作品を持参すること 枚数は自由		
	2				
	3				
	4				
	5				
	6				
	7				
	8				
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
	15	作品審査	シリーズにした作品30枚以上を提出すること（完成した作品）採点を行う		
評価方法		出席状況および課題の提出状況等			
テキスト 参考書					

2025		区分	必修	対象	Ⅱ部2年
科目名	画像処理Ⅱ				
開講期	前後期		単位数	6	
講師名	羽立 孝				
授業概要	<p>”イメージ”はコミュニケーションの一つです。”イメージ”を具現化し他者を介し昇華していく上で、デジタル写真をレタッチしていくことはとても重要なことになっています。個々の目的のイメージにより、その必要十分性は変化していきますがそれらの技術を幅広く習得し、またイメージ作成にあたり必要な技術を取捨選択し、最善の結果を得られるイメージづくりができることを目標とします。</p> <p>それぞれの今後の写真への取り組みへの明確な目標、また課題を持ち、授業に望んでください。</p>				
授業計画	回数	主題・目的	授業予定		
前期	1	概要	ペンタブレット・Bridge		
	2	RAW現像	ヒストグラム、情報		
	3	テザー撮影	SONY、CANON、NIKON		
	4	Photoshop	レイヤーの仕組み(修復ブラシ・コピースタンプ)		
	5	選択範囲	選択範囲およびマスクの概要		
	6	パス①	パスの概要		
	7	パス②	パスの選択、使い方		
	8	パス③	パスを組み合わせる使う		
	9	選択範囲	色		
	10	選択範囲	輝度		
	11	チャンネル	小テスト		
	12	トーンカーブ①	ブラシ		
	13	トーンカーブ②	ブラシ&情報		
	14	テスト	前期内容		
	15	回答			
後期	1	前期の復習	確認および補足		
	2	スマートオブジェクト	概要(RAW)		
	3	スマートオブジェクト	変形		
	4	スマートオブジェクト	フィルター		
	5	スマートオブジェクト	ゆがみ		
	6	スマートオブジェクト	小テスト		
	7	スマートオブジェクト	背景延ばし		
	8	描画モード	スクリーン		
	9	描画モード	乗算		
	10	描画モード	乗算		
	11	描画モード	乗算		
	12	描画モード	オーバーレイ		
	13	描画モード	オーバーレイ&カラー		
	14	テスト	後期内容		
	15	回答			
評価方法					
テキスト 参考書					

科目名	スタジオアドワーク		
開講期	前後期	単位数	6
講師名	市川 森一		
授業概要	<p>前期は、物撮りを通して、スタジオライティングの基本的な考え方を学びます。 1年生でやってきたことから更に踏み込んで、細部にまでこだわっていきます。</p> <p>後期は、人物のライティングを通して、自由な発想で考えることの大切さを学びます。王道に縛られず、今までに見たことのないような君たちオリジナルの表現を見つけることが目標です。</p>		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	授業の概要	年間授業計画、授業の目的について、スタジオ機材の使い方
	2	切り抜き	切り抜きについて 缶を被写体に、メインライトとハイライトを理解する。
	3		
	4		
	5		
	6		切り抜き
	7		
	8		
	9		合成前提の撮影について photoshop の使い方も含めて、合成のやり方を理解する
	10		
	11		
	12		
	13		
	14	まとめ	前期内容の復習
	15	まとめ	前期内容の復習
後期	1	模写	プロの写真を真似る 各自がいいと思った写真を参考にして、同じライティングを再現する 被写体は人物の予定
	2		
	3		
	4	自然光再現	自然光を再現する 各自が外で撮影してきた光の写真を参考にして、スタジオでライティングを作ってみる
	5		
	6		
	7	写真以外を参考に	絵画・映画・アニメ等、写真以外の表現を参考にして、ライティングを作ってみる
	8		
	9		
	10	色彩から考える	色の観点から、画作りについて考える
	11		
	12	場所を活かす	スタジオ以外の場所で、場を活かしたライティングを考える
	13		
	14	動きを考える	時間の観点から、写真表現の可能性を考える
	15		
評価方法	出席状況、課題、授業態度等		
テキスト 参考書			

2025		区分	必修	対象	Ⅱ 部2年 ファッションポートレートゼミ
科目名	ファッションポートレート				
開講期	前後期		単位数	6	
講師名	河野 鉄平				
授業概要	ポートレートライティングで大事なことは、照射される光の状況をしっかり把握し認識しながら光を組み上げていくことに他なりません。その上で、被写体である生身の人間としっかり対峙し撮影に臨み、表現していきます。ライティングで用いるアタッチメントは筆先です。それぞれにどのような描き方ができるのか、理解しないことにはうまく光を使って描くことはできません。授業ではアタッチメントを利用しながら、ライティングを行う上での心構えや基礎的なテクニック、そして実践的なテクニックを習得していきます。プロモデルの撮影は前後期で2回ずつ、講評と振り返りを含めて行います。授業ではカメラ、レンズ、露出計、メディアを持参ください。授業内容はクラスのスキルに合わせて変更することがあります。				
授業計画	回数	主題・目的	授業予定		
前期	1	授業説明	自己紹介 ポートレートライティングの概要/標準ズームリフレクターの効果		
	2	基礎1	角度、高さ、距離を踏まえたポートレートライティングの基礎、ソフトボックス概要		
	3	基礎2	アンブレラの種類と正しい使い方		
	4	基礎3	オパライトを使ったライティング		
	5	基礎4	バック飛ばしのバリエーション（半身）		
	6	基礎5	バック飛ばしのバリエーション（全身）		
	7	テスト撮影	これまでの習得事項を踏まえたモデル撮影のための準備		
	8	モデル撮影①	これまでの習得事項を踏まえたモデル撮影		
	9	作品講評	モデル撮影講評/カラーバック紙の効果		
	10	基礎6	トップライトを組み合わせたライティング		
	11	基礎7	リムライト・逆光を利用したライティング		
	12	基礎8	紗幕を組み合わせたライティング		
	13	基礎9	硬い光で撮るライティング		
	14	テスト撮影	これまでの習得事項を踏まえたモデル撮影のための準備		
	15	モデル撮影②	これまでの習得事項を踏まえたモデル撮影		
後期	1	作品講評	モデル撮影講評/前期の復習		
	2	応用1	シャドウを演出する仕組み		
	3	応用2	シャドウを作るライティング		
	4	応用3	ピンスポットを使ったライティング		
	5	応用4	カラーフィルターを使ったライティング①		
	6	応用5	カラーフィルターを使ったライティング②		
	7	応用6	カラーフィルターを使ったライティング⑥		
	8	テスト撮影	これまでの習得事項を踏まえたモデル撮影のための準備		
	9	モデル撮影③	これまでの習得事項を踏まえたモデル撮影		
	10	応用7	日中シンクロの基本（1灯ライティング）		
	11	応用8	ハイスピードシンクロ撮影		
	12	応用9	カラーフィルターを組み合わせた日中シンクロ		
	13	テスト撮影	これまでの習得事項を踏まえたモデル撮影のための準備□		
	14	モデル撮影④	屋外での日中シンクロ		
	15	作品講評	モデル撮影講評/一年のまとめ		
評価方法	出席、課題を総合的に評価				
テキスト 参考書					

2025		区分	必修	対象	Ⅱ部2年 フォトクリエイティブゼミ
科目名	フォトクリエイティブ演習				
開講期	前後期		単位数	3	
講師名	田 凱				
授業概要	<p>この授業では、写真を研究するという視点から、写真の表現と技法を学んでいきます。写真表現の形式を習うよりも、勉強、研究することで自分自身の内面を知り、外面としての社会とどう関わるかを学習し、自分の作品づくりの根幹を形成していきます。</p> <p>実際には、写真に写りこんでいる「現実」とを捉え、そこから写真というシステム構造が出来上がっていることを体験していきます。次に、「現実」という要素が写り込んだ写真について、そこから見えてくる思いや感じたことを文章化し、視覚認知を向上していきます。写真を作る主観的な側面と、写真を見て感想を書く客観的な側面とを合わせて学ぶことで、自分自身の写真的な感覚と意識をみがいていきます。</p>				
授業計画	回数	主題・目的	授業予定		
前期	1	説明	授業の内容説明 個人面談		
	2	講義 ディスカッション 講評	課題① 経過確認・ブラッシュアップ		
	3		課題① 経過確認・ブラッシュアップ		
	4		課題① 経過確認・ブラッシュアップ		
	5		課題① 講評・評価／次回課題発表		
	6		課題② 経過確認・ブラッシュアップ		
	7		課題② 経過確認・ブラッシュアップ		
	8		課題② 経過確認・ブラッシュアップ		
	9		課題② 講評・評価／次回課題発表		
	10		課題③ 経過確認・ブラッシュアップ		
	11		課題③ 経過確認・ブラッシュアップ		
	12		課題③ 経過確認・ブラッシュアップ		
	13		課題③ 講評・評価／次回課題発表		
	14		前期最終課題(課題④)		
	15	まとめ	前期最終課題(課題④)		
後期	1	説明	授業の内容説明 個人面談		
	2	講義 ディスカッション 講評	課題⑤ 経過確認・ブラッシュアップ		
	3		課題⑤ 経過確認・ブラッシュアップ		
	4		課題⑤ 経過確認・ブラッシュアップ		
	5		課題⑤ 講評・評価／次回課題発表		
	6		課題⑥ 経過確認・ブラッシュアップ		
	7		課題⑥ 経過確認・ブラッシュアップ		
	8		課題⑥ 経過確認・ブラッシュアップ		
	9		課題⑥ 講評・評価／次回課題発表		
	10		課題⑦ 経過確認・ブラッシュアップ		
	11		課題⑦ 経過確認・ブラッシュアップ		
	12		課題⑦ 経過確認・ブラッシュアップ		
	13		課題⑦ 講評・評価／次回課題発表		
	14		後期最終課題(課題⑧)		
	15	まとめ	後期最終課題(課題⑧)		
評価方法	出席回数を重視し、課題、レポートの提出回数を評価の基準にします				
テキスト 参考書	適宜指示します。				



科目名	ムービー制作演習		
開講期	前後期	単位数	6
講師名	栗林 武		
授業概要	<p>動画制作の基礎を学ぶ。 編集ソフトの基本的な使い方からAfterEffectsを使った、映像効果・簡単なアニメーションまでを1年を通して学んでいきます。</p>		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	説明	授業内容説明・映像概要
	2	動画とは	動画の知識・成り立ちなど
	3	実習	動画撮影の方法
	4		取り込みと動画編集の流れ
	5		Premiere Pro基礎（エフェクトやトランジションについて）
	6		Premiere Pro基礎（ムービー書き出し等）
	7		Premiere Pro基礎（静止画のモーショントラッキングについて）
	8		Premiere Pro基礎（簡単なタイトル作成）
	9	課題1	自分の写真で作品集動画を作る
	10		提出
	11		絵コンテの説明
	12		街紹介動画の説明・準備
	13	課題2	街紹介動画を作る
	14		
	15		提出
後期	1	実習	イラストレーター基礎
	2		〃
	3		〃
	4	課題3	名刺作成
	5		提出
	6	実習	AE基礎（サンプル動画の作成）
	7		〃
	8		〃
	9		〃
	10	課題4	CMのタイトル制作
	11		CM制作
	12		
	13		
	14		提出
	15	予備日	
評価方法	提出された課題の完成度と授業出席数		
テキスト 参考書			

科目名	映像表現論		
開講期	前後期	単位数	6
講師名	調 文明		
授業概要	洞窟壁画が示すように、映像は文字よりも先に表現のメディアとして登場し、多彩な技術革新を経ながら今日にいたるまで様々な事を外部化し後世に伝えてきました。そこで、本講義では映像の起源から端を発し、主に美術と写真のつながりを中心として、ピクトリアリズム、モダニズム、戦後美術、現代美術というおおまかな時代区分にしたがいながら、各時代の映像表現を詳細に考察していくことにします。		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	授業紹介	イントロダクション
	2	前史	映像の起源
	3	前史+ワークショップ	光学機器によるイメージメイキング
	4	歴史概説	写真技術小史
	5	ピクトリアリズム	世紀転換期のピクトリアリズムにおける写真と絵画Ⅰ
	6	ピクトリアリズム	世紀転換期のピクトリアリズムにおける写真と絵画Ⅱ
	7	モダニズム	モダニズムにおける芸術表現Ⅰ：未来派とフォト・ディナミズム
	8	モダニズム	モダニズムにおける芸術表現Ⅱ：ニューヨーク・ダダ（マルセル・デュシャン）とレディメイド
	9	モダニズム	モダニズムにおける芸術表現Ⅲ：ベルリン・ダダとフォト・モンタージュ
	10	ワークショップ	フォト・モンタージュを制作する
	11	モダニズム	モダニズムにおける芸術表現Ⅳ：シュルレアリスムとオートマティスム
	12	映像資料	ドキュメンタリー映画をとおして20世紀美術を知る
	13	モダニズム	20世紀のアメリカ近代美術Ⅰ
	14	モダニズム	20世紀のアメリカ近代美術Ⅱ
	15		まとめと振り返り
後期	1	歴史概説	複製技術小史
	2	歴史概説	イズムからアートへ：20世紀美術と複製技術
	3	戦後美術	戦後美術をたどる：ポップアート
	4	映像資料	ドキュメンタリー映画をとおしてアンディ・ウォーホルを知る
	5	戦後美術	戦後美術をたどる：ミニマルアート
	6	戦後美術	戦後美術をたどる：コンセプチュアルアート
	7	ワークショップ	コンセプチュアルアートに基づいたアーティストブックを制作する
	8	映像資料	『ハープ&ドロシー』をとおして現代美術を知る
	9	現代美術	現代美術と写真：ファウンド・フォトを用いた表現
	10	現代美術	現代美術と写真：セルフ・ポートレイトについてⅠ
	11	現代美術	現代美術と写真：セルフ・ポートレイトについてⅡ
	12	ワークショップ	ファウンド・フォトを用いたアーティストブックを制作する
	13	サブカルチャー	サブカルチャーと写真Ⅰ
	14	サブカルチャー	サブカルチャーと写真Ⅱ
	15	サブカルチャー	サブカルチャーと写真Ⅲ
評価方法	平常点（出席日数や授業参加度など）と期末レポート（もしくは授業内課題）の総合評価。ただし、授業内課題はすべて提出していることが成績評価の前提条件となります。		
テキスト 参考書	参考文献は授業で適宜紹介します。		

科目名	写真表現演習		
開講期	前後期	単位数	6
講師名	柳本 史歩		
授業概要	<p>今授業ではこれまで習得した技術を生かし、作品づくりや関心の幅を広げてゆくことを目的とします。</p> <p>撮影技術は日々進歩をしています。誰でもがある程度綺麗に撮影することができ、またプリントすることが出来るようになりました。昨今社会で求められているスキルは撮影技術の向上だけではなく、そうした機材を使って何を撮るかといった部分であると思います。これは作家活動とは離れている分野でも等しく求められる要素です。</p> <p>今授業では作品づくりを短期的に繰り返し、自分の本質を探してゆく作業を行います。課題を通し、写真を見ることや見せることへの楽しみを再確認してゆくことを試みます。</p>		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	ガイダンス	ガイダンス 後期作品づくりの解説と進行について
	2	講義	ポートフォリオ作成の進行確認
	3	実習	第1回フィールドワーク
	4	実習	第1回フィールドワークの報告と成果確認
	5	実習	第2回フィールドワーク
	6	実習	第2回フィールドワークの報告と成果確認
	7	実習	後期作品の中間報告
	8	実習	後期作品の中間報告
	9	実習	第3回フィールドワーク
	10	実習	第3回フィールドワークの報告と成果確認
	11	実習	第4回フィールドワーク
	12	実習	第4回フィールドワークの報告と成果確認
	13	実習	ポートフォリオの作成
	14	実習	ポートフォリオの作成
	15	まとめ	ポートフォリオの発表とまとめ
後期	1	ガイダンス	ガイダンス ポートフォリオについて
	2	講義	第1回課題_1st作品制作について 撮影の計画作成
	3	実習	第1回課題_1st作品制作について 作品制作
	4	実習	第1回課題_1st作品制作について 前回授業の結果報告と作品制作
	5	実習	第1回課題の1st作品制作について 講評と次回撮影の打ち合わせ
	6	実習	第2回課題_2nd作品制作について ポートフォリオについて
	7	実習	第2回課題_2nd作品制作について 作品制作
	8	実習	第2回課題_2nd作品制作について 前回授業の結果報告と作品制作
	9	実習	第2回課題_2nd作品制作について 前回授業の結果報告と作品制作
	10	実習	第2回課題_2nd作品制作について 講評と次回撮影の打ち合わせ
	11	実習	第3回課題_3rd作品制作について 作品制作
	12	実習	第3回課題_3rd作品制作について 前回授業の結果報告と作品制作
	13	実習	第3回課題_3rd作品制作について 前回授業の結果報告と作品制作
	14	実習	第3回課題_3rd作品制作について 前回授業の結果報告と作品制作
	15	まとめ	第3回課題_発表 前期のまとめ
評価方法	出席と課題提出数に準じます。		
テキスト 参考書	その都度紹介します。		

科目名	スタジオライティング		
開講期	前後期	単位数	3
講師名	出水 恵利子		
授業概要	<p>光の方向性、感性を表現するための、技術力を磨くことを目的とする。画像処理等で仕上げず、撮影力を身につける。光の考え方、基本ライトポジション、機材の活用方法など。人数によって、グループ分けをし、班ごとのスタジオ演習となる。課題の理解度が低い場合は、授業計画表とは異なり、同じことを何度も演習いたします。課題は、授業の時間内スタジオで仕上げること。</p>		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1		機材の使用方法・セッティングの基礎の確認
	2		テーブルトップ・ライトポジション（ボール・白い石鹼・卵）
	3		白バック／白い被写体／フォーク／ヒストグラムの確認・写り込み
	4		黒バック／黒い被写体・フォーク／ヒストグラムの確認・写り込み
	5		カトラリー・イメージ
	6		缶・シルエット
	7		缶・切り抜き
	8		缶撮影イメージ
	9		透過光撮影 コップ 写り込み、エッジの確認
	10		透過光撮影 ペットボトル切り抜き
	11		透過光ウィスキーボトルイメージ撮影
	12		透過光ビール 泡
	13		透過光イメージ撮影 透過物
	14		透過光イメージ撮影 透過物 花
	15		写り込みを活用したイメージ撮影・課題提出
後期	1		三面見せ 菓子箱・ティッシュボックス 切り抜き
	2		三面見せ 菓子箱・ティッシュボックス イメージ
	3		椅子・傘 大きい被写体撮影
	4		パン撮影
	5		パン撮影イメージ
	6		ケーキ撮影
	7		ケーキ撮影イメージ
	8		自由食材イメージ撮影
	9		革靴 黒バック
	10		革靴 背景自由イメージ撮影
	11		作品研究
	12		作品研究
	13		時計 課題未提出・再殺指導 再撮影
	14		時計 課題未提出・再殺指導 再撮影
	15		課題作品発表／課題提出／自由撮影
評価方法	授業採点方法は、課題提出と出欠席です。欠席1回につきマイナス3点とします		
テキスト 参考書			

2025	区分	必修	対象	全学年
科目名	特別ワークショップ			
開講期	前後期	単位数	※	
講師名	本校講師・招聘講師			
授業概要	時代を象徴する国内外の写真家、業界で注目されているプロカメラマン、新進気鋭のフォトグラファーなどをお招きします。オリジナル作品の本人による解説や出席者の作品講評やワークショップなど、学生自身の創作意欲を高めます。			
評価方法	出席			
備考	招聘講師との日程調整が確定次第、掲示にて発表。学外のギャラリー等でも実施します			

2025		区分	必修	対象	全学年
科目名	NPIポートフォリオコンペティション				
開講期	後期	単位数	※		
講師名	本校講師				
授業概要	学生が自主制作したポートフォリオから最優秀賞や優秀賞、審査員賞などを選出するコンペティションです。制作を通してポートフォリオの構成や表現方法を学び、客観的な評価を受けることで自分の作品に対する理解力を深めます。				
評価方法	課題提出、内容				
備考					

2025		区分	必修	対象	全学年
科目名	海外研修：アルル・パリ／イタリア、台湾、フランス周遊等				
開講期	前期	単位数	※		
講師名	—				
授業概要	<p>学校指定の研修は、各国から1カ国を選択します。 単に海外へ行く旅行ではなく、現地の人々や異文化と撮影取材で直接触れることで国際的な視野を磨くことができる研修合宿です。</p> <p>【フランス：アルル、パリ研修】（3年制 総合2年生および希望者）x 世界から最新の写真表現や著名な写真家の作品が集まる「アルル国際写真祭」に参加します。世界の写真表現の現在を知ることが目的です。また、パリでは、ルーブル美術館や欧州写真美術館等の見学を行い、美術的、文化的な素養を養う機会となる研修旅行です。</p> <p>【他研修】（2年制2年生および希望者） 海外の文化を体感する研修です。豊かな自然や世界遺産など、様々な撮影スポットを訪れ、各国の歴史、文化、生活にふれることができます。</p>				
評価方法					
備考	出発前に研修指導あり。研修先は状況により変更する場合があります。				

2025		区分	必修	対象	I 部2年FW
科目名	2年次海外フィールドワーク研修 マレーシア				
開講期	後期		単位数	※	
講師名	鈴木邦弘／飯塚明夫				
授業概要	海外フィールドワークでも訪れる国のひとつであるマレーシアにおける実践的な研修合宿です。3年次の海外フィールドワークを想定し、企画立案や行動計画をはじめ実際にアジアでの取材撮影を経験することで長期取材撮影の予行演習とします。				
評価方法	出席、課題				
備考	詳細はフィールドワークの授業内にて行います				

2025	区分	必修	対象	全学年
科目名	期末・進級・卒業審査			
開講期	前後期末	単位数	※	
講師名	—			
授業概要	各学期末に半年間の学習成果を確認する審査を実施します。後期末の審査は、各年次に合わせて進級審査・卒業審査となります。1年次は共通課題、2～3年次はゼミ課題になります。			
評価方法	出席、課題内容			
備考	課題は掲示発表され、テーマや規定枚数は各学期・学年・ゼミ等により異なります。			

2025	区分	必修	対象	I / II 部 卒業年度生
科目名	卒業作品展			
開講期	後期	単位数	※	
講師名	—			
授業概要	卒業作品展は、在学中に制作した作品制作の成果を学外において発表するものです。公の場において作品を公開し、展示方法、設営などの経験を通じて作品のプレゼンテーションについての見識を深めます。			
評価方法	作品内容、展示設営、写真展運営			
備考	何れも会場の設営から解体、受付まで担当します。			

2025	区分	必修	対象	I / II 部 卒業年度 生
科目名	卒業作品集			
開講期	後期	単位数	※	
講師名	—			
授業概要	作品のセレクトからレイアウトまで、実際の編集作業を体験しながら作成し、1冊の作品集としてまとめます。			
評価方法	作品内容、編集作業			
備考	最終入稿は2～3月頃。完成受取は8～9月頃の予定です。カラー作品はカラー頁、モノクロ作品はモノクロ頁に掲載され、学科や名前順の記載となります。			

2025

区分

選択

対象

全学年

科目名	進路・就職ガイダンス		
開講期	前後期	単位数	※
講師名	—		
授業概要	卒業後を見据えて1年次から実施します。業界の将来性や動向を含めて就職環境を学び、目標とする企業の内定を目指します。		
評価方法	出席		
備考	テキスト、配布資料あり		

2025

区分

選択

対象

全学年

科目名	進級・卒業オリエンテーション		
開講期	随時	単位数	※
講師名	—		
授業概要	学期の始めに開催される始業説明会や進級オリエンテーションなど、学習プランの組み立てから個別相談まで含めて指導し、卒業までのスムーズな学習環境を整えます。		
評価方法	出席		
備考	テキスト、配布資料あり		



2025	区分	選択	対象	全学年
科目名	写真技能検定			
開講期	前後期	単位数	※	
講師名	—			
授業概要	厚生労働省認可の国家検定を在学中に取得することを目指します。初級は3級から、合格すると「写真技能士」の称号を得ます。			
評価方法	取得証明書の提出			
備考				

2025	区分	選択	対象	全学年
科目名	DTP関連資格検定			
開講期	前後期	単位数	※	
講師名	—			
授業概要	DTPに関わる者に必要と思われる各種アプリケーションソフトの検定やそれに準じた資格などを単位として認定します。			
評価方法	取得証明書の提出			
備考				

2025	区分	選択	対象	全学年
科目名	写真関連資格検定			
開講期	前後期	単位数	※	
講師名	—			
授業概要	写真業界に関わる者に必要と思われる諸分野の検定や、それに準じた資格などを単位として認定します。			
評価方法	取得証明書の提出			
備考				

2025	区分	選択	対象	全学年
科目名	学外写真展認定制度			
開講期	前後期	単位数	※	
講師名	前後期			
授業概要	審査制度を設けたギャラリーでの写真展や、オリジナリティあふれる個展などに対して、単位として認定する制度です。			
評価方法	作品内容、企画・運営			
備考	本校指定の報告書を提出			

2025	区分	選択	対象	全学年
科目名	学外公募展（学校指定）入選・受賞認定制度			
開講期	前後期	単位数	※	
講師名	—			
授業概要	本校の指定する公募展に応募、審査を通過して入選や受賞した場合、「学外写真展認定制度」と併せて単位として認定します。			
評価方法	作品・受賞			
備考	本校指定の報告書を提出			

2025	区分	選択	対象	全学年
科目名	インターン制度			
開講期	後期	単位数	※	
講師名	—			
授業概要	学生が一定期間、写真業界などの企業の中でアシスタントとして働き、就業体験を行い、これを単位認定します。ただし、当校がインターン先として認定した企業に限ります。			
評価方法	出席、インターン制度採用企業の評価			
備考	本校指定の勤務報告書を提出			